

# 静岡県の 授業づくり指針

国語



平成24年3月  
静岡県教育委員会



## はじめに

静岡県教育委員会では、各学校における授業力向上を支援するため、県内の子どもの実態を踏まえて、平成20年3月に告示された学習指導要領の内容を具体化した「静岡県の授業づくり指針」を作成いたしました。

これは、平成17年1月に刊行された「静岡県版カリキュラム」の増補改訂版であり、それまでの5教科（国語，社会，算数/数学，理科，外国語）に体育/保健体育，音楽，図画工作/美術，家庭/技術・家庭の4教科を加えた9教科において、静岡県の子どもたちに身に付けさせたい学習内容等を具体的にまとめたものです。

今回の増補改訂に当たり、これまで親しまれてきた「静岡県版カリキュラム」の名称を、「静岡県の授業づくり指針」に改めることにいたしました。これは、「確かな学力」の育成に向けた魅力ある授業づくりの「指針」として、その内容を明確に表すためです。

「静岡県の授業づくり指針」は、平成20年3月に告示された学習指導要領に基づき、小・中・高等学校で扱う学習内容を体系的・系統的に捉えた上で、小学校・中学校の9年間で習得すべき内容を明確にすることを中心に、「確実に身に付けさせたい内容」や「発展的な学習の内容例」，さらに『「静岡県ならではの」を生かした内容」等で構成しています。

今、各学校では、授業改善の取組を推進する中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、各教科等の知識・技能を活用する学習活動の充実が一層求められています。そのような活動においては、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等に加え、これらの能力の基盤となる言語能力を育成することが重要であり、校内研修などを通して授業の質を高めるための更なる工夫が求められています。

各学校において、この「静岡県の授業づくり指針」をよりどころとし、子どもの学習の実態に即したカリキュラムの編成や実施に全教職員が一丸となって取り組むことにより、静岡県における授業が高い水準に達し、「確かな学力」が育成されることを願っています。

「静岡県の授業づくり指針」は、作成委員の皆様の多大な御協力を得て作成されました。御指導・御支援いただいた委員の皆様の御尽力に、心から感謝申し上げます。

平成24年3月

静岡県教育委員会 教育長 安倍 徹

## 目 次

第1章 「静岡県授業づくり指針」の活用にあたって	1
第2章 国語科	
1 趣旨と内容	
(1) 「静岡県授業づくり指針 国語科」の趣旨	4
(2) 「静岡県授業づくり指針 国語科」の内容	5
(3) 第1章との対応	6
(4) 国語科における「言語活動の充実」	7
(5) 国語科における学習評価について	12
(6) 国語科の授業づくりのポイント	14
2 目標及び学習内容の系統	
(1) 系統の見方	16
(2) 領域別配当時数	16
(3) 学年別漢字配当表	17
(4) 目標の系統	18
(5) 学習内容の系統	20
(6) 年間指導計画例	30
3 小学校・中学校・高等学校における学習	
(1) 指導計画例の見方	34
(2) 「A 話すこと・聞くこと」	36
(3) 「B 書くこと」	50
(4) 「C 読むこと」	64
(5) 伝統的な言語文化に関する事項	84
(6) 言葉の特徴やきまりに関する事項	88
(7) 文字（小学校）・漢字（中学校）に関する事項	97
(8) 書写に関する事項	101
4 資料等の利用を図る学習活動	
(1) 学習指導要領で求められている能力	106
(2) 全国学力・学習状況調査における資料等の利用を図る能力	107
(3) 資料等を利用する能力を高める言語活動の例	108
(4) 資料等を利用した指導計画例	108
(5) 学校図書館の利用	111
(6) 学校図書館を利用した指導計画例	112
5 読書活動の充実	
(1) 日常の読書活動につなげる指導	115
(2) 読書活動の現状	115
(3) 読書活動の様々な取組	116
6 郷土ゆかりの文学	
(1) 郷土ゆかりの文学を扱う目的	118
(2) 郷土ゆかりの文学を用いた指導計画例	118
(3) 郷土ゆかりの文学に関する参考資料	126
(4) 静岡県の子どもに紹介したい作品の例（郷土ゆかりの文学 資料）	127
7 高等学校学習指導要領抜粋	145
8 年間指導計画ワークシート	148
9 授業づくり規準（国語科）	

## 第1章 「静岡県の授業づくり指針」の活用に当たって

### 1 作成の経緯

県教育委員会では、平成15年度に、有馬朗人元文部大臣に座長をお願いして、「確かな学力」育成会議を発足させました。育成会議では、平成16年3月に「確かな学力」を「基礎・基本」と「自ら学び自ら考える力」の両者を指すものと定義付け、この両者をバランスよく培っていくための具体策を提言しています。知識・技能と思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲等を総合的かつ全体的にバランスよく身に付けさせ、子どもたちの学力の質を高めていくということが重視されてきました。

「静岡県版カリキュラム」は、このような学力観に立ち、「確かな学力」の育成に向けた魅力ある授業づくりを支援するために作成されました。平成16年度末に、公立の小学校、中学校の教員に配布され、各学校の授業計画作成等のよりどころとなってきました。

平成20年3月に、小学校、中学校の新しい学習指導要領が告示されたことに伴い、既存の「静岡県版カリキュラム」（国語、社会、算数/数学、理科、外国語）を改訂するとともに、新たに体育/保健体育、音楽、図画工作/美術、家庭/技術・家庭の4教科について作成することとしました。また、名称については、編集内容が本県における「確かな学力」の育成に向けた魅力ある授業づくりの「指針」を示したものであることから、「静岡県の授業づくり指針」と改めることとしました。

### 2 学習指導要領の改訂

平成18年12月に教育基本法が改正され、それに伴い学校教育法等が改正されました。このような教育の根本に遡った法改正を踏まえ、新しい学習指導要領は改訂されました。「小学校学習指導要領解説 総則編（平成20年8月）文部科学省」において、以下のように「改訂の基本方針」が示されています。（下線部分は、「中学校学習指導要領解説 総則編（平成20年8月）文部科学省」と異なるもので、【 】内に「中学校学習指導要領解説 総則編」の記述内容を示しています。）

#### ① 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。

平成8年7月の中央教育審議会答申（「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」）は、変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は、基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」とであると提言した。今回の改訂においては、生きる力という理念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成を重視している。

このため、総則の「教育課程編成の一般方針」として、引き続き「各学校において、児童【生徒】に生きる力をはぐくむことを目指すこととし、児童【生徒】の発達の段階を考慮しつつ、知・徳・体の調和のとれた育成を重視することが示された。

また、教育基本法改正により、教育の理念として、新たに、公共の精神を尊ぶこと、環境の保全に寄与すること、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与することが規定されたことなどを踏まえ、内容の充実を行った。

#### ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

以上のような観点から、国語、社会、算数及び理科の授業時数を増加するとともに、高学年に外国語活動を新設した。【国語、社会、数学、理科及び外国語の授業時数を増加した。】

### ③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

豊かな心や健やかな体を育成することについては、家庭や地域の実態（教育力の低下）を踏まえ、学校における道徳教育や体育などの充実を重視している。

このため、道徳教育については、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることを明確化した上で、発達の段階に応じた指導内容の重点化や体験活動の推進、道徳教育推進教師（道徳教育の推進を主に担当する教師）を中心に全教師が協力して道徳教育を展開することの明確化、先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなど児童【生徒】が感動を覚える教材の開発と活用などにより充実することを示している。また、体育については、児童が自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにすることが大切であることから、低・中学年において授業時数を増加し、【3学年を通じて保健体育の授業時数を増加し、】生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことと体力の向上に関する指導の充実を図るとともに、心身の健康の保持増進に関する指導に加え、学校における食育の推進や安全に関する指導を総則に新たに規定するなどの改善を行った。

## 3 「静岡県の授業づくり指針」の構成

「静岡県の授業づくり指針」は、静岡県の子どもの実態を踏まえ、新しい学習指導要領を具体化し、各学校における授業づくりや授業力向上を支援するものです。また、「静岡県版カリキュラム」の基本的構成を継承しています。小学校、中学校、高等学校で扱う学習内容を体系的・系統的に捉え、9年間で子どもたちが習得すべき内容を明確にし、主に以下の四つの内容で構成しました。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 確実に身に付けさせたい内容</li><li>(2) 発展的な学習の内容例</li><li>(3) 「静岡県ならではの」を生かした内容</li><li>(4) 小学校、中学校、高等学校の指導内容を体系的・系統的に捉えた資料</li></ol> |
|--|

### (1) 「確実に身に付けさせたい内容」について

学習指導要領及びその解説を基に、学習指導要領の各教科の「目標」や「内容」を具体化した明瞭化したりすることにより、全ての子どもに対して確実に身に付けさせたい内容をまとめました。そのために「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」ことを重視しました。

また、各教科の特性に合わせて、学習指導要領の「内容」の中心となる要素を示したり、上級学年とのつながりを明示したりするなど、指導のポイントが分かるようにしました。

#### 【各学校で活用する際の留意点】

ここに示した内容が子どもたちに確実に身に付くよう、年間指導計画の作成や授業の工夫改善に努めてください。

## (2) 「発展的な学習の内容例」について

学習指導要領では、個に応じた指導を充実する観点から、子どもの学習状況などその実態等に  
応じて、学習指導要領に示していない内容を加えて指導することも可能であることを示していま  
す。

ここでは、各学校の参考となるように発展的な学習の内容としてふさわしいと考えられるもの  
を例示しました。

### 【各学校で活用する際の留意点】

この内容は例として示したものです。一人一人の子どもや学校の実態に合わせて活用してくだ  
さい。また、発展的な学習の指導に当たっては、子どもの発達の段階に十分配慮して指導するよ  
うにしてください。

## (3) 『静岡県ならではの』を生かした内容』について

静岡県の自然、文化、産業の中には、各教科の学習指導要領におけるねらいを実現するための  
素材が数多くあります。そのような素材を『静岡県ならではの』を生かした内容』に取り入れてい  
ます。

また、静岡県の子どもの学力の現状を十分に把握した上で、静岡県の子どもに身に付けさせたい  
内容を提示することを心掛けました。

### 【各学校で活用する際の留意点】

学校や地域の実態に合わせて、子どもたちが地域社会に関心を持つよう配慮しながら、指導法  
や教材を工夫してこの内容を扱うようにしてください。

## (4) 小学校、中学校、高等学校の指導内容を体系的・系統的に捉えた資料

学習指導要領は、心身の発達の段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成することを  
求めています。「確かな学力」を育成していくためには、指導計画を立てる際に、各校種の教員が  
小学校から高等学校にかけての各教科の指導の流れを体系的・系統的に捉える視点を持つことが  
大切です。そこで、各教科や指導内容の特性に応じて構成等を工夫しながら、小学校から高等学  
校にかけての指導内容を体系的・系統的に捉えた資料を作成しました。

### 【各学校で活用する際の留意点】

この資料は、既に学習したことや上級学年で学習することのつながりを確認したり、小学校・  
中学校・高等学校の学習を見通して指導計画を立てたりするための資料として活用してください。  
また、子どもの学習のつまづきを発見する資料とするなど、各学校において創意工夫して活用し  
てください。

※静岡県教育委員会の刊行している他の冊子や配布物との関係については、以下のようになります。

「静岡県教職員研修指針」は、学校を取り巻く様々な課題への対応等を踏まえ、「頼もしい教職  
員」を目指す本県の教職員が、授業力、生徒指導力等の資質・能力の向上を図るため、研修改善  
の方向性や研修体系を示したものです。

「よりよい自分をつくっていくために」は、子ども一人一人の主体的な学びの姿勢を高めてい  
くために、教師が行うべきことを子どもの視点から示したものです。

「授業づくり規準」は、教師の授業づくりの目標や支えとなるように、授業力を学習指導力と  
教科指導力という二つの側面から示したものであり、授業づくりの心得として活用していただく  
ように作成しています。

「静岡県の授業づくり指針」は、学習指導要領をわかりやすく解説し、「確かな学力」育成のため  
の授業づくりに役立つよう、具体的な実践指導例等を示しています。

是非、「よりよい自分をつくっていくために」、「授業づくり規準」を基盤とし、実践の具体として  
「静岡県の授業づくり指針」を有効に活用してください。

※各教科の内容において、字句の表記は、学習指導要領及びその解説の引用部分以外は、改訂常用  
漢字表（平成 22 年 11 月 30 日告示）に従って表記してあります。

## 第2章 国語科

### 1 趣旨と内容

#### (1) 「静岡県授業づくり指針 国語科」の趣旨

学習指導要領に示された国語の目標の根底には、中央教育審議会答申（平成20年1月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」、以下「中教審答申」と略記）に示された改善の基本方針があります。

国語科については、その課題を踏まえ小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。「中教審答申」p.74

国語科では、言語の教育としての指導を重視し、実生活や各教科等で生きて働く国語の能力の育成が求められています。特に、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力」「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」「我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむ態度」を身に付けることが求められています。

国語科で身に付けた言語能力や態度を、国語のみならず、実生活や各教科等においても生かすことができれば、児童生徒は国語を学ぶ意義や価値を再確認し、国語に対する関心を一層深め、国語を尊重する態度を養っていくことができるでしょう。

学習指導要領第2章第1節国語では、基礎的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けるために、言語活動を通して指導事項(言語能力)を指導することを重視しています。そして、言語活動を通して、国語科における「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む態度の向上」を図るとしています。

なお、平成19年度から行われてきた全国学力・学習状況調査において、静岡県の児童生徒の国語の学力は、おおむね良好であるということが明らかになりました。これは、静岡県の各学校において、国語科を校内研修の軸に据えたり、校内における言語環境を整えたりするなどして、日頃から授業改善を積み重ね、全教育活動を通して国語の能力を育んできた成果によるものと考えます。また、「静岡県版カリキュラム」「よりよい自分をつくっていくために」「授業づくり規準」等の効果的な活用も、授業改善につながっていると思われます。

このように、「静岡県の授業づくり指針 国語科」は、学習指導要領のねらい、静岡県の教育振興基本計画（「有徳の人」づくりアクションプラン）、静岡県の児童生徒の学力の実態等を踏まえ、静岡県ならではの豊かな国語教育が展開されることを願って作成しました。特に、学習指導要領改訂の第一の要点である、「言語活動を通して指導事項（言語能力）を指導する」ことに重点を置き、理論及び指導計画例等を掲載しています。



## (2) 「静岡県の授業づくり指針 国語科」の内容

### 「1 趣旨と内容」 p. 4～p. 15

国語科における「言語活動の充実」や「評価の在り方」など、学習指導要領の趣旨を生かした国語の授業を構想するに当たって重視したいことを示しました。

#### 【このようにときに活用できます】

- ・国語科における「言語活動の充実」について知りたいとき
- ・授業を構想する上で、単元目標や言語活動を設定するとき
- ・新学習指導要領の趣旨を生かした学習評価を行うとき

### 「2 目標及び学習内容の系統」 p. 16～p. 33

小学校、中学校及び高等学校の学習内容の系統は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の各領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に分けて示しました。また、小学校学習指導要領の学年別漢字配当表を併せて示しました。

なお、平成21年に示された高等学校学習指導要領では、国語は、「国語総合」「国語表現」「現代文A」「現代文B」「古典A」「古典B」の6科目で構成されていますが、必修科目の「国語総合」を、高等学校国語の科目として例示しました。

#### 【このようにときに活用できます】

- ・小学校、中学校及び高等学校（国語総合）の10年間で、身に付けさせたい力や系統性を確認したいとき
- ・担当している学年の身に付けさせたい力を確認したいとき
- ・新しい単元で指導計画を立てるとき
- ・身に付けさせたい力と児童生徒の実態との違いを把握したいとき
- ・領域別の配當時数を確認したいとき
- ・指導事項に示された内容をバランスよく身に付けさせていくための年間指導計画を作成したいとき

### 「3 小学校・中学校・高等学校における学習」 p. 34～p. 105

「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、学習指導要領の「目標」や「指導事項」に示された言語能力を、言語活動を通して身に付けさせるための指導計画例を示しました。

「伝統的な言語文化に関する事項」「言葉の特徴やきまりに関する事項」「文字(小学校)・漢字(中学校)に関する事項」「書写に関する事項」では、学習指導要領に示された内容の一層の理解を図るために、学習指導要領解説国語編の該当箇所を掲載しました。

#### 【このようにときに活用できます】

##### 「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」

- ・年間を見通した上で、指導事項、言語活動をバランスよく指導したいとき
- ・身に付けさせたい力を明確にした指導計画を立てたいとき
- ・単元を貫く言語活動を位置付けた指導計画を立てたいとき

##### 「伝統的な言語文化に関する事項」「言葉の特徴やきまり（言葉の働きや特徴）に関する事項」「文字（小学校）・漢字（中学校）・漢字に関する事項」「書写に関する事項」

- ・学習指導要領解説に示された内容のポイントとなることを知りたいとき
- ・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の具体的な指導計画例を知りたいとき

「4 資料等の利用を図る学習活動」 p. 106～p. 114

学習指導要領第2章第1節国語では、言語活動の充実を図るに当たって、小学校では「課題に応じて必要な文章や資料を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力」、中学校では「小学校で習得した能力の定着を図りながら、中学校段階にふさわしい文章や資料を取り上げ、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力」、高校では「小・中学校の9年間で身に付けてきた言語能力を総合的に活用しながら、社会人として必要とされる国語の能力の基礎」の育成を重視しています。

【このようなときに活用できます】

- ・ 課題に対応した指導計画を立てたいとき
- ・ 資料等を利用した指導計画を立てたいとき
- ・ 図書館を利用した指導計画を立てたいとき

「5 読書活動の充実」 p. 115～p. 117

言語に関する能力を育むには、読書活動の充実が不可欠です。領域の指導の中で、日常の読書につなげる指導や、読書活動の様々な取組を示しました。

【このようなときに活用できます】

- ・ 領域の指導を日常の読書活動につなげたいとき
- ・ 読書活動の具体例を知りたいとき

「6 郷土ゆかりの文学」 p. 118～p. 144

郷土にゆかりのある文学に触れ、郷土の文化や伝統に対する関心や理解を深められるよう、静岡県の子童生徒に紹介したい作品の例などを示しました。

【このようなときに活用できます】

- ・ 静岡県ゆかりの作品を知りたいとき
- ・ 静岡県ゆかりの作品を用いて指導計画を立てたいとき
- ・ 静岡県ゆかりの文学について教材研究等を行いたいとき

「7 高等学校学習指導要領抜粋」 p. 145～p. 147

参考資料として高等学校学習指導要領の一部を抜粋して示しました。

【このようなときに活用できます】

- ・ 義務教育の学習内容と高等学校の学習内容のつながりを知りたいとき

「8 年間指導計画ワークシート」 p. 148～p. 151

年間指導計画の（領域別）と（月別）のワークシートです。コピーして利用できます。

「9 授業づくり規準（国語科）」

授業における構想、展開、評価、改善のそれぞれの場面で必要な要素が分かります。

(3) 第1章との対応

第1章	第2章
確実に身に付けさせたい内容	3 小学校・中学校における学習（指導計画例） 4 資料等の利用を図る学習活動
発展的な学習の内容例	4 資料等の利用を図る学習活動 5 読書活動の充実
「静岡県ならではの」を生かした内容	6 郷土ゆかりの文学
小・中・高の指導内容を体系的・系統的に捉えた資料	2 目標及び学習内容の系統

※「発展的な学習の内容例」については、上記に示したこと以外に他教科等との連携を通じた指導を含む。

#### (4) 国語科における「言語活動の充実」

##### ア 「言語活動の充実」の概要

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方、近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられる。

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～」p. 1

これからの時代を担う子どもたちには、変化の激しい社会の中で、幅広い知識を基盤として思考力・判断力・表現力等を柔軟に働かせながら、ものの見方や考え方が様々に違う人々と共存していく能力を身に付けることや、一人の人間として自立し、社会の中心的な形成者としての役割を果たしていくことといった、「生きる力」が求められています。ところが、PISA調査等の学力に関する各種の調査の結果から、我が国の児童生徒には、「生きる力」で重視している思考力・判断力・表現力等、学習意欲、学習習慣等について課題があることが分かりました。

※学校教育法第30条第2項では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成すること、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならないことが示されました。

更に、中教審答申の「教育内容に関する主な改善事項」では、とりわけ「思考力・判断力・表現力等」を育むために、各教科等における「言語活動の充実」が第一に挙げられました。

こうした審議等の経過が、新学習指導要領において反映されています。

※①基礎的・基本的な知識・技能 ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度 を、以後「学力の重要な3つの要素」と称する。

##### (7) 各教科等における「言語活動の充実」の位置付け

今回の改訂においては、言語活動の充実を重視している。このため、配慮事項として、各教科等の指導に当たっては、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実が必要であることを示した。「学習指導要領解説総則編」p. 7

各教科等における「言語活動の充実」は、「思考力・判断力・表現力等の育成」を始めとする学力の重要な3つの要素を育み、「確かな学力」、ひいては「生きる力」の育成という、学習指導要領の理念の実現を図ることを目的としています。

「言語活動の充実」は、それ自体が目的ではなく、各教科等の目標を達成するための手立てです。したがって、各教科等の目標を踏まえながら、言語活動を意図的、計画的に位置付け、授業の構成や指導の在り方を工夫・改善していくことが大切になります。

##### (イ) 「思考力・判断力・表現力等」と「言語活動の充実」

中教審答申においては、「思考力・判断力・表現力等」を育むために、次のような学習活動を各教科等において行うことが不可欠であるとしています。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる 「中教審答申」p. 24～25

#### (ウ) 言語の役割を踏まえた言語活動の充実

中教審答申では、「言語は知的活動（論理や思考）だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。」と、言語の役割について述べています。これを受けて「言語活動の充実に関する指導事例集」では、言語の役割を踏まえた言語活動の指導の在り方と留意点について、次のように整理しています。

##### (1) 知的活動（論理や思考）に関すること

ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること

イ 事実等を解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

##### (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること

ア 互いの存在についての理解を深め、尊重していくこと

イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりすること

「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～」p. 7～9

※各項目の詳しい内容については、「言語活動の充実に関する指導事例集」を参照する。

#### イ 国語科における言語活動の充実

国語科においては「言語活動を通して指導事項を指導する」ことは、これまでも示されてきましたが、今回の改訂で言語活動例が「内容の取扱い」から「内容」に移されたことにより、一層重視されたことが分かります。本県においても、国語科の目標の実現を図る上で、効果的に言語活動を設定し、児童生徒の主体的な国語の学習が展開されるよう、授業改善を図っていくことが求められています。

これらのことを受け、「静岡県授業づくり指針 国語科」では、「言語活動を通して指導事項（言語能力）を指導する」学習展開や「言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を育む」ことを意識し、指導計画例を示しました。

#### (ア) 国語科と各教科における言語活動の目的と内容

知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習活動の基盤となるのは、言語に関する能力である。さらに、言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。したがって、今回の改訂においては、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することとしている。

具体的には、言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科においては、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことのそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動を例示した。「学習指導要領解説総則編」p. 53～54

各教科において言語活動の充実を図る上で、基盤となるものは言語に関する能力であり、言語能力を育成する教科の中核となるのが、国語科です。したがって、国語科には、児童生徒が実生活や各教科等の基本ともなる国語の能力を主体的に身に付けていくことができるよう、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが求められています。

また、「言語活動の充実」については、国語科と各教科等では、その目的や内容に、それぞれ特質があります。国語科では「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力」を身に付けていくことに重点が置かれ、各教科等においては、国語科で培った能力を使いながら知識・技能を活用する学習活動を充実させ、目標の実現を図っていくことに重点が置かれています。

こうしたことから、各教科等の言語活動の例として「発表、記録、説明、鑑賞」等が挙げられ、国語科では、これらの言語活動を行う国語の能力を育成することが、各教科等との関連の中で役割として求められています。

#### (イ) 国語科における言語活動の捉え方

各領域では、国語の能力を調和的に育て実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら児童（生徒）主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実に豊かに実現できるように内容を改善した。そのために、各領域の内容を(1)の指導事項に示すとともに、これまでには内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成している。これは、各学年の内容の指導に当たって、内容(1)に示された指導事項を、内容(2)に示されている言語活動例を通して指導することを一層重視したためである。 「学習指導要領解説国語編」 p. 6

基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることに資するよう、実生活の様々な場面における言語活動を具体的に内容に示す。

「学習指導要領解説国語編」 p. 3

国語科という言語活動とは、言語活動例に示されているような、実生活や各教科等に生きて働く特有な活動として捉える必要があります。「話す・聞く」「書く」「読む」といった活動を基盤としながら、低・中学年であれば「紹介する」、高学年であれば「推薦する」など、実生活や各教科等における、その学年で経験すると思われる活動を指しています。

また、言語活動例が「内容の取扱い」から「内容(2)」に位置付けられたことは、示された言語活動例は例示でありながらも、年間で全てを、計画的に偏りなく取り扱う必要があることを意味しています。更に言えば、示された言語活動例以外にも、身に付けさせたい力や教材の特長、児童生徒の実態に応じた的確な言語活動を考えていくことも必要になります。

なお、「基礎的・基本的な知識・技能を活用(する)」とは、国語科においては言語活動を通して言語能力を育む過程であり、この過程において、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育てていきます。「習得したことの活用を図る」については、「活用することで習得を図る」場合も考えられることから、習得と活用は一連の流れの中にあり、一体のものとして捉えます。「習得→活用」といった、一方向のみへ展開するものではないことに留意する必要があります。

#### (ウ) 国語科における言語活動を支えるもの

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることや、国語が果たす役割や特質についてまとめた知識を身に付けるとともに、実際の言語活動において有機的に働くような能力を育てることに重点を置いて構成している。

「学習指導要領解説国語編」 p. 6

「学習指導要領 平成10年告示」国語〔言語事項〕の内容のうち、各領域の内容に関連の深いものについては、実際の言語活動において一層有機的に働くよう、内容(1)の指導事項として位置付けられました。また、言語活動を通して国語の能力を確実に身に付けていくためには、文字力や語彙力などの基礎的な言語に関する知識についても確実に理解を図っていくことが欠かせません。したがって、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、全ての単元において目標を設定し、指導及び評価を行っていくことが大切です。

なお、「学習指導要領 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、「2(1)ア 特定の事項をまとめて(知識をまとめて)指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること」とあるように、児童生徒の実態や必要に応じて、「国語の特質に関する事項」の単元を構想したり、特定の時間を確保して繰り返して指導したりします。

※ 引用における( )は中学校の内容を指します。特にないものは、小・中共通です。

## ウ 「言語活動」の設定の仕方について

単元を構想する上で、言語活動の設定の手順や単元における位置付け、留意点について説明します。

### (7) 言語活動の設定における手順

#### ① 身に付けさせたい力を選択する

年間指導計画に基づき、児童生徒の言語能力の実態を加味しながら、児童生徒に身に付けさせたい力（指導事項・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）を選択します。

一つの単元においては、1領域を設定していくことを基本とします。また、指導事項を1～2事項程度に絞り込み、更に各指導事項の内容を分割するなど、身に付けさせたい力の焦点化を図ります。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についても同様に考えます。

#### ② 言語活動例を選択する

年間指導計画に基づき、身に付けさせたい力を育成するのに適したものを、「言語活動例」から選択します。

指導事項と同じ領域から選択することを基本としますが、場合によっては他領域や他学年から取り上げることや、他のものを設定することも考えられます。その際は、①で位置付けた指導事項を指導する上で、効果的な言語活動例を選択するとともに、年間の中で、確実に全ての言語活動例が偏りなく扱われるよう配慮する必要があります。

#### ③ 教材を選択し、分析する

選択した言語活動を行うのに適した教材を選定し、教材分析を行います。

身に付けさせたい力や言語活動に留意しながら教材を分析し、特長を明らかにするとともに、必要に応じて一部分を用いたり、他の教材と組み合わせたりするなどの工夫をします。

#### ④ 言語活動と身に付けさせたい力を具体化する

選択した言語活動例と身に付けさせたい力を、児童生徒の実態、教材の特長と照らし合わせながら具体化します。その際に、実際に言語活動を行うために必要な言語能力を整理し、重点的に身に付けさせたい力を具体化するとともに、単元において活用させたい言語能力を明確にします。

### (4) 国語科の言語活動の単元における位置付け

国語科の単元の指導過程を構想する際、言語活動は単元を貫くように位置付けます。

言語活動を相互の関連を図らずにばらばらに配置したり、単元の最後に付加的に位置付けたりするのはではなく、言語活動を有機的に単元に位置付け、身に付けさせたい国語の能力を確実に育むことが大切になります。

### (ウ) 言語活動の設定に当たっての留意点

#### ① 言語活動は、身に付けさせたい力（指導事項）を指導するために行う

言語活動そのものが学習の目的とならないように留意します。言語活動は身に付けさせたい力を指導するための手立てであり、指導するに当たって効果的なものを設定します。

#### ② 言語活動を行う際は、各領域の能力を関連させる

話す・聞く、書く、読むなど、様々な領域の言語能力を関連させるよう留意します。各領域の既習の言語能力を活用しながら言語活動を行わせることで、目標とする領域の新たな言語能力を、効果的に育成します。

#### ③ 児童生徒自身が学習過程の見通しを持ち、振り返りができるようにさせる

児童生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう留意します。児童生徒自身が言語活動の目的や見通しを持ち、自らの言語活動を振り返る場を単元に位置付けることにより、自ら学び課題を解決していく能力や、単元で目標とする言語能力を育成します。

## エ 単元目標・評価規準の設定の仕方について

「静岡県授業づくり指針 国語科」では、単元目標を設定するに当たって、次のようなことを重視しています。

### (7) 単元目標の構成

#### ① 単元目標は3点セット

国語科では、単元目標を、以下の3点をセットで構成します。

- ①国語への関心・意欲・態度
- ②領域の指導事項
- ③伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

#### ② 身に付けさせたい力の領域は1領域が基本

「②領域の指導事項」は、1領域で構成するのが基本です。

当然ながら、国語科の学習では、領域を問わず、話す・聞く、書く、読むという全ての活動が行われます。しかし、目標及び評価の対象となる領域は、基本的に1領域です。

例えば、「読むこと」の領域の単元においては、文章を読む活動に加え、解釈したことを文章で書いたり、話し合ったりする活動が行われます。この場合の、書いたり話し合ったりする活動は、「読むこと」の能力を身に付けるための手立てということになります。

なお、教材や学習展開によって効果が期待できる場合には、複数の領域を単元目標に設定することも考えられます。

#### ③ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を、特別に取り上げて指導する場合

古典や言語に関する指導などにおいて、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を取り上げて指導する場合は、以下のような構成となります。

- ①国語への関心・意欲・態度
- ③伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### (イ) 単元目標の設定の仕方

単元目標を設定するに当たっては、言語活動の特長が表れるよう、以下のように設定します。

#### ①国語への関心・意欲・態度

各学年の「領域の目標」を基にする。

身に付けさせたい言語能力と態度、言語活動についての関心・意欲・態度を記述する。

#### ②領域の指導事項

選択した領域の「指導事項」（1～2事項）を基にする。

教材の特長・言語活動に即して記述する。

#### ③伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕（1事項）を基にする。

### (ウ) 評価規準の設定の仕方

評価規準を設定するに当たっては、単元目標を基にして、以下のように設定します。

①国語への関心・意欲・態度 ……文末を「～しようとしている。」とする。

②領域の指導事項 ……文末を「～している。」とする。

③言語についての知識・理解・技能 ……文末を「～している。」とする。

単元目標③〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、「言語についての知識・理解・技能」に改める。

※高等学校については、「言語についての知識・理解」とする。

## (5) 国語科における学習評価について

平成 22 年 3 月中央教育審議会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方について」の報告がとりまとめられ、学習評価の考え方や、今後の方向性等について示されました。

学習評価は、学習指導要領に照らし合わせた評価規準を基に児童生徒の学習状況の評価し、その後の指導に生かす「指導と評価の一体化」を図ることで、「確かな学力」及び「生きる力」の育成を目指しています。以下、学習評価の考え方ははじめ、国語科における評価の在り方について説明します。

### ア 新学習指導要領における学習評価の基本的な考え方について

上記の報告を受け、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」では、「学習評価の改善に係る 3 つの基本的な考え方」を、次のように説明しています。

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施</li> <li>○ 学力の重要な要素を示した新しい学習指導要領等の趣旨の反映</li> <li>○ 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進</li> </ul> <p>新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒一人一人の資質や能力をより確かにはぐくむようにするため、目標に照らしてその実現状況を見る評価を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要である。</p> <p>また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、「学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映」と関連している。学校教育法の一部改正を受けて改訂された新学習指導要領の総則に示された学力の 3 つの要素を踏まえて、評価の観点に関する考え方が整理された結果、これまでの観点の構成と比べると、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。</p> <p>さらに、各学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められており、各学校では、組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要である。</p> <p>「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所 p. 3</p>
---

### イ 各教科における評価の観点について

学習評価の 観点	内容・留意点
関心・意欲・ 態度	各教科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。 授業の姿勢や態度一般としての「関心・意欲・態度」ではなく、各教科等の学習に即した学習状況の評価するものであることに留意する。
思考・判断・ 表現	それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。 「表現」については、基礎的・基本的な知識を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価する。つまり、「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動の中で児童生徒が表出したものである。
技能	各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む。
知識・理解	各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が理解しているかどうか、評価するものである。

参考：「評価規準の作成のための参考資料」国立教育政策研究所 平成 22 年 11 月



## ウ 新学習指導要領の趣旨を生かした国語科の評価について

国語の観点	評価の観点	評価内容と留意点(※)	評価方法例
国語への関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	単元の学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価する。 ・言語活動等への取組の関心・意欲・態度 ・学習に関する読書及び読書によって見方や考え方を広げようとする姿勢・態度 等 ※全ての単元に位置付ける。	○観察 ・発言・発表 ・姿勢や態度 ○記述したもの ・ワークシート
話す・聞く能力 書く能力 読む能力	思考・判断・表現 基礎的・基本的な知識・技能	単元で重点的に指導する領域に対応した観点を設定し、言語活動を通しての各指導事項の実現状況を評価する。 ・各領域に即して思考・判断したことを、言語活動を通して評価する ※国語の場合、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を、学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けている。 ※基本的に1単元1領域。	○記述したもの ・ワークシート ・作品 ・原稿 ○観察 ・発言・発表 ○ペーパーテスト
言語についての知識・理解・技能	基礎的・基本的な知識・技能	単元における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示された各指導事項の実現状況を評価する。 ※各領域の指導を通して指導することから、全ての単元に位置付ける。	○記述したもの ・ワークシート ○ペーパーテスト ○観察 ・発言

※評価規準作成の際は、「評価規準の作成のための参考資料」（国立教育政策研究所）の設定例を参考にするとよい。

## エ 評価規準・評価方法の設定における留意点

### (7) 単元目標と評価規準は一体のものとする

指導と評価の一体化を図るためにも、評価規準を単元目標とのずれがないように位置付けます。単元で指導する内容（身に付けさせたい力）を明確にし、指導したことを評価し、次の指導につなげる展開を組むことにより、単元で身に付けさせたい力を一貫性のあるものにします。

### (4) 児童生徒の実態や教材等を踏まえて評価規準を具体化する

学習指導要領に照らし合わせながら、既に身に付いていて活用できる力、課題と見られる力など、前単元までの学習評価を踏まえた上で具体化します。また、教材の特長を踏まえた上で設定します。

### (ウ) 単元に適した評価方法を具体的に設定する

その単元で身に付けさせたい力を明確にし、適正な評価方法を設定します。また、評価場面において、児童生徒のどのような表れを評価するのか、具体的な評価方法を考えます。

## オ 評価に当たっての留意点

### (7) 学習過程や学習結果における評価を、継続的・総合的に行う

評価は学習結果だけでなく、学習過程においても行うことが重要です。学習過程で評価したことを以後の指導に生かすことが、単元目標の確実な実現につながります。

### (4) 教師の学習評価の力量を高める

学習評価の妥当性や信頼性を高めるためにも、教師間で、評価資料や児童生徒の学習の様子等の解釈の仕方を協議するなどして、学習評価の力量を向上させることが求められます。

### (ウ) 児童生徒が行う自己評価や他者評価の留意点

児童生徒が自己評価を行うことは、自分自身が身に付けた言語能力を自覚することであり、次の学習での活用や、国語を学ぶ意義の理解にもつながります。留意したいのは、児童生徒の行う評価は教師の評価とは別であり、あくまでも学習活動の一環であることを理解しておく必要があります。

## (6) 国語科の授業づくりのポイント

### ア 年間指導計画を立てる（年度当初に行う）

身に付けさせたい言語能力を年度の中で確実に指導するために、時期、領域の指導事項、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕、言語活動例、教材を一覧できる年間指導計画を立てます。系統性に配慮しながら、全ての指導事項と言語活動例を、年間でバランスよく配置します。

- ・各単元では、扱う領域や重点的に扱う指導事項を絞り込み、身に付けさせたい力を焦点化します。単元によっては、一つの指導事項を分割し、更に絞り込みます。
- ・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を、領域の指導事項と関連させ、全ての単元に位置付けます。
- ・身に付けさせたい力に適した言語活動例を選択します。その際、目標と同じ領域から選択することを基本としますが、適したものがなければ、他領域や他学年から取り上げたり、他のものを設定したりすることもできます。
- ・身に付けさせたい力の系統性を考え、意図的に教材を配列します。

#### 【小学校4年生「書くこと」における年間指導計画 例】

月	時数	指導事項					伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	言語活動例					教材名	
		ア	イ	ウ	エ	オ		カ	ア	イ	ウ	エ		オ
5	11			◎					○					学級新聞を作ろう
7	10		◎				○			○				見学したことを報告しよう
9	9	◎						○						物語の作り方をくふうしよう

※指導事項、言語活動例の項目については、学習指導要領、または、(5)学習内容の系統(p.20~29)を参照すること。

### イ 児童生徒の実態を把握する

指導事項に照らし合わせて、児童生徒が身に付けてきた言語能力の実態を把握します。

(例) ○時間的な順序、事柄の順序にしたがって、文章を書く。

◆段落相互の関係を意識しながら、目的に応じて中心となる内容の事例を挙げて説明する。

※○は身に付けてきた力、◆は課題が見られる力を表しています。

### ウ 指導事項（身に付けさせたい力）、言語活動例、教材を再確認する

児童生徒の実態を踏まえて指導事項（身に付けさせたい力）を確認し、次にそれを身に付けるのに適した言語活動例と教材を再確認します。変更する場合は、年間指導計画と照らし合わせながら、年間で全ての指導事項や言語活動例を扱えるよう留意します。

### エ 選択した教材について特長を明確にする

身に付けさせたい力や言語活動に留意しながら選択した教材を分析し、特長を明らかにするとともに、必要に応じて一部分を用いたり、他の教材と組み合わせたりします。

(例) 中心となる内容を明確にし、段落相互を関係付けながら書く力を付ける上で適している。

### オ 単元目標を設定する

※「静岡県授業づくり指針 国語」では、「単元」を「単元目標」の実現を図る授業展開のまとまりとして捉えています。(参照：「3 小学校・中学校における学習（授業計画例）」)

#### 例【単元目標】

- ①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとすることの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書く。  
〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書く。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

(7) 言語活動と身に付けさせたい力を具体化する

言語活動例を、身に付けさせたい力、児童生徒の実態、教材の特長と照らし合わせながら具体化します。また、実際に言語活動を行うために必要な言語能力を整理し、重点的に身に付けさせたい力を具体化するとともに、単元において活用させたい言語能力を明確にします。

(イ) 単元目標を設定する

国語科の単元目標は、年間指導計画を基に①「国語への関心・意欲・態度」②「領域の指導事項」③「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3点をセットにして構成します。

①「国語への関心・意欲・態度」

「領域の目標」を基にして、言語活動を入れながら、全ての単元において設定します。

②「領域の指導事項」

基本的に1単元に1領域で設定し、選択した指導事項を、教材・言語活動に合わせて具体化します。

③「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を基にして、全ての単元において設定します。

(ウ) 評価規準を設定する

単元目標に即して、評価規準を設定します。

カ 単元展開を構想する ※例えば、次のように単元展開を構想する

(7) 単元を貫く言語活動を位置付ける

言語活動を通して言語能力を身に付けるよう、言語活動を指導過程に有機的に位置付けます。その際、言語活動を目標としないように留意します。

(イ) 学習活動を構想する

・見通しを持つ

身に付けていく力、学習展開、単元を貫く課題等、学習の目的や方向性を持たせます。

・理解する

身に付けさせたい力や言語活動の特性などを具体的に理解させます。また、言語表現や表現の工夫などを的確に理解させます。

・思考・判断する

理解したことを基に、課題解決の中で思考・判断させます。

・表現・表出する

考えたことを、身に付けさせたい力に照らし合わせながら表現・表出させます。

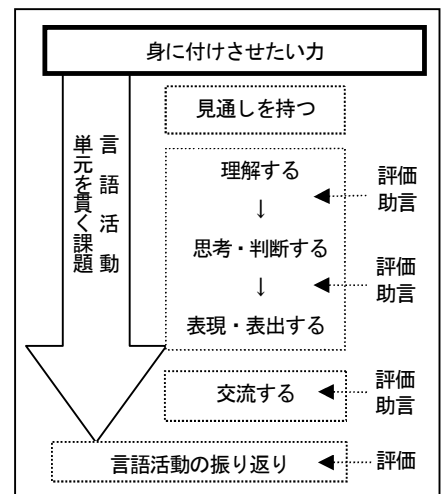
・交流する

考えや根拠、思考過程などを互いに説明させることで、個の考えを深めさせます。

・自らの言語活動を振り返る

他者評価などを関連させながら、自らの言語活動や課題解決の過程を振り返らせます。目標の到達度を客観的に評価させ、身に付けてきた力や課題に気付かせます。

単元の構想・学習活動(例)



キ 評価する

(7) 児童生徒の目標の実現状況を評価する

- ・目標と評価規準を一体のものとして捉え、観点に即して、評価します。
- ・学習結果としての表現物を評価するとともに、学習過程での評価を有機的に組み込んでいきます。
- ・学習過程における評価を、次の指導に生かしていきます。

(イ) 教師の指導の在り方を評価する

a 単元目標と言語活動との関わりを評価する

- ・個々の言語能力に高まりが見られたか、設定した単元目標の適性を評価します。
- ・設定した言語活動は言語能力を育む上で効果的であったか、言語活動の適性を評価します。

b 評価規準の適性を評価する。

- ・規準に即して児童生徒が身に付けた言語能力を評価できたか、評価規準の適性を評価します。

## 2 目標及び学習内容の系統

### (1) 系統の見方

小学校、中学校及び高等学校（「国語総合」）の目標及び学習内容の系統を、それぞれの項目について表で示しました。

- ・目標
- ・「A話すこと・聞くこと」
- ・「B書くこと」
- ・「C読むこと」
- ・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

表中には、学習指導要領解説を参考にして指導事項のつながりを示す線を補っています。

### (2) 領域別配当時数

学習指導要領には、各領域及び毛筆（小学校）書写（中学校）について配当時数が示されています。この配当時数を目安に、年間を通して各領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕をバランス良く指導していくことで、学習指導要領に示された学習内容を確実に身に付けさせることにつながります。

#### 学習指導要領に示された配当時数

〔単位時間〕

校種		小学校						中学校		
学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
A話すこと・聞くこと		35	35	30	30	25	25	15～25	15～25	10～20
B書くこと		100	100	85	85	55	55	30～40	30～40	20～30
C読むこと		(171)	(180)	(130)	(130)	(65)	(65)	(55～75)	(55～75)	(45～65)
書写	硬筆							20	20	10
	毛筆	—	—	30	30	30	30			
合計		306	315	245	245	175	175	140	140	105

※（ ）は、学習指導要領に示されていないが、各学年の合計時数を基に算出した。

(3) 学年別漢字配当表

学年別漢字配当表

小学校学習指導要領第2章第1節国語別表

第1学年	一右雨円王音下火花貝学気九休玉金空月犬見五口校左三山子四糸字耳七車手 十出女小上森人水正生青夕石赤千川先早草足村大男竹中虫町天田土二日入年 白八百文木本名目立力林六 (80字)
第2学年	引羽雲園遠何科夏家歌画回会海絵外角楽活間丸岩顔汽記帰弓牛魚京強教近兄 形計元言原戸古午後語工公広交光考行高黄合谷国黒今才細作算止市矢姉思紙 寺自時室社弱首秋週春書少場色食心新親凶数西声星晴切雪船線前組走多太体 台地池知茶昼長鳥朝直通弟店点電刀冬当東答頭同道読内南肉馬壳買麦半番父 風分聞米歩母方北毎妹万明鳴毛門夜野友用曜来里理話 (160字)
第3学年	悪安暗医委意育員院飲運泳駅央横屋温化荷界開階寒感漢館岸起期客究急級宮 球去橋業曲局銀区苦具君係軽血決研県庫湖向幸港号根祭皿仕死使始指齒詩次 事持式実写者主守取酒受州拾終習集住重宿所暑助昭消商章勝乘植申身神真深 進世整昔全相送想息速族他打对待代第題炭短談着注柱丁帳調追定庭笛鉄転都 度投豆島湯登等動童農波配倍箱畑発反坂板皮悲美鼻筆氷表秒病品負部服福物 平返勉放味命面問役薬由油有遊予羊洋葉陽様落流旅両緑礼列練路和 (200字)
第4学年	愛案以衣位困胃印英栄塩億加果貨課芽改械害街各覚完官管関観願希季紀喜旗 器機議求泣救給拳漁共協鏡競極訓軍郡径型景芸欠結建健験固功好候航康告差 菜最材昨札刷殺察参産散残士氏史司試児治辞失借種周祝順初松笑唱焼象照賞 臣信成省清静席積折節説浅戦選然争倉巢束側続卒孫帶隊達単置仲貯兆腸低底 停の典伝徒努灯堂働特得毒熱念敗梅博飯飛費必票標不夫付府副粉兵別辺変便 包法望牧末満未脈民無約勇要養浴利陸良料量輪類令冷例歴連老勞録 (200字)
第5学年	圧移因永嘗衛易益液演忘往桜恩可仮価河過賀快解格確額刊幹慣眼基寄規技義 逆久旧居許境均禁句群経潔件券険檢限現減故個護効厚耕鉦構興講混查再災妻 採際在財罪雑酸賛支志枝師資飼示似識質舍謝授修述術準序招承証条状常情織 職制性政勢精製税責績接設舌絶銭祖素総造像増則測属率損退貸態困断築張提 程適敵統銅導徳独任燃能破犯判版比肥非備俵評貧布婦富武復復仏編弁保墓報 豊防貿暴務夢迷綿輸余預容略留領 (185字)
第6学年	異遺域宇映延沿我灰抜革閣割株干卷看簡危机揮貴疑吸供胸郷勤筋系敬警劇激 穴絹権憲源巖己呼誤后孝皇紅降鋼刻穀骨困砂座濟裁策冊蚕至私姿視詞誌磁射 捨尺若樹収宗就衆従縦縮熟純処署諸除将傷障城蒸針仁垂推寸盛聖誠宣専泉洗 染善奏窓創装層操蔵臟存尊宅担探誕段暖值宙忠著片頂潮賃痛展討党糖届難乳 認納脳派拝背肺俳班晩否批秘腹奮並陛閉片補暮宝訪亡忘棒枚幕密盟模訳郵優 幼欲翌乱卵覧裏律臨朗論 (181字)

【計 1006 字】

(4) 目標の系統

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校第1学年
○教科国語の目標			
<p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p>			
○A「話すこと・聞くこと」の目標			
<p>相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事な事を落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり、聞いたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。</p>
○B「書くこと」の目標			
<p>経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。</p>	<p>相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えながら文章を書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えた的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。</p>
○C「読むこと」の目標			
<p>書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p>	<p>目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。</p>

中学校第2学年	中学校第3学年	高校 必履修科目	高校 各科目
---------	---------	----------	--------

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

目的や場面に  
応じ、社会生活に  
かかわることなど  
について立場や  
考えの違いを踏  
まえて話す能力、  
考えを比べなが  
ら聞く能力、相手  
の立場を尊重し  
て話し合う能力を  
身に付けさせると  
ともに、話したり  
聞いたりして考え  
を広げようとする  
態度を育てる。

目的や場面に  
応じ、社会生活  
にかかわること  
などについて相手  
や場に応じて話  
す能力、表現の  
工夫を評価して  
聞く能力、課題  
の解決に向けて  
話し合う能力を  
身に付けさせると  
ともに、話したり  
聞いたりして考え  
を深めようとする  
態度を育てる。

目的や意図に  
応じ、社会生活に  
かかわることなど  
について、構成を  
工夫して分かりや  
すく書く能力を身  
に付けさせるとと  
もに、文章を書い  
て考えを広げよう  
とする態度を育て  
る。

目的や意図に  
応じ、社会生活に  
かかわることなど  
について、論理  
の展開を工夫し  
て書く能力を身  
に付けさせるとと  
もに、文章を書い  
て考えを深めよう  
とする態度を育て  
る。

目的や意図に  
応じ、文章の内  
容や表現の仕方  
に注意して読む  
能力、広い範囲  
から情報を集め  
効果的に活用す  
る能力を身に付  
けさせるととも  
に、読書を生活  
に役立てようとする  
態度を育てる。

目的や意図に  
応じ、文章の展  
開や表現の仕方  
などを評価しなが  
ら読む能力を身  
に付けさせるとと  
もに、読書を通  
して自己を向上  
させようとする  
態度を育てる。

**【国語表現】**  
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

**【現代文A】**  
近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

**【現代文B】**  
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

**【古典A】**  
古典としての古文と漢文、古典に関する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

**【古典B】**  
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

**【国語総合】**  
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

(5) 学習内容の系統

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<b>【話題設定や取材】</b>		
<p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。</p>	<p>ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。</p>	<p>ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。</p>
<b>【話すこと】</b>		
<p>イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</p> <p>ウ 相手を見たり言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。</p>	<p>イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>ウ 相手を見たり言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。</p>	<p>イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。</p>
<b>【聞くこと】</b>		
<p>エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</p>	<p>エ 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べたりすること。</p>	<p>エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p>
<b>【話し合うこと】</b>		
<p>オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p>	<p>オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p>	<p>オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p>
<b>言語活動例</b>		
<p>ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。</p> <p>イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。</p> <p>ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりすること。</p> <p>エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。</p>	<p>ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。</p> <p>ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。</p>	<p>ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。</p> <p>イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする事。</p> <p>ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。</p>



中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
<p>ア 日常生活の中から話題を決め、話したり、話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。</p>	<p>ア 社会生活の中から話題を集め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で決め整理すること。</p>	<p>ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。</p> <p>イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。</p>	<p><b>【話題設定・取材・構成】</b></p> <p>ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べる事。</p>
<p>イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。</p> <p>ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。</p>	<p>イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。</p> <p>ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。</p>		<p>イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。</p>
<p>エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</p>	<p>エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。</p>	<p>ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。</p>	<p><b>【交流・評価】</b></p> <p>エ 話したり聞いたたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p>
<p>オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</p>	<p>オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。</p>	<p>エ 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。</p>	
<p>ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。</p> <p>イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</p>	<p>ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。</p>	<p>ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。</p> <p>イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。</p>	<p>ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。</p> <p>イ 調査したことなどをまとめて、報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。</p> <p>ウ 反論を想定して発言したり、疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。</p>

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<b>【課題設定や取材】</b>		
ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書上で必要な事柄を調べること。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
<b>【構成】</b>		
イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
<b>【記述】</b>		
ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。	ウ 書こうとする事を中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。
<b>【推敲】</b>		
エ 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気付き、直すこと。	オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
<b>【交流】</b>		
オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。
<b>言語活動例</b>		
ア 想像したことなどを文章に書くこと。 イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。 イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。 ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。 エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。 イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
<p>ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p>	<p>ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p>	<p>ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。</p>	<p><b>【題材選定・取材・表現の工夫】</b></p> <p>ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。</p>
<p>イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。</p>	<p>イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。</p>	<p>イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。</p>	<p><b>【構成・記述】</b></p> <p>イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。</p> <p>ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。</p>
<p>ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。</p>	<p>ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。</p>	<p>ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。</p>	<p><b>【推敲・交流・評価】</b></p> <p>エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p>
<p>エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p>	<p>エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p>	<p>エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。</p>	
<p>オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の使い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。</p>	<p>オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて、意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。</p>		
<p>ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。 イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。 ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。</p>	<p>ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をつくりたり物語などを書いたりすること。 イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。 ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。</p>	<p>ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。 イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。</p>	<p>ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくりたり随筆などを書いたりすること。 イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p>

小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
<b>【音読】</b> ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 <b>【効果的な読み方】</b>
<b>【説明的な文章の解釈】</b> イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。
<b>【文学的な文章の解釈】</b> ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながらかんたりにすること。	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
<b>【自分の考えの形成及び交流】</b> エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。
<b>【目的に応じた読書】</b> カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。
<b>言語活動例</b>		
ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。 イ 物語の読み聞かせを聞いたたり、物語を演じたりすること。 ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。 エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。 オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。	ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。 オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。 イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。 エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	国語総合
<p><b>【語句の意味の理解】</b></p> <p>ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。</p>	<p>ア 抽象的な概念を表す語句や、心情を表す語句などに注意して読むこと。</p>	<p>ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。</p>	<p><b>【表現に即した理解】</b></p> <p>ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。</p>
<p><b>【文章の解釈】</b></p> <p>イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。</p> <p>ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。</p>	<p>イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。</p>	<p>イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</p>	<p>イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</p> <p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。</p>
<p><b>【自分の考えの形成】</b></p> <p>エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。</p> <p>オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。</p>	<p>ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。</p> <p>エ 文章に書かれているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。</p>	<p>ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。</p> <p>エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。</p>	<p><b>【考えの形成・読書・情報活用】</b></p> <p>エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</p> <p>オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p>
<p><b>【読書と情報活用】</b></p> <p>カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。</p>	<p>オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。</p>	<p>オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。</p>	<p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</p> <p>イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</p> <p>ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えを持って話し合うこと。</p> <p>エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>
<p>ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。</p> <p>イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。</p> <p>ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。</p>	<p>ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。</p> <p>イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。</p> <p>ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。</p>	<p>ア 物語や小説などを読んで批評すること。</p> <p>イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。</p> <p>ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。</p>	

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。		
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いた り、発表し合ったりすること。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使うこと。	(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 音節と文字の関係や、アクセントによる後の意味の違いなどに気付くこと。 (ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (エ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (オ) 句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。 (カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。 (キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。	(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 (ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。 (エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 (オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で種別があることを理解すること。 (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。 (キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。 (ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。	(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 (ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 (エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心を持つこと。 (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つこと。 (キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 (ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。 (ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年	国語総合
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。			
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。 (イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ることを知る。	(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。 (イ) 古典の表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。	(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。 (イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。	(ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。 (イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ア) 音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めること。 (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。 (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。 (エ) 単語の種別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。 (オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。	(ア) 話し言葉と書き言葉の違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。 (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。 (ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。 (エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。 (オ) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。	(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。 (イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。	(ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。 (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。		
ウ 文字 に 関 す る 事 項	<p>(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。</p> <p>(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識を持つこと。</p>	<p>(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p>
	(2)書写に関する次の事項について指導する		
(書写)	<p>ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。</p>	<p>ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p>



	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年	国語総合
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。			
ウ 漢字に関する事項	(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	(ア)第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。	(ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。
	(2)書写に関する次の事項について指導する			
(書写)	ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。	ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。	

(6) 年間指導計画例

ア 年間指導計画を立てる意味

年間指導計画を立てることにより、年間の授業時数内で全ての指導事項、言語活動例を扱う見通しを持つことができ、また、偏ることなく、バランス良く指導していくことができます。

ここでは、小学校4年生を例にして、年間指導計画例を示しています。

イ 年間指導計画例の説明

(7) 教材等に関すること

- ・教材名に当たるところは、例として使用している教科書の教材名です。
- ・教材の配列は例です。学校の年間指導計画を基に配列していきます。
- ・言語活動例にある「他」は、学習指導要領に示された以外の言語活動を示しています。

(1) 時数に関すること

- ・学習指導要領に示された小学校4年生の標準時数245時間で示しています。他学年の配当時数は、16ページを参考にしてください。
- ・数字は、その教材にかける時数です。
- ・「ウ文字(イ)」の漢字指導の時数は、単元別時数の中に含まれています。
- ・教材名にある「文法」「漢字のへん、つくり」「ローマ字」は、それぞれ「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」「ウ文字に関する事項」を特に取り上げて指導することを示しています。
- ・「書写に関する事項」は年間35時間(週1回の指導)とし、硬筆5時間、毛筆30時間としています。

年間指導計画例1(領域別)ー小学校4年生を例にしてー

月	教材名	単元別時数			指導事項					言語活動例					ア伝統的な言語文化		イ言葉の特徴やきまり						ウ文字			書写												
		A	B	C	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	他	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ア)	(イ)	(ウ)	ア	イ	ウ						
4	話すこと・聞くこと1	3			◎						○							○																				
6	話すこと・聞くこと2	8				◎		◎			○							○																				
9	話すこと・聞くこと3	8					○			◎		○																										
12	話すこと・聞くこと4	4						◎	○						○																							
2	話すこと・聞くこと5	7				◎				◎		○																										
「話すこと・聞くこと」合計時数		30																																				
5	書くこと(手紙文)		9		◎			○							○																							
6	書くこと1		12			◎	○				○																											
7	読書紹介1「書くこと」		8			◎				○		○																										
9	書くこと2		12				◎	◎			○								○																			
10	書くこと(詩を書く)		9						◎	○	○																											
11	書くこと3		11			○			◎					○																								
1	読書紹介2「書くこと」		6						◎	○																												
2	書くこと(礼状)		8					○	◎						○																							
3	書くこと5		10			◎		◎																														
「書くこと」合計時数			85																																			

4	声に出して読もう			3	◎						○							○																		
4	物語文 1			8			◎				○														○											
5	説明文 1			8			◎				○													○	○											
7	読書1「読むこと」			5								◎						○							○											
7	韻文（詩）1			5			◎		○										○																	
10	説明文 2			7			◎		○				○											○												
11	韻文 2			6						◎		○							○																	
12	物語文 2			8			◎		○					○										○	○											
1	読書2「読むこと」			6						◎				○																						
1	説明文3			8			○		◎		○												○		○											
2	韻文 3			3						◎		○												○												
2	伝統的な言語文化2			6		○		◎			○								○																	
3	物語文3			8				◎	○		○													○												
「読むこと」合計時数				81																																
5	文法1	/																								2										
6	漢字のへん, つくり1																											2								
9	伝統的な言語文化1																												3							
10	漢字のへん, つくり2																												2							
10	文法2																												2							
11	ローマ字																												1							
12	文法3																												2							
「伝統文化と国語の特質」合計時数																											3				2	2	2	1		4
年間	硬筆の合計時数																									5										
	毛筆の合計時数																										30									

※ 指導・評価の重点を明確にするため、その単元で指導・評価するものには○を、そのうち特に重点的に指導・評価するものには◎を付けています。

※ 年間指導計画を立てる際、一つの指導事項を分割して複数の単元に配分する場合があります。その場合、年間の中で、全ての指導事項の内容を落とすことなく配分しているか、配慮することが大切になります。

(例) イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。  
 ○目的に応じて、中心となる語や文をとらえて文章を読む → 説明文 1  
 ○目的に応じて、段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む → 説明文 2

年間指導計画例2(月別)－小学校4年生を例にして－

月	教材名	単元別時数			指導事項					言語活動例					ア伝統的な言語文化		イ言葉の特徴やきまり							ウ文字			ウ書写											
		A	B	C	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	他	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ア)	(イ)	(ウ)	ア	イ	ウ						
4	声に出して読もう			3	◎						○								○																			
	物語文 1			8			◎				○											○																
5	話すこと・聞くこと1	3			◎						○							○																				
	説明文 1			8		◎					○												○															
	書くこと(手紙文)		9			◎		○				○										○															○	
6	文法1														○								2															
	話すこと・聞くこと2	8				◎		◎			○							○																				
	漢字のへん, つくり1														○																						2	
7	書くこと 1		12			◎	○				○										○																	
	読むこと(物語・説明文)			5			◎				○																											
	書くこと(読書感想文)		8			◎					○												○															
9	韻文(詩)1			5	◎		○							○								○																
	伝統的な言語文化1														○	3																						
	書くこと 2		12				◎	◎			○							○																				
10	話すこと・聞くこと3	8				○			◎		○															○												
	書くこと(詩を書く)		9						◎	○	○											○																○
	漢字のへん, つくり2														○																						2	
11	文法2														○								2															
	説明文 2			7		◎		○			○												○															
	ローマ字																																				1	
12	韻文 2			6					◎		○							○																				
	書くこと3		11			○			◎		○											○																
	話すこと・聞くこと4	4					◎	○							○																							
	物語文 2			8		◎		○						○									○															
	文法3																																			2		



### 3 小学校・中学校・高等学校における学習

#### (1) 指導計画例の見方

B 書くこと〔小学校中学年〕

当該領域の目標

ゴシック体は、本単元で選択した内容

#### 【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

#### 【指導事項】

ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

指導事項を1～2項目選択する。場合によっては、指導事項の中を更に分割することもある。つまり、選択する際、指導事項にある全ての能力を扱う必要はなく、一部のみを扱うことも考えられる。その場合、年間の中で全ての指導事項を扱うよう留意する。

#### 【言語活動例】

イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

指導事項の指導に適した言語活動例を選択する。

身に付けさせたい力に即した児童生徒の言語能力の実態を明確にする。既習事項のうち、○身に付けてきた力と、◆課題が見られる力を記入する。

#### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 時間的な順序、事柄の順序にしたがって文章を書く。
- 書こうとする事柄の中心を決め、文章の内容の焦点を絞って
- ◆ひとまとまりの内容ごとに段落を構成するとともに…。

①〈国語への関心・意欲・態度〉  
②〈領域の指導事項〉③〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉の3点セットで設定。  
〈関心・意欲・態度〉←【目標等】  
〈指導事項〉←【領域の指導事項】  
〈伝統的な…〉←【伝統的な…】

#### 【身に付けさせたい力】

- ①相手や目的に応じ…〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの…〈「書くこと」(ウ)〉
- ③句読点を適切に打…  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

#### 【言語活動例】疑問に思ったことを調べて、…表すこと。〈イ〉

#### 【単元名】学級新聞を作ろう～中心を明確にして書く～

#### 【教材名・教材の特長】「学級新聞を作ろう」(教育出版 4年上)

- ・新聞記事としての特徴を理解し、文章の構成や使う語句…。
- ・取り上げる記事の内容を選択したり見出しを工夫したり…。
- ・中心となる内容を明確にし、段落相互を関係付けながら書く上で

前半には言語活動を、後半の「～」以降には身に付けさせたい力を記している。

教材の持つ特長を【身に付けさせたい力】に照らし合わせて記載する。

#### 【言語活動】

学校生活において関心を持った出来事を、学級新聞に表す。〈イ〉

単元目標と評価規準を設定する。ここには単元目標のみを示す。

身に付けさせたい力や教材に合わせて、言語活動例を具体化する。

#### 【単元目標】

- ①関心を持った出来事…書こうとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
  - ②書こうとする内容の中心を明確にし、…書く。〈「書くこと」イ〉
  - ③句読点を適切に打ち、…書く。〈伝統的な言語文化と国語の特質〉
- ※【身に付けさせたい力】【単元目標】【Cと評価した児童生徒…】の①②③は連動している。  
※単元目標の文末表現は、上記ゴシック体のように表記する。

身に付けさせたい力、教材の特長、言語活動を踏まえて、具体化する。

「資料等の利用を図る学習活動」、「読書活動の充実」及び「他教科との連携」は、「発展的な学習の内容」を指している。※p. 6(3)を参照

【授業の具体例】

資料等の利用を図る学習活動

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	<p>第1時については、目標はあるが、評価を行わない場合もある。</p>	<p>全員の児童生徒の学習の様子を評価するための評価方法。</p>	<p>学校生活での様々な出来事を振り返り、家庭や地域に伝える新聞を書くことを理解する</p> <p>「記事の書き方」と効果を、モデル新聞から見出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の工夫を図り、教材への興味・関心を持たせる。</li> <li>身に付けさせたい力を理解させ、学習の目的や見通しを持たせる。</li> <li>言語活動の見通しを持たせる。</li> </ul>
2 3 4 5 6 7	<p>②書こうとする内容の中心を明確にし、事実が伝わるよう理由や事例を挙げながら書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p> <p>③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>構想メモ</p>	<p>グループで新聞づくりの計画を立て、記事を書く見通しを持つ</p> <p>構成を考え、吟味する</p> <p>記事の下書きをする</p> <p>学習過程において、言語活動を通して目標に設定した言語能力を育むことができるよう、意図的な展開を組む。</p>
8 9 10 11	<p>①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p> <p>どの時間にどの目標項目を指導し、評価をするか、見通しを持った評価計画を立てる。</p>	<p>原稿</p> <p>評価カード</p>	<p>下書きを推敲する</p> <p>新聞を仕上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことを、表現・表出する活動を設定する。</li> <li>考えたことを交流する場や機会を設定する。</li> </ul> <p>視点に沿って説明し合い、作品を評価し合う</p> <p>自らの言語活動を振り返り、以後の学習等につなげる。</p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②伝えたい内容に合わせて収集した情報等を…〈ウ〉
- ③主語や並列する語の後に読点を打つなど…〈イ(エ)〉
- ①家族が知りたいこと、…〈国語への関心・意欲・態度〉

【授業の具体例】の評価規準の順に、「手立ての例」を示している。

【評価規準】に照らし合わせ、Cと評価した児童生徒への手立てを記す。「学習内容の系統」を参考にし、つまりいている箇所を確認し、手立てを講じる。

(2) 「A話すこと・聞くこと」

A話すこと・聞くこと〔小学校低学年〕

【目標】

相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。  
イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。  
ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。  
エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。  
オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

【言語活動例】

- ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。  
イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。  
ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。  
エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。

【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 与えられた中から話題を選ぶ。  
○事柄を順序に沿って聞き取る。  
◆経験したことの中から自分で話題を決め、その時の様子や気持ちなどを思い出す。  
◆大事なことを落とさないように相手の話を聞き取る。

【身に付けさせたい力】

- ①身近なことなどについて、大事なことを落とさないように聞く能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
②身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 〈「話すこと・聞くこと」ア〉  
③大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉  
④言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。〈ア〉

【単元名】おてつだいを紹介しよう～経験したことを想起する・大事なことを落とさないように聞く～

【教材名・教材の特長】「おてつだいを して いるよ」(学校図書 2年上)

- ・身近なことや経験したことを話題とするため興味・関心が高まりやすい。
- ・「おてつだい」していることをどのように伝えたらよいか、例が示されていて分かりやすく、必要な事柄を想起する手掛かりともなる。
- ・1「準備をしよう」、2「紹介をしよう」、3「感想を伝えよう」の構成になっていて、既習内容を活用しながら聞く力を身に付けることができる。

【言語活動】

手伝いをしたことについて友達に紹介したり、それを聞いたりする。〈ア〉

【単元目標】

- ①「おてつだい」の様子や伝えたい気持ちを話したり、その話を聞いたりしようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉  
②「おてつだい」の内容を決定し、その時の様子や気持ちを思い出す。 〈「話すこと・聞くこと」ア〉  
③相手の話に関心を持ち、相手が伝えたい話の大事なことを落とさないようにしながら聞き、感想を述べる。  
〈「話すこと・聞くこと」エ〉  
④言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付く。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉



【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>学習のめあて「自分のおてつだい」を紹介することと、最後に、友達に感想を伝えることを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな手伝いをしたのか、その時どんな気持ちになったのか、教師と友達との質問を交えたやりとりを見る中で、「必要な事柄の思い出し方」を理解する。</li> <li>・聞いている児童は、板書を参考に質問のやりとりをできる範囲でメモをする。</li> </ul>
2	②手伝いをした時の様子や気持ちを思い出している。 〈「話す・聞く能力」ア〉	ワークシート 交流場面	<p>ワークシート（教科書P.43）を利用して、「おてつだいたしたこと」と「どのような気持ち」を書き込み、紹介し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人以上の友達と交流をする。</li> <li>・質問し合うことで、「必要な事項」（お手伝いの様子やその時の気持ち）を思い出す。</li> </ul>
3	④言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(7)〉	発表原稿 発表練習	<p>手伝いの内容を決定し、その時の様子や気持ちなどを思い出しながら話す順序の構成をし、ペアで発表練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル作文（教科書P.44,45）を読んで、言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づき、使われている言葉の工夫などを見付け出す。</li> <li>・順序を表す言葉や、五感を通して感じたことなど、例文の工夫点や効果的な面を自分の作文にも取り入れる。</li> <li>・手伝いの内容や流れ、その時の様子や気持ち、会話などを具体的に思い出し、付箋を利用して分けて書いておき、組み立てていく。</li> <li>・原稿を書き、ペアで発表練習をする。</li> <li>・「声の大きさ」「くぎるところ」「話すはやさ」「はっきりしたはつ音」など、声のものさしの確認をする。</li> </ul>
4	②「おてつだい」の内容を決定し、その時の様子や気持ちを思い出している。 〈「話す・聞く能力」ア〉		
5			
6	③相手の話に関心を持ち、相手が	発表	<p>友達の紹介を聞き、感想を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表前に聞き取りカードを配り、書き込む内容を確認することで、話し手、聞き手の視点を持つ。</li> <li>・練習後、グループ内発表をする。</li> <li>・グループ内でペアを替えながら複数回行う。</li> <li>・聞き手は、カードを使って、「おてつだいのないよう」など、必要なことを聞き取る。本人も自己評価として記入する。</li> </ul>
7	伝えたい話の大事なことを落と	発表原稿	
8	さないようにしながら聞き、感想	聞き取りカード	
9	を述べている。 〈「話す・聞く能力」エ〉		
	①「おてつだい」の様子や伝えたい気持ちを話したり、その話を聞いたたりしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉		
		振り返りカード	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〇〇のおてつだいをした メモ 〇〇さんへ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おてつだいのないよう</li> <li>・おてつだいをしたときの気持ち</li> <li>・おてつだいのようすを聞いて思ったこと、じぶんもしてみたいと思ったことなど</li> <li>・声の大きさ とてもよい よい もうすこし</li> <li>・話すはやさ とてもよい よい もうすこし</li> </ul> </div> <p>・カードを使ってグループの中で聞き取った内容を確認し合う。 話題設定の仕方や話の聞き方について振り返る</p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②手伝いの内容を、例文を参考に様子や気持ちとに分けながら思い出そう助言する。〈ア〉
- ④「この言葉を使うと様子が分かるね。」など、言葉の働きを意識させる声掛けをする。〈イ(7)〉
- ③「〇〇のおてつだいをした〇〇さんへ」だけでも書くよう助言する。〈エ〉
- ①原稿をしっかりと書かせることで発表への自信を持てるようにする。また、お手伝いの「内容」と「気持ち」の二つに分けて聞き、メモをすることを助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A話すこと・聞くこと〔小学校中学年〕

### 【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。  
イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。  
ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。  
エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。  
オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。  
イ 学級全体で話し合っただけで考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。  
ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること

### 【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 話す速さ、声の大きさなど、聞き手を意識しながら話す。
- 必要な事柄について調べ、要点をメモする。
- ◆話を組み立てたり、筋道を立てて話したりする。
- ◆話の中心を聞き取ったり、聞いた内容から自分の思いや考えを広げたりする。

### 【身に付けさせたい力】

- ①調べたことについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④表現したり理解したりするために必要な語句を増すこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【言語活動例】出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。〈ア〉

【単元名】ポスターセッションで発表しよう～理由や事例などを挙げながら話す・話の中心に気を付けて聞く～

【教材名・教材の特長】「ポスターセッションで発表しよう」（教育出版 4年下）

- ・ポスターセッションを実際に取り入れることで、「相手に分かりやすく話す」「友達の発表に対して質問や感想などを考えながら聞く」など、「話すこと・聞くこと」の意識を高めることができる。
- ・社会科見学後のまとめ、発表に活用できる。

### 【言語活動】

社会見学「消防署」のポスターセッションをしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。〈ア〉

### 【単元目標】

- ①調べたことを分かりやすく筋道を立てて話そうとしたり、発表者の伝えようとしていることを聞き取ろうとしたりする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②ポスターを活用し、調べたことを、理由や事例を挙げながら相手に分かりやすく話す。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話の中心に気を付けて友達の発表を聞き、質問をしたり感想を述べたりする。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④表現するために必要な語句を増やす。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			ポスターセッションについて学び、学習の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを活用し、ポスターセッションとはどういうものかを知る。また、どんな時に使えるのか、今後の活用場面なども考える。</li> <li>・伝えたいことを中心に合わせて「理由や事例」を入れたり、図や表を使いながら説明したりすることの効果を理解する。</li> <li>・ポスターセッションの進め方を確認する。</li> <li>・「ポスターセッションを通して消防署の全体を知ることができる」ことを確認する。</li> </ul>
3 4 5 6 7	②ポスターを活用し、調べたことを、理由や事例を挙げながら相手に分かりやすく話している。 〈「話す・聞く能力」イ〉 ④表現するために必要な語句を増やしている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉	構想メモ 発表原稿 ポスター 発表練習	調べたことをグループで発表原稿・ポスターにまとめる <b>集めた材料を整理する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科で調べたことやインタビューしてきた内容などをグループで付箋に書き出す。<b>(社会科との連携)</b></li> <li>・書き出した付箋を整理し、発表する分担を決める。</li> </ul> <b>ワークシートを活用しながら構想メモを作る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例や理由を入れながら、付箋の整理をする。</li> <li>・ポスターにする際、伝えたい内容に合わせて図表やグラフを示す位置を決める。</li> <li>・伝えたいことを中心に捉えて見出しを考える。</li> </ul> <b>構想メモを交流する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構想メモをグループ内で交流し、事例や理由が適切か、伝えたい内容と見出しが合っているかアドバイスし合う。</li> </ul> <b>構想メモを活用してポスターを作る</b> <b>構想メモを活用して発表原稿を作る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が事前に作成した「消防署用語集」から言葉を選択する。</li> </ul> <b>グループ内で発表練習をする</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「発表のとき」「発表を聞くとき」の大事な点を確認する。</li> <li>・ポスターにある資料を使って説明する。</li> <li>・話の中心に即した質問を予想し合い、本番に備えて「問答集」を作る。</li> </ul>
8 9	③話の中心に気を付けて友達の発表を聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。 〈「話す・聞く能力」エ〉	発表 ワークシート	<b>ポスターセッションを行う</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手は、話し手が伝えたいことの原因や事例を意識して聞き、ワークシートに聞き取ったことをメモし、意見感想などを記入する。また、声の大きさ、話す速度などをABCで評価する。</li> <li>・聞き手は、発表グループに対して感想を述べたり質問したりする。</li> <li>・質問されたグループは、それに答える。</li> </ul>
10	①調べたことを分かりやすく筋道を立てて話そうとしていたり、発表者の伝えようとしていたりすることを聞き取ろうとしていたりしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	振り返りカード	<b>ポスターセッションについて振り返る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい中心に気を付けて、理由や事例を意識しながら話したり聞いたりできたか。</li> </ul>

## 【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②自分の意見を持てるよう、グループの人の考えを参考にしながら、自分でも付箋に書いたものを利用して組立てを考えたり、図や表の説明の位置は適切かなどを考えたりするよう助言する。〈イ〉
- ④難しい言葉や用語は、辞書を活用して自分の言葉に直すよう助言する。〈イ(ウ)〉
- ③話の内容で分かったことや分からなかったこと、また話し方の感想を伝えてもよいことを助言する。〈エ〉
- ①自分たちのグループに伝えたいことがあるように、他のグループにも伝えたいことがあることを教え、発表だけでなく、聞く方にも関心を高めるよう投げ掛ける。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A 話すこと・聞くこと〔小学校高学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を集め、収集した知識や情報を関係付けること。  
イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。  
ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。  
エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。  
オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。  
イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。  
ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

### 【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 資料を用いて理由や事例を挙げながら話す。
- 話の中心を捉えてメモし、話題に沿って質問をしたり感想を述べたりする。
- ◆目的や相手に応じて構成や内容を工夫しながら話したり、話し手の意図を理解しながら聞いたりする。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。  
〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。  
〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

### 【言語活動例】事物を推薦したり、それを聞いたりすること。〈ウ〉

### 【単元名】すいせんのスピーチをしよう～話の構成を工夫して話したり、意図を捉えながら聞いたりする～

### 【教材名・教材の特長】「すいせんのスピーチをしよう」(教育出版5年上)

- ・聞き手を意識しながら内容や構成を工夫し、話す能力を身に付ける上で適している。
- ・「友達の本の推薦を聞く」活動によって、聞くことへの興味・関心を持たせることができる。
- ・日常生活の様々な事柄を推薦する場面において、身に付けた能力を生かすことができる。

### 【言語活動】

読んで面白かった本を推薦したり、友達の推薦する本の説明を聞いたりする。〈ウ〉

### 【単元目標】

- ①友達に自分の好きな本を推薦したり、友達の推薦の意図を理解しながら説明を聞いたりしようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②聞き手を意識し、本の特徴や推薦する理由などが明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。  
〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③推薦の意図を捉えながら聞き、構成や内容について自分の意見や感想をまとめる。  
〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④文章にはいろいろな構成があることについて理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p><b>本の推薦について興味を持ち、学習の見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司書教諭による本の推薦を、原稿と見比べながら聞き、本を推薦することに興味を持つ。</li> <li>・複数の本の推薦（モデル原稿）を基に、推薦の意味、話の構成、言葉遣いなど、推薦の特徴を理解する。また、あらすじ、主題、印象的な表現、作品の魅力などが推薦理由となることを理解する。</li> <li>・聞き手や推薦する本によって、話の構成や内容、言葉遣いに違いがあることを理解する。</li> <li>・学習のめあて『「読んでみたい!」と思わせるような本の推薦をしよう』を持つ。</li> </ul>
3 4 5 6 7 8	<p>②聞き手を意識し、本の特徴や推薦する理由などが明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話している。</p> <p>〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>④文章にはいろいろな構成があることについて理解している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(キ)〉</p>	<p>構成メモ</p> <p>スピーチ原稿</p>	<p><b>推薦する本を決定し、推薦理由を明確にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の友達の読書傾向について調べ、聞き手の本に対する興味・関心を意識する。</li> <li>・「読書カード」から1年間の読書生活を振り返り、推薦したい本を選択する。作品の魅力等、選んだ理由を再考する。</li> <li>・推薦する本の特徴を理解し、様々な視点から推薦理由を付箋に書く。</li> </ul> <p><b>推薦理由の構成を考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な内容や順序を考え、付箋を並び替える。</li> <li>・構成メモを基に、内容や構成について交流する。</li> <li>・構成を修正し、確定する。</li> </ul> <p><b>話し方の工夫を考え、原稿を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチの始め方、終わり方の工夫を理解する。</li> <li>・推薦するに当たって効果的な言葉遣いを理解し、教師が示した「効果的な言葉リスト」から適した言葉を選択する。</li> <li>・原稿を推敲し、修正する。</li> </ul>
9 10 11 12	<p>③推薦の意図を捉えながら聞き、構成や内容について自分の意見や感想をまとめている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」エ〉</p> <p>①友達に自分の好きな本を推薦したり、友達の推薦の意図を理解しながら説明を聞いたりしようとしている。〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>評価カード</p> <p>振り返りカード</p>	<p><b>本の推薦を聞くポイントを理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容や構成、言葉遣いについての推薦者の意図を捉え、意見をまとめた上で伝えることを理解する。</li> </ul> <p><b>グループで本を推薦し合い、評価し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の意図を理解し、「評価カード」に評価・意見を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①話の工夫について 内容や構成、言葉遣いを視点にして評価する。</li> <li>②話し方の工夫について 声の強弱や抑揚等の効果について評価する。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>自分の話を振り返り、効果的な推薦の仕方をまとめる</b></p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②順序を入れ替えた二つの構成メモを比較させ、効果的な構成を選択させる。〈イ〉
- ④本の紹介文と推薦文とを比較させ、目的によって構成や言葉遣い等が変わることを理解させる。〈イ(キ)〉
- ③評価の視点を示した評価カードに、◎△などの記号を付けさせた上で、意見を書かせる。〈エ〉
- ①本を一緒に読んでたり読んでもらったりした経験を振り返らせる。読んだ本の中の面白かった場面などを対話によって思い出させ、推薦する意欲を持たせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A 話すこと・聞くこと〔中学校第1学年〕

### 【目標】

目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。

エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

### 【言語活動例】

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○声の大きさや速さ、間の取り方に注意して話す。

◆相手の反応を踏まえながら話したり、話し手の意図を考えながら聞き、自分の考えと比べたりする。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

〈「話すこと・聞くこと」イ〉

③必要に応じて質問しながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。〈「話すこと・聞くこと」エ〉

④音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】日常生活の中の話題について討論を行うこと。〈イ〉

### 【単元名】ディベートをしよう～話合いの方法を学び、話し合って考えを深める～

#### 【教材名・教材の特長】「討論ゲームをしよう」〈ディベート〉(三省堂 1年)

・小学校で経験した「討論会」の学習を生かすことができる。

・少人数によるディベートのため、全員が話す立場、聞く立場、コーディネートする立場を経験することができる。

・日常生活に密着したテーマを選ぶことで実感を伴ったディベートにすることができる。また、話し合っ  
て得た考えを今後の生活に生かすことができる。

#### 【言語活動】

学校生活上困っていることについてディベートを行う。〈イ〉

### 【単元目標】

①学校生活上困っていることについて話し合い、今後の生活に生かせるように考えをまとめようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②論点や根拠を明確にして、相手の反応を踏まえながら話す。〈「話すこと・聞くこと」イ〉

③自分の立場と異なる相手の論点を的確に聞き取り、反論につなげる。〈「話すこと・聞くこと」エ〉

④音声の働きや仕組みに注意し、ディベートの場面に適した音量や抑揚などで話す。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>ディベートの流れ</b></p> <p>1 最初の主張</p> <p>2 相談</p> <p>3 反論</p> <p>4 相談</p> <p>5 最後の主張</p> <p>6 判定</p> </div>		<p><b>ディベートの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習した討論会を思い出し、資料を参考にディベートの流れ、「話すとき」「聞くとき」「司会（フロア）のとき」にそれぞれ注意すること、自分とは異なる考え方に触れて意見を深めたことを確認する。</li> <li>・事前アンケート「学校生活で困っていること」からディベートのテーマを学級全体で三つ選ぶ。</li> <li>・3人1グループを作る。3グループが1集団となり、役割を交代しながらディベートを行うことを知る。</li> <li>・テーマについて、賛成・反対の立場を割り振る。自分の感情や価値観にとらわれず客観的な見方をすること、議論の仕方・説得の仕方を学習する場であること、ディベートを通して多面的なものの見方や考え方を身に付けることを確認する。</li> </ul>
2 3 4 5	<p>②論点や根拠を明確にして、相手の反応を踏まえながら話している。</p> <p>〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>③自分の立場と異なる相手の論点を的確に聞き取り、反論につなげている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」エ〉</p> <p>④音声の働きや仕組みに注意し、ディベートの場面に適した音量や抑揚などで話している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(7)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>評価シート (聞き取りメモ)</p> <p>評価シート (聞き取りメモ)</p>	<p><b>ディベートの準備をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張は論点を整理し順序よく話すこと、誰もが納得できるような根拠を示すこと、接続語を効果的に用いることなどを確認する。</li> <li>・一つめのテーマについて各自立論を考えた後、グループで紹介し合う。グループとしての意見をまとめ、「最初の主張」にする。</li> <li>・相手の主張を予想し、それに対してどのような反論ができそうか、最後にどのようなことを主張するか考え、グループとしての意見をまとめる。</li> <li>・「最初の主張」「反論」「最後の主張」を役割分担する。</li> <li>・グループで話し合ったことを基に、説得力のある話の構成と話し方になるよう各自考える。その後、聞き合い助言し合う。</li> <li>・二つめのテーマについても同様に準備する。</li> </ul> <p><b>モデルディベートで評価の視点を理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すとき」「聞くとき」「司会（フロア）のとき」に注意すること（視点）と、議論の仕方を学ぶというディベートの目的を確認する。</li> <li>・代表の集団がディベートをする。それ以外の集団は、視点に沿って、話の構成や話し方に説得力はあるか、相手の論点を的確に聞き取り反論につなげているか、メモを取りながら評価シートに記入する。</li> <li>・モデルのよかったところや改善案について話し合い、自分たちのディベートに生かせる点は取り入れる。</li> </ul> <p><b>ディベートを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団ごとディベートを行う。最後に司会グループが判定をし、視点に沿って論評を述べる。ディベートを行ったグループは自己評価する。</li> <li>・他のテーマについても同様に行う。</li> </ul>
6	<p>①学校生活上困っていることについて話し合い、今後の生活に生かせるように考えをまとめようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>振り返り用紙</p>	<p><b>ディベートのまとめをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つのテーマについて立場を離れて自由に意見を述べ合う。</li> <li>・それぞれ相手の意見を踏まえて話すことについて、どんな点に気を付けるとよかったか話し合う。</li> <li>・テーマ及び話し合い方について、ディベートを通して自分の考えが変化したことに注意して振り返りを書く。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②思い付いたことを付箋に書き出させ、選択したり並び換えたりして効果的な主張になるように話す順序を考えさせる。〈イ〉
- ③モデルディベートについて、聞き取った内容を尋ねる。聞き取りが不足する場合は、具体的な内容を提示する。〈エ〉
- ④自分の述べる意見についてキーワードを決めさせ、そこを強調して話してみるよう助言する。〈イ(7)〉
- ①討論を通して新たに考えたことを尋ねる。また、誰の話し方・聞き方がよかったか尋ねる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A話すこと・聞くこと〔中学校第2学年〕

### 【目標】

目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。  
イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。  
ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。  
エ 話の論理的な構成や展開などに注意し、自分の考えと比較すること。  
オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

### 【言語活動例】

- ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。  
イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 話し合いの話題を捉えて的確に話す。
- 相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる。
- ◆相手の立場や考えを尊重する。
- ◆互いの発言を検討して自分の考えを広げる。

### 【身に付けさせたい力】

- ①相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。  
〈「話すこと・聞くこと」オ〉
- ③相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解すること。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

### 【言語活動例】社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。〈イ〉

### 【単元名】パネルディスカッションをしよう～目的に沿って話し合い、自分の考えを広げる～

### 【教材名・教材の特長】「パネルディスカッションをしよう」（三省堂 光村図書 2年）

- ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合うことができる。
- ・自分と異なる考え方に触れる機会となる。

### 【言語活動】

テーマについてパネルディスカッションをする。〈イ〉

### 【単元目標】

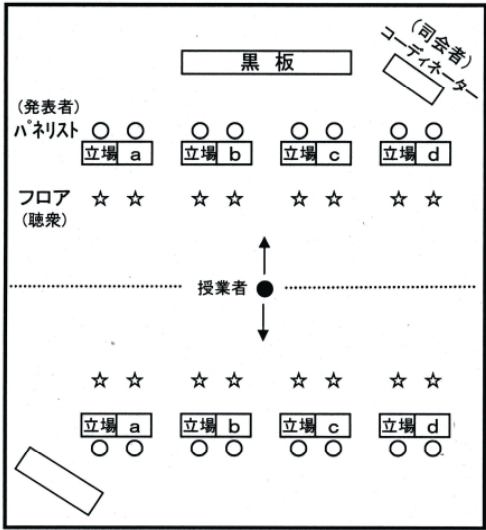
- ①相手の立場や考えを尊重してパネルディスカッションをしようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手の考えを尊重し、テーマに沿ったパネルディスカッションをし、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。  
〈「話すこと・聞くこと」オ〉
- ③異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう述べ方や構成を工夫する。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

### 【Cと評価した生徒への手立ての例（右記の評価規準の順）】

- ③自分の言いたいことを付箋に書かせ、言いやすい順番に並べるよう助言する。〈イ(オ)〉
- ②自分とは違う立場のグループの考えを聞き取るよう助言する。〈オ〉
- ①考え方には、様々なものがあることを教える。〈国語への関心・意欲・態度〉



時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	<p><b>パネルディスカッションの流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめの言葉(コーディネーター)</li> <li>2 パネリストの発表</li> <li>3 パネリストの相互の質問・意見交換</li> <li>4 フロアからの質問・意見</li> <li>5 パネリストからのまとめ</li> <li>6 終わりの言葉(コーディネーター)</li> </ol>		<p><b>パネルディスカッションについて学び、学習の見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを活用し、パネルディスカッションとはどういうものかを知る。また、どんな時に使えるのか、今後の活用場面なども考える。</li> <li>・教科書でパネルディスカッションの進め方を確認する。司会や提案者などの役割については、小学校での既習内容であることから、復習として確認する。</li> <li>・パネルディスカッションをする目的や行う際の留意点等を確認する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①相手の立場や考えを尊重する。</li> <li>②同じ立場や違う立場の考えを聞いて、自分の考えを広めたり、考え直したりする。</li> </ol> </li> <li>・テーマと立場の例を参考に、自分たちのクラスで挑戦してみたいテーマと考えられる四つの立場(a～d)を想定し決定する。 例・海外の中学生に日本を紹介するとしたら、何を取り上げるのがよいか。(a 豊かな自然・b 進んだ技術・c 伝統的な文化・d 名所)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツをする目的とは何か。 (a 心身を鍛える・b 相手に勝つ・c 楽しむ・d 自分の世界を広げる)</li> <li>・最も優れた飲料容器は何か。(a 缶・b 瓶・c 水筒・d ペットボトル)</li> <li>・地球温暖化の抑制のために最も力を入れるべきことは何か。 (a 全車エコカー化・b 環境税の導入・c サマータイム導入・d ゴミの定量制限)</li> <li>・命を大切にす気持を育てるためには、どんな体験学習をするのがよいか。(a 生物飼育・b 映画鑑賞・c 保育園訪問・d 救命救助講習)</li> </ul> </li> </ul>
3 4	<p>③異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう述べ方や構成を工夫している。 (言語についての知識・理解・技能イ(ハ))</p>	発表原稿	<p><b>資料を集める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四つの立場が2グループずつになるように分ける。 例：32人学級の場合 4人×8グループ(4立場×2グループ)</li> <li>・決定した自分たちのグループの立場を支えてくれるような資料や情報を、新聞や書籍、雑誌、インターネットなどから集める。(個人学習→グループ集約→発表役割分担)</li> </ul> <p><b>発表内容を組み立てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を分かりやすく、短くまとめて示す。簡潔に示せるようポスターなどにキーワードや必要な情報(グラフや表など)を書く。発表の際、活用する。</li> <li>・根拠として提示する情報は、どこから入手したのか(情報源)を示し、自分の意見を支える内容であることを明らかにする。</li> <li>・異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう、述べ方や構成を工夫する。</li> </ul> <p><b>役割を確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネリスト(発表者)の内容を確認し順番を決める。同じ立場のグループ同士で、パネリストの発表内容や異なる立場や考えの人とどのように討論するか、相談する。</li> <li>・同じ立場のグループ同士で発表練習する。質問などの対策も考えておく。</li> <li>・コーディネーター(司会者)を選ぶ。</li> <li>・コーディネーター、パネリスト以外は、フロア(聴衆)として討論に参加する。</li> </ul> <p><b>パネルディスカッションを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2箇所まで2回行い、全員がパネリスト、聴衆役を経験できるようにする。</li> <li>・話し合いの目的や留意点を確認する。</li> <li>・教科書にある「パネルディスカッションの流れ」に沿って、話し合いを進める。</li> <li>・パネリストの主張や根拠を自分の考えと比べながら検討し、自分の考えを広げ深めることを確認する。</li> <li>・評価用シートを活用し、メモを取っていくことを確認する。</li> </ul> <p><b>パネルディスカッションについて振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目① 相手の立場や考えを尊重しながらパネルディスカッションをすることができたか。 [A B C D]</li> <li>・項目② 同じ立場や違う立場の考えを聞いて、自分の考えの広がった点や変わった点などについて記入する。</li> </ul>
5 6 7	<p>②相手の考えを尊重し、テーマに沿ったパネルディスカッションをし、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 (「話す・聞く能力」オ)</p> <p>①相手の立場や考えを尊重してパネルディスカッションをしようとしている。 (「国語への関心・意欲・態度」)</p>	発表 評価シート  振り返りカード	



## A 話すこと・聞くこと〔中学校第3学年〕

### 【目標】

目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。
- イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
- ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
- エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 時間や場の条件に合わせてスピーチしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。
- イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して生かそうとする。

◆話し合いの進行の仕方を工夫し、互いの意見のよさと課題を区別しながら効果的な話し合いを行う。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて、課題解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉

②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉

③敬語を適切に使うこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。〈イ〉

### 【単元名】課題解決に向けて話し合おう～説得力のある意見を述べ合う～

【教材名・教材の特長】「意見を生かして話し合うには一説得力のある意見を述べ合うー」(教育出版 3年)

- ・話題設定において、「総合的な学習の時間」等との関連を図ることができる。
- ・説得する上で考えの根拠を明確にし、論理的な話の構成を考える上で適している。
- ・建設的な話し合いをするために、司会や参加者の役割を考える上で適している。

### 【言語活動】

自分たちにできるボランティアについて、相手を説得するために意見を述べ合う。〈イ〉

### 【単元目標】

①学級で取り組むボランティア活動について、聞き手を説得するために意見を述べ合い、考えを深めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの意見を生かし合う。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉

③敬語などの丁寧な言い方を理解し、場面に応じて使う。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>話題を設定し、話し合うことへの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な学習の時間」での福祉学習を想起させ、自分たちができることについて話し合う。(総合的な学習の時間との連携)</li> <li>・話題を決定し、話し合いの目的を明確にする。</li> </ul> <p>「今、私たちにできるボランティア」について、グループごとに取組を提案し、それを基にクラスで提案する内容を決めていくことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にある『「対話」とは何か(多田孝志)』を読み、話し合うことの意味や姿勢について理解する。</li> <li>・モデルとなる話し合いの様子を表した映像と文章を基に、「提案することの意味や特徴、効果的な司会の進行の仕方や互いの意見を生かす話し合いの仕方、結論の出し方、言葉遣い(敬語)について考える。</li> </ul>
2	②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの意見を生かし合っている。	ワークシート	<p><b>提案内容を吟味し、話の順序や予想される質問等について考えるなど、提案に向けての準備をグループごとに行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会を中心に提案内容を吟味し、決定する。 例：市内の飲食店に、作成した点字メニューを置いてもらう。</li> <li>・提案理由として、「問題となっている事実」や「自分たちの提案内容の効果」等を明確にする。</li> <li>・提案するに当たっては、必要に応じて取材活動を行い、効果的な資料を作成する。</li> <li>・幾つかの質問や反対意見を想定し、回答を考える。</li> <li>・話の順序を決め、役割分担をする。</li> </ul> <p><b>話し合いをする(1回目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会等の進行の仕方、話し合いの目的、話し合いの仕方や方向性、言葉遣い(敬語)について効果的な方法や適切な在り方等を確認する。</li> <li>・各グループが「進行」「提案」「話し合い出席者」「フロア(話し合いの仕方を評価)」の役を担当し、役割を交代しながら、繰り返して話し合いを進める。※5グループの場合は5回</li> <li>・質疑応答の中で、よいところを指摘し合ったり、意見の修正をしたりするなどして、提案内容に生かすようにする。</li> </ul> <p><b>話し合いを評価する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの提案ごとに、フロアの評価を参考に、話し合いの仕方について視点に即した評価を行う。</li> <li>・評価を次に生かし、話し合いの仕方を向上させる。</li> </ul> <p><b>話し合いをする(2回目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出された提案の中から、最も効果的な内容を一つ決定し、学年に提案する。</li> </ul> <p><b>自らの言語活動を振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案の仕方、話し合いの仕方について振り返り、効果的な話し合いの仕方についてまとめる。</li> </ul>
3			
4	③敬語などの丁寧な言い方を理解し、場面に応じて使っている。		
5	①学級で取り組むボランティア活動について、聞き手を説得するために意見を述べ合い、考えを深めようとしている。	聞き取りメモ 評価シート	
6			
7	〈国語への関心・意欲・態度〉	振り返りカード	

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②話し合いの手順や仕方を示し、それに従って話し合いを進行させる。(エ)
- ③互いの意見を理解したり尊重したりする上で、敬語を用いることの効果について考えさせる。(イ(ア))
- ①それぞれの提案内容のよさと課題を区別し、生かす方法を考えさせる。(国語への関心・意欲・態度)

**A 話すこと・聞くこと〔高等学校 国語総合〕**

**【目標（国語総合）】**

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

**【指導事項】**

ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。

イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。

ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

**【言語活動例】**

ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。

イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。

ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。

**【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力**

○話題に対する自分の考えをまとめ、分かりやすく伝える。

○資料などを活用して説得力のある話をする。

◆論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。

※すでに「読むこと」の単元において「水の東西」を学習しており、その際「比較文化」というテーマで並行読書を行っている。

**【身に付けさせたい力】**

①国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨く態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉

②話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して自分の意見を述べること。〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

**【言語活動例】**状況に応じた話題を選んでスピーチをしたり、資料に基づいて説明したりすること。〈ア〉

**【単元名】「東西文化比較」のスピーチをしよう～論理の構成や展開を工夫して自分の意見を述べる～**

**【教材名・教材の特長】（「水の東西」 山崎正和）**

・「水の東西」において既習の構成や表現方法を参考にすることができる。

・並行読書等を通して得た知識や情報を活用することができる。

**【言語活動】**

「水の東西」を参考に、東洋と西洋の文化を対比させる事物を選び、資料に基づいて文化の特徴を説明する。〈ア〉

**【単元目標】**

①資料に基づいて東洋と西洋の文化の特徴を説明することを通して、表現の効果について適切に判断する能力を向上しようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉

②与えられたテーマについて、様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の展開や構成を工夫して意見を述べる。〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③文や文章の組立て、語句の意味、用法や表記の仕方を理解し、スピーチ原稿の作成に生かす。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「水の東西」を参考に「東西文化比較」のスピーチをするという目標を知り、材料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表グループ（4人程度）を構成する。</li> <li>・「水の東西」で学習した文化比較を参考に、水に代わる事物を各グループで一つ選び、西洋文化と東洋(日本)文化を比較したスピーチを行うことを知る。</li> <li>・中学校で行ったポスターセッションやスピーチを振り返り、効果的な表現方法を確認する。</li> <li>・グループで話し合い、対象とする事物、そこから考えられる東西の文化について検討する。その際、各自が並行読書してきた作品の内容を出し合い、検討の材料とする。また、事例を伝えるのに適切な表現方法を考える。</li> </ul>
2 3	<p>②与えられたテーマについて、様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の展開や構成を工夫して意見を述べている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」ア〉</p> <p>③文や文章の組立て、語句の意味、用法や表記の仕方を理解し、スピーチ原稿の作成に生かしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解イ(イ)〉</p>	構成メモ スピーチ原稿	<p>スピーチ原稿を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ原稿を作成する際に参考にするという視点で「水の東西」の構成や表現方法を確認する。</li> <li>・具体例を提示していたこと ・対比の特徴を簡潔に示していたこと</li> <li>・論拠を明確に挙げていたこと・写真が効果的に使われていたこと 等</li> <li>・確認した構成や表現方法から用いたい内容を選び、各自でグループのテーマに沿って構成メモを作成する。</li> <li>・構成メモにスピーチする内容を書き加えていく。その際、第1時に確認した効果的な表現方法を参考にする。また、「伝える」ということに視点を置き、文の組立てや語句の用法を吟味する。</li> <li>・各自が作成した構成メモを持ち寄り、「効果的に伝える」という視点で話し合い、グループの構成メモを作る。</li> <li>・構成メモを基にグループでスピーチ原稿を書く。その際、各自の分担を決め、全員が原稿を書くよう留意する。必要に応じてICT機器(プレゼンテーションソフト等)を活用してもよい。</li> <li>・各自が書いた原稿を合わせる。文末やつながりの言葉を整えて、グループのスピーチ原稿にする。</li> </ul>
4 5	<p>①資料に基づいて東洋と西洋の文化の特徴を説明することを通して、表現の効果について適切に判断する能力を向上しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	スピーチ 評価カード 振り返りカード	<p>スピーチの練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにスピーチの練習をする。</li> <li>・2グループでペアを作り、互いのスピーチを聞き合い、疑問点について質問し合う。</li> <li>・質問に答えるという視点でスピーチ原稿の修正を行う。</li> </ul> <p>1グループごとにスピーチを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手は評価カードに評価を記載する。</li> <li>・納得できる事例であったか ・分かりやすい構成であったか</li> <li>・論拠は明確であったか ・適切な表現方法であったか 等</li> <li>・他のグループのスピーチを聞いた後、自分たちのスピーチについて振り返り、内容をカードに記載する。</li> </ul>

## 【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②「水の東西」のノートを振り返り、事例や特徴の対比を確認させる。〈ア〉
- ③書いた文章を声に出して読み合い、聞いた時に意味が通りにくい箇所や分かりにくい表現がないか確認させる。プレゼンテーションソフトやポスター等を用いる場合は、表記にも着目させる。〈イ(イ)〉
- ①スピーチに不安があるグループには、時間と場を設定し再度リハーサルを行わせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

### (3) 「B書くこと」

#### B書くこと〔小学校低学年〕

##### 【目標】

経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

##### 【指導事項】

- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
- オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

##### 【言語活動例】

- ア 想像したことなどを文章に書くこと。
- イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。
- ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。
- エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。
- オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

##### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の経験したことや身の回りの出来事から、したことや見たことを文章に書く。
- 日頃から「思ったこと」「驚いたこと」等の作文の材料になりそうなことをメモに書いて集めている。
- ◆一つの題材に沿って状況が読み手によく伝わるように書く。

##### 【身に付けさせたい力】

- ①経験したことについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くこと。 (「書くこと」ウ)
- ③長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

##### 【言語活動例】経験したことを報告する文章を書くこと。〈イ〉

##### 【単元名】「一年生の思い出アルバム」を作ろう～文と文とのつながりに気を付けて書く～

##### 【教材名・教材の特長】「いい こと いっぱい、一年生」 (光村図書 1年下)

- ・もうすぐ1年生が終わる時期であり、書く材料は比較的多くあるため、書きたいことを選びやすい。
- ・「うれしかったこと」「できるようになったこと」「新しく知ったこと」などを観点にすることによって、書くために必要な事柄を思い出することができる。

##### 【言語活動】

入学後に経験したことの中から心に残った出来事について、経験した事柄や感じたことなどを詳しく思い出して、人に伝える文章を書く。〈イ〉

##### 【単元目標】

- ①入学からこれまでの中で、うれしかったことや驚いたことについて、進んで報告する文章を書くこと。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②自分の思い出が読み手に伝わるように、出来事とそれについて思ったこととのつながりを考えて文章を書く。 (「書くこと」ウ)
- ③長音、拗音、促音、撥音などを正しく表記するとともに、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使う。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>教材文を読み、1年生の思い出のアルバムを作ることに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習してきたノートや作品等を用意し、思い出を発表し合う。</li> <li>・日頃集めておいた作文の材料メモを利用する。</li> </ul> <p>経験したことの中から伝えたいことを選び、思い出アルバムに入れたい事柄を題材カードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生になって経験したことの中で強く心に残ったことについて家の人に伝えることを知る。</li> </ul>
2			<p>選んだ題材について、見たこと、したこと、話したこと、そのとき感じたことなどを思い出して取材カードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材カードは一文で書く。</li> <li>・必要に応じて周りの人にも取材する。</li> </ul>
3	②自分の思い出が読み手に	ワークシート	<p>文と文とのつながりについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル作文について、各段落に「したこと」「他の人から言われたこと」「そのとき思ったこと」「出来事全体を通じて思ったこと」が書かれていることを読み取り、モデル作文の組立てを理解する。</li> </ul>
4	伝わるように、出来事とそ		
5	れについて思ったこととの		
6	つながりを考えて文章を書いている。 〈「書く能力」ウ〉	下書き原稿	<p>組立表を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材カードから作文に書きたいものを選ぶ。</li> <li>・選んだ取材カードを書く順に並び替え、組立表に貼る。</li> </ul> <p>下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組立表に沿って書く。</li> <li>・取材カードに一文で書かれていることに言葉を付け加えてよりよく状況が伝わるように書く。</li> </ul>
7	③長音、拗音、促音、撥音	書き直した	<p>清書をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きを読み直し、より分かりやすく伝えられるように書き加えたり、正しい表記に直したりする。</li> </ul>
8	などを正しく表記するとともに、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉	下書き原稿	<p>書き直した下書きを基に、清書する</p>
9	①入学からこれまでの中	清書原稿	<p>清書した作品を読み合い、感想を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想カードに書いて、互いに交換する。</li> <li>・家の人にも読んでもらい、感想を書いてもらう。</li> </ul>
10	で、うれしかったことや驚いたことについて、進んで報告する文章を書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	下書き原稿等	

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②取材カードの並び順どおりに一度書いてから付け足しができそうなことを考えさせ、付箋に書いて該当する箇所に貼らせる。〈ウ〉
- ③表記の誤りを指摘し、教科書などを参考にしながら正しい表記を理解させる。〈イ(エ)〉
- ①取材カード、組立表などを活用して思い出アルバムができたことを自覚させ、褒める。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔小学校中学年〕

### 【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。  
イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。  
ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。  
エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。  
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。  
カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。  
イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。  
ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。  
エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 時間的な順序、事柄の順序に従って、文章を書く。
- 書こうとする事柄の中心を明確にして、文章を書く。
- ◆段落相互の関係を意識しながら、目的に応じて中心となる内容の具体的な事例を挙げて説明する。

### 【身に付けさせたい力】

- ①相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めなどの必要な箇所は行を改めて書くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

【言語活動例】 疑問に思ったことを調べて、学級新聞などに表したりすること。 〈イ〉

### 【単元名】 学級新聞を作ろう～中心を明確にし、理由や事例を挙げて書く～

#### 【教材名・教材の特長】 「学級新聞を作ろう」(教育出版 4年上)

- ・目的に応じて、構成や使う語句、言葉の使い方などを工夫しながら書く上で適している。
- ・伝えたい内容に応じて、取り上げる内容を選択したり見出しを工夫したりする上で適している。
- ・中心となる内容を明確にし、段落相互を関係付けながら書く上で適している。

#### 【言語活動】

学校生活において関心を持った出来事を、学級新聞に表す。 〈イ〉

### 【単元目標】

- ①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書く。 〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉



【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p><b>各グループで新聞を作ることの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に知らせることを目的に、全校遠足、社会科見学、交通安全教室など、学校生活で伝えたい出来事を思い出す。</li> <li>・モデル新聞を基に、事実を客観的な立場で知らせる新聞の役割や、構成の特徴を理解する。</li> <li>・記事の内容、分担（トップ記事や編集後記等）、各記事や写真・図を載せる場所、字数などを決定する。</li> </ul>
3 4 5 6 7	<p>②書こうとすることの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書いている。 〈「書く能力」ウ〉</p>	<p>取材メモ</p> <p>構想メモ</p>	<p><b>取材活動を行い、取材メモを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料が不足している場合には、必要に応じてインタビューやアンケート調査などを行う。 例：班の人に特に思い出に残った出来事や理由など、詳しい様子を聞く。（遠足記事）</li> </ul> <p><b>記事の構想メモを作成し、交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事内容の中心を明確にし、出来事の概要、具体的な内容、理由などを、付箋を使って分けて書き、組み立てる。</li> <li>・構想メモを互いに見合い、内容や順序について吟味する。</li> </ul>
8 9 10 11	<p>③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書いている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉</p> <p>①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>下書き原稿</p> <p>清書原稿</p> <p>評価カード</p>	<p><b>構成メモを基に、記事の下書きを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ、どこで、誰が、何を、どのように、どうした」を、落とさずに書く。</li> <li>・一文が長くなならないよう、文脈に応じて句読点を打ったり、内容や長さに応じて段落を分けたりする。</li> <li>・中心となる内容に合わせて写真・図を選んだり見出しを付けたりする。</li> </ul> <p><b>下書きを推敲し、交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事内容の中心が明確であるか、また、具体的な事例や出来事の原因等の必要な事柄を落とさずに表せたか、記事を見せ合い吟味する。</li> </ul> <p><b>記事を配置し、新聞を仕上げる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の名前やデザインを工夫したり、記事を枠で囲んだりするなどして、見やすくする。</li> </ul> <p><b>視点に沿って説明し合い、記事について評価し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事づくりで工夫、意識したことを説明し合う。</li> <li>・評価カードに自他班の感想を書く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例や理由等の必要な事柄が、書かれているか。</li> <li>・伝えたいことの中心が明確であったか。</li> </ul> </div>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②伝えたい内容に合わせて収集した情報等を三つ程度に絞らせ、順序を考えさせる。〈ウ〉
- ③主語や並列する語の後に読点を打つなど、低学年での既習事項を思い出させる。〈イ(イ)〉
- ①家族が知りたいことと自分が伝えたいことを考えさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔小学校高学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

### 【言語活動例】

ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

### 【「書くこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○説明文の学習を通して、段落構成の工夫が分かりやすさにつながることを理解する。

○図・表・グラフ等を取り入れて文章を書く。

◆課題を設定したり、自分の目的に応じて必要な材料を取捨選択したりする。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 〈「書くこと」ア〉

③文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

【言語活動例】 自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書くこと。〈イ〉

### 【単元名】 レポートを書こう ～書きたい事柄に合わせて材料を選ぶ～

#### 【教材名・教材の特長】 「分かったことを報告しよう」(学校図書 5年上)

・調べたことを読み手に分かりやすく伝えるためには、引用や図表・グラフ等を使うことも必要である。既習教材「表やグラフを使って伝えよう」の学習を活用することができる。

・レポートの書き方を学ぶことによって、他教科等に生かすことができる。

#### 【言語活動】

設定した課題について調べ、分かったことについて図表等を取り入れてレポートにまとめる。〈イ〉

#### 【単元目標】

①設定した課題について調べたことや考えたことが伝わるように、文章全体の構成をを考えてレポートを書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②設定したレポートの課題について、集めた材料を整理したり構成を踏まえて更に必要な材料が何かを考え追加の取材をしたりする。 〈「書くこと」ア〉

③調べたことや考えたことが伝わるように構成を工夫する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>レポートを書くことの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科「食料生産」の学習を振り返り、レポートでどのようなことを伝えたいのかグループで話し合う。</li> </ul> <p>(社会科との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のモデル文等を基に、レポートには「調べようと思ったわけ」「調べたこと」「調べて分かったこと」を書くことや、使うとよい表現について知る。</li> <li>・図表を使うと分かりやすく、読み手を引き付けられることを、既習の教材やモデル文で確認する。</li> <li>・伝えたい内容を伝えるために適切な材料が使われているか、図表が適切な箇所に配置されているか、モデル文を分析する。</li> </ul>
2			<p><b>レポートの課題を決定する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の教科書や資料集の図表を基に、疑問に思ったことや考えたことを付箋に書き出す。</li> <li>・グループで付箋を紹介し合う。</li> <li>・最も関心の高いものを自分のレポートの課題に設定する。</li> <li>・課題に選んだ理由をワークシートに書く。</li> <li>・書いたレポートは、学級の友達と伝え合うことを知る。</li> <li>・どのような方法で取材をするのか見通しを持つ。</li> </ul>
3	<p>②設定したレポートの課題について、集めた材料を整理したり構成を踏まえて更に必要な材料が何かを考え追加の取材をしたりしている。</p> <p>〈「書く能力」ア〉</p> <p>③調べたことや考えたことが伝わるように構成を工夫している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(キ)〉</p>	取材カード	<p><b>レポートに必要な材料を収集する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な材料を集め、取材カードに書く。</li> <li>・集まった取材カードを取捨選択・整理する。</li> <li>・不足している情報を学校図書館の本やインターネット等を使って調べたり取材したりして集め、取材カードに書く。</li> </ul>
4		構成表	<p><b>構成表を作る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時のレポートの書き方を思い出す。</li> <li>・説明文の学習で身に付けた段落構成を生かし、取材カードを書こうと思う順に並び替える。</li> <li>・どこに図・表・グラフを入れると自分の考えがよく伝わるか考える。</li> <li>・不足する情報について追加取材をする。</li> </ul>
5			<p><b>構成表を基にレポートの下書きを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語を効果的に使う。</li> </ul>
6	<p>①設定した課題について調べたことや考えたことが伝わるように、文章全体の構成を考えてレポートを書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	下書き原稿	<p><b>下書きを推敲する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下書き原稿を読み合い、伝えたい内容に適した材料を選んで書いているか評価し合う。また、文章構成や論の進め方、表現のよさなどに気付いたり、情報源を知ったりする。</li> </ul>
7		推敲した	<p><b>レポートを清書し、読み合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを清書する。</li> <li>・レポートを読み合い、伝えたい内容に適した材料を選んでいるかなどの観点に沿って、互いのよさを交流カードに書く。</li> </ul>
8		下書き原稿	
9		清書原稿	

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②取材カードに書いた内容がレポートの課題に適しているか、1枚ずつ確かめさせる。〈ア〉
- ③複数の文章構成を示し、どの構成が分かりやすいか判断させる。文章を書く段階では、接続語を使って一文を短く書かせる。〈イ(キ)〉
- ①材料や構成のよいところを認め、モデル文を参考に書き出してみるよう助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔中学校第1学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えた的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。

イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。

ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。

オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

### 【言語活動例】

ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。

イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。

ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

### 【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。

◆伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。

※書いたものを基に友達と交流して、根拠の材料の用い方、根拠の明確さについて互いに意見を述べる活動を経験している。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、的確に書く能力を身に付け、考えをまとめようとする態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと。

〈「書くこと」ウ〉

③書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

〈「書くこと」オ〉

④事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【言語活動例】 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。〈ア〉

### 【単元名】 鑑賞したことを文章に書こう～伝えたい事柄を根拠を明確にして書く～

#### 【教材名・教材の特長】 「根拠を明確にして書くには」（教育出版 1年）

・ 絵画作品を例に、例文が提示され、鑑賞文を書く上で注意すべき要点をまとめてあるので、根拠を明確にして書くことの大切さを理解することができる。

・ 「根拠を明確にして書く」こととそのための表現が具体的に例示されている。

#### 【言語活動】

美術作品について鑑賞したことを文章に書く。〈ア〉

### 【単元目標】

①美術鑑賞で感じたことを的確に文章にまとめようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。

〈「書くこと」ウ〉

③書いた文章を互いに読み合い、意見を述べ合って自分の表現の参考にする。〈「書くこと」オ〉

④事象などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中で使う。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>美術作品について鑑賞したことを文章に書くという見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東大寺金剛力士像，俵屋宗達「風神雷神図」を見て，興味を持った一方を選び，感じたことや心に強く残ったことをメモする。</li> <li>・教科書の例文「牛乳を注ぐ女」(フェルメール作)を読み，下の3点について確認する。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画作品を見て，強く印象に残ったことを文章の中心にする。</li> <li>・自分が強く心に残ったことは，鑑賞に関する用語（形・色彩・材料・光・動き・奥行き等）の，何に注目して得られたものかを明らかにする。</li> <li>・感じたことの根拠を，つなぐ言葉や文末表現（「それは～からです。」「なぜなら～からです。」等）を効果的に用いて書く。</li> </ul>
2 3	<p>②伝えたい事柄について，根拠を明確にして書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p> <p>④事象などを表す多様な語句について理解を深め，文章の中で使っている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>下書き用紙</p>	<p>※第1時は美術担当の教師とT.T.で行うことも考えられる。</p> <p>選んだ美術作品について，自分の印象が何に着目したものを確認し，感じたことを記述する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術品の写真を載せたワークシートを使い，根拠となる部分に矢印を引きながら印象を記す。</li> <li>・記したもののから，特に文章にしたいものを選ぶ。</li> <li>・印象に残ったことが，鑑賞に関する用語の何に着目したのかワークシートに書き加える。</li> </ul> <p>根拠を明確にして，400字程度の下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残ったことを，着目した点とその根拠を組み合わせ，順序を考えながら書いていく。</li> <li>・感じたことを表現する語彙を探すために辞書や類語辞典，類語集などを参考にする。</li> </ul> <p>下書きをグループで読み合い助言し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残ったこととその根拠となる記述について説明をする。</li> <li>・使用した用語や表現という点について助言し合う。</li> </ul>
4 5	<p>③書いた文章を互いに読み合い，意見を述べ合って自分の表現の参考にしていく。</p> <p>〈「書く能力」オ〉</p> <p>①美術鑑賞で感じた印象を的確に文章にまとめようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>清書用紙</p>	<p>グループでの助言を参考にして推敲し，清書する</p> <p>清書を読み合って，互いの感想から自分の文章について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を述べ合い，それをもとにして自分の文章について振り返ったことを清書用紙の左隅の枠に記入する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②自分が感じたことを率直に表現させ，それは作品の何によるものかを考えさせる。〈ウ〉
- ④表現したい語彙を探すための辞書の使い方について，例を挙げながら説明する。〈イ(ウ)〉
- ③友達の下書きを読んで共感できるところに注目して，感想を述べるよう助言する。〈オ〉
- ①感じたことの根拠になるのは作品のどの部分か，説明する表現を考えさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔中学校第2学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫してわかりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。  
イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文書の構成を工夫すること。  
ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。  
エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。  
オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言したりして、自分の考え方を広げること。

### 【言語活動例】

- ア 表現の仕方を工夫して、詩歌を作ったり物語などを書いたりすること。  
イ 多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。  
ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

### 【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 書くために集めた材料を分類することができる。
- 身近な日常生活の中から課題を決めることができる。
- ◆多様な方法で書くための材料を集めながら自分の考えをまとめる。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。〈「書くこと」ア〉
- ③相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。〈イ〉

### 【単元名】レポートを書こう～多様な方法で材料を集め自分の考えをまとめる～

#### 【教材名・教材の特長】「資料を収集して自分の考えを書くには」（教育出版 2年）

- ・「書くこと」の学習過程のうち、資料を収集し自分の考えをまとめることが中心になっているので、指導事項を絞った指導をするのに適している。
- ・社会生活の中で課題を見付け、具体的な取材の方法とレポートの基本的な形式を知ることができる。

#### 【言語活動】

国語に関する世論調査をきっかけにして、関心ある事項のレポートを書く。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①国語に関することについて、レポートを書いて考えを広げようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②国語に関する調査から自分の課題を決め、材料を集めて自分の考えをまとめる。〈「書くこと」ア〉
- ③目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>文化庁「国語に関する世論調査」を見て、関心のある事項についてレポートを書くという見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの形式とレポートに適した文体を知り、自分の考えを形式に従ってまとめていくことを知る。</li> <li>・レポートの形式や書き方を学習する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 題名・日付・報告者</li> <li>2 課題と取り上げた理由</li> <li>3 調査の方法</li> <li>4 調べた内容</li> <li>5 まとめ（意見・今後の課題など）</li> <li>6 参考資料（出典を明示する）</li> </ol> </div>
2 3	<p>②国語に関する調査から自分の課題を決め、材料を集めて自分の考えをまとめている。 〈「書く能力」ア〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>下書き用紙</p>	<p>「国語に関する世論調査の結果」の中から関心のある事項を見付け、それに関して必要な資料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世論調査の結果の記述内容やグラフ等から読み取れることを確認する。</li> <li>・「国語に関する世論調査の結果」を読んで感じたことをグループで共有し、自分が一番関心のある事項を見付ける。</li> <li>・調査結果から関心のある事項をワークシートに書き出す。</li> <li>・関心のある事項について自分の意見をまとめるために、身の回りの人のインタビューへの回答、新聞、書籍などを資料として集める。</li> </ul> <p>関心のある事項に対して自分の主張や意見、今後の課題などを文章にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた資料を参考に自分の主張又は意見を文章にまとめる。</li> </ul>
4 5 6	<p>③目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。 〈言語についての知識・理解・技能イ(オ)〉</p> <p>①国語に関することについて、レポートを書いて考えを広げようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>清書レポート 感想用紙</p>	<p>国語について関心のある事項のレポートを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの項目に従ってA4用紙2枚程度で下書きする。</li> <li>・推敲後、清書する。</li> </ul> <p>グループでレポートを読み、感想を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人から4人のグループで回し読みをしてA5判程度の大きさの紙に感想を記入して本人に渡す。</li> </ul> <p>全員のレポートを一まとめにして「国語に関するレポート集」にする</p>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②普段の生活の中で気になる言葉や言い回しを考えさせる。〈ア〉
- ③レポートと他の文章とは文体に違いがあることを確認させる。〈イ(オ)〉
- ①各項目の分量は少なくとも、レポートの形式で書くようにする。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔中学校第3学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。

ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。

エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

### 【言語活動例】

ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。

イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。

### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成について助言したりして自分の考えを広げる。

◆事実や事柄、意見や心情が相手に伝わるように、具体例を加えるなどの工夫をして書く。

◆具体的事実を一般化し、自分の意見の妥当性へと結び付けて書く。

※本単元の前に「読むこと」の単元として「論語」を学習しており、孔子の言葉を実生活との関係の中で理解している。学んで時にこれを習ふー「論語」から（光村図書3年）

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くこと。

〈「書くこと」イ〉

③古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

### 【言語活動例】 目的に合わせてメッセージを書く。〈その他〉

### 【単元名】 下級生にメッセージを書こう～展開や引用内容を工夫して説得力のある文章を書く～

### 【教材名・教材の特長】（「論語」光村図書 3年）

・「読むこと」の授業において、全部で四節の孔子の言葉を学んでいるが、そのどれもが中学生が自分自身の生活において実感できるものである。

・古代中国の思想と現代の考え方に相違がないことを知ることができる。

### 【言語活動】

「論語」の一節を引用して下級生へのメッセージを書く。〈その他〉

### 【単元目標】

①中学校生活を振り返り、下級生に伝えたい内容をメッセージとして書こうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②下級生に向けて書くメッセージの中に、「論語」の一節を引用して、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書く。

〈「書くこと」イ〉

③「論語」の一節を引用して、下級生へのメッセージを400字程度で書く。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉



【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>既習の「論語」の内容を振り返り、それらの言葉を引用して下級生にメッセージを書く見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「論語」の言葉について振り返り、それぞれの言葉の意味を確認する。</li> <li>・それぞれの言葉について、自分たちの生活の中で同じように感じた経験はないか話し合い、それはどのような時だったのか発表し合う。</li> <li>・卒業を前に「論語」の言葉を使って、下級生に400字程度のメッセージを書くという課題を持つ。</li> <li>・自分が引用したいと思う一節をワークシートに書き、その一節と関連のあるエピソードや体験をクラスで出た意見を参考に複数書き出す。</li> </ul>
2 3	<p>②下級生に向けて書くメッセージの中に、「論語」の一節を引用して、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書いている。</p> <p>〈「書く能力」イ〉</p> <p>③「論語」の一節を引用して、下級生へのメッセージを400字程度で書いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能ア(イ)〉</p>	<p>ワークシート メッセージ原稿 文集</p>	<p><b>メッセージ原稿を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書き出したエピソードや体験の中から、「論語」の言葉の具体例として、最も合っていると思うものを一つ選ぶ。</li> <li>・言葉と具体例から、下級生に伝えたいことを一文で書く。</li> <li>・「選んだ言葉、具体例、伝えたいこと」の三つの項目をワークシートに整理し、ペアで交流する。その際、「伝えたいことの根拠として具体例が適切か」という視点で推敲し合い、適切な事例を考える。</li> <li>・伝わりやすい構成を考え、400字程度の文にまとめる。その際引用部分が分かるよう「 」で示す等の工夫をする。</li> </ul>
4	<p>①中学校生活を振り返り、下級生に伝えたい内容をメッセージとして書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>感想カード 振り返りカード</p>	<p><b>メッセージを読み合い、評価する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人程度のグループで交流し、評価カードを書いて、互いに交換する。</li> <li>・自分の作品を読み直し、振り返りカードを書く。</li> <li>・印刷したものを下級生に配布する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②三つの項目を「引用する言葉、具体例、メッセージ」の順に並べ文章にするよう助言する。〈イ〉
- ③400字書くことが難しい生徒には、伝えたいことを箇条書きで並べても良いことを伝える。  
〈ア(イ)〉
- ①評価する際には、原稿を推敲した時の「伝えたいことの根拠として具体例が適切か」という視点で読むことを伝える。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔高等学校 国語総合〕

### 【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。

イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。

ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。

エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

### 【言語活動例】

ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。

イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。

ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。

### 【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○対象を的確に説明したり描写したりするなど、表現の仕方を考えて書く。

◆書いた文章について自己評価や相互評価を行って自分の表現に役立てる。

### 【身に付けさせたい力】

①国語を適切に表現し、伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、国語の向上を図る態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 〈「書くこと」ア〉

③対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 〈「書くこと」ウ〉

④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 〈イ〉

### 【単元名】 人物を紹介する～適切な表現の仕方を考えて書く～

【教材名・教材の特長】 「表現の扉 4 体験を聞く」（筑摩書房「精選 国語総合 現代文編 改訂版」）

・人物を紹介するという表現活動について、インタビュー、形式を選択して文章にすること、インタビュー後の礼状など、話を聞くための一連の流れを知ることができる。

・インタビューで聞き取った話をまとめるための具体的な手立てと、多様な形式が紹介されている。

### 【言語活動】

インタビューを基にして身近な社会人の紹介記事を書く。 〈イ〉

### 【単元目標】

①人物を紹介するための適切な表現を考えて、伝える力を高めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②人物を紹介するための文章の形態や文体、語句などを工夫して書く。 〈「書くこと」ア〉

③人物を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書く。 〈「書くこと」ウ〉

④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。 〈言語についての知識・理解イ(イ)〉	ワークシート	<p><b>身近な社会人の紹介文を書くために、新聞や雑誌の人物紹介記事を読む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形式で書かれた新聞や雑誌の人物紹介のコラムや記事を読み、紹介記事の書き方として気付いたことをワークシートにまとめる。(人物を紹介するための効果的な表現について、見出し・小見出しなどの表現について、写真なども含めた全体のレイアウトなど)</li> <li>・紹介記事の形式を知る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①話し手の言葉だけでまとめる形式</li> <li>②聞き手と話し手の問い・答えでまとめる形式</li> <li>③聞き手の報告を地の文として、その中に話し手の言葉を引用して入れていく形式</li> </ol> </li> </ul> <p><b>自分が話を聞きたいと思う人を決め、その動機と質問したい項目をワークシートにまとめる</b></p> <p><b>仕事や趣味で魅力ある生き方をしている社会人に仕事や生き方に関する体験談を聞く</b></p> <p>※長期休暇などを利用してインタビュー取材を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの際の注意点を事前に確認しておく。</li> <li>・許可を得て、録音・写真撮影をする。</li> </ul>
3 4 5 6	②人物を紹介するための文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。 〈「書く能力」ア〉 ③人物を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書いている。〈「書く能力」ウ〉 ①人物の紹介をするための適切な表現を考えて、伝える力を高めようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	ワークシート    下書き 人物紹介の記事  評価用紙	<p><b>主題をまとめる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜこの人の話を聞きたいのか」という自分の動機を思い出しながら取材メモを読み返す。</li> <li>・取材メモから印象深い言葉や感銘を受けたエピソードなどを拾い出し、主題を考えてワークシートにまとめる。</li> </ul> <p><b>自分の伝えたい内容について形式を選択して編集する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を軸に、メモや感想から文章にするものを取捨選択する。</li> </ul> <p><b>記事として文章化する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な見出しや小見出しを考える。</li> <li>・印象に残ったことを適切な表現の仕方でのちに説明する。</li> <li>・記事の形式で下書きし、推敲してから清書して仕上げる。</li> </ul> <p><b>相互評価・自己評価を行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに友達の紹介記事を読んで感じたことと表現の仕方について感じたことを、互いの評価用紙に書き、それを基に自己評価を行う。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ④文中の語の位置を変えたり省略するだけで表現効果が変わることを確認する。〈イ(イ)〉
- ③読みたくなるような文体を決めるために、第一時の記事例を振り返るよう助言する。〈ア〉
- ②話し手の言葉を引用して表記するなど、効果的な表現方法を助言する。〈ウ〉
- ①興味深く感じたことを中心に書くよう助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

#### (4) 「C読むこと」

##### C読むこと〔小学校低学年〕

###### 【目標】

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

###### 【指導事項】

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

###### 【言語活動例】

- ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

###### 【「読むこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 短い文章の中から「問い」と「答え」を見付ける。
- ◆順序や言葉のつながりを考えながら読む。

###### 【身に付けさせたい力】

- ①書かれている事柄の順序や様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②時間的な順序を考えながら内容の大体を読むこと。 〈「読むこと」イ〉
- ③文の中における主語と述語との関係に注意すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)〉

###### 【言語活動例】事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。〈ウ〉

###### 【単元名】すくすく絵巻物を作ろう～時間の順序に気を付けて読む～

###### 【教材名・教材の特長】「まめ」（学校図書 1年下）

- ・豆の生育について、時間の順序を示す言葉を用いて書かれている。
- ・本文を補足する写真が掲載されているので、順序や書かれている内容を確認しながら読むことができる。
- ・生活科等で得た自分の経験や知識と結び付けて、興味を持って読むことができる。

###### 【言語活動】

植物の生育の様子が書かれた本や文章を読み、絵巻物に作り換える。〈ウ〉

###### 【単元目標】

- ①自分の経験や知識と時間的な順序に沿った記述の内容を比べたり結び付けたりしながら植物に関する本を読み、楽しんで絵巻物を作ろうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②時間の順序を示す言葉に注意して豆の生育の様子を捉える。 〈「読むこと」イ〉
- ③豆の生育の様子について、主語と述語を対応させて読む。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>植物が種から育つ様子について書かれた絵本や図鑑について紹介を聞き、興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豆について知っていることを出し合う。</li> <li>・「まめ」の範読を聞く。</li> </ul> <p>学習のめあて「〇〇の絵巻物を作ろう」を知り、絵巻物作りに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作った絵巻物を見て、絵巻物が時間の順序に気を付けて作られていることを知る。</li> <li>・野菜や果物、花などの本を、生育の順序を表す言葉に気を付けて並行読書することを知る。(学校図書館や地域との連携)</li> </ul>
2			<p>「まめ」を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の後に続いて読んだり、ペアやグループなど形態を変えて読んだり、様々な読み方で音読する。</li> <li>・初めて知ったことや驚いたことに線を引き、話し合う。</li> <li>・話合いを通して、更に話し合っていたいことを共通の学習課題として設定する。</li> </ul>
3 4 5	<p>②時間の順序を示す言葉に注意して豆の生育の様子を捉えている。</p> <p>〈「読む能力」イ〉</p>	ワークシート	<p>③～⑩段落を読み、豆の生育順序を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1段落ごと書かれている短冊用紙(③～⑩段落の9枚)を、順序を表す言葉や段落のつながりを考えて並べ替える。</li> </ul>
6 7	<p>③豆の生育の様子について、主語と述語を対応させて読んでいます。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(カ)〉</p>	ワークシート	<p>8枚の写真を豆の生育順序に並べ替え、ミニ絵巻物を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8枚の写真を豆の生育過程に合わせて並べ、なぜその順序になるのか考える。</li> <li>・写真と関係のある段落を対応させる。</li> <li>・「何が、どうしたのか」に気を付けて視写する。</li> <li>・文中に表現されていないが、写真から気付いたことや分かったことを書き足し、交流する。</li> </ul>
8 9 10 11 12	<p>①自分の経験や知識と時間的な順序に沿った記述の内容を比べたり結び付けたりしながら植物に関する本を読み、楽しんで絵巻物を作ろうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>読書記録 作った絵巻物 感想用紙</p>	<p>「〇〇の絵巻物」を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書記録を基に並行読書してきた図鑑や本を見直し、絵巻物の題材を決める。</li> <li>・題材ごとグループを作り、生育の順序を表す言葉に付箋を貼りながら図鑑や本を読む。</li> <li>・付箋を貼った言葉を使って絵巻物を作る。</li> </ul> <p>「絵巻物発表会」を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いた感想を伝え合う。</li> </ul>

## 【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②生育の順序を理解するために、写真と文章を照らし合わせるよう助言する。〈イ〉
- ③豆の生育の様子について、「〇〇が△△する。」の文型に当てはめて考えるよう助言する。〈イ(カ)〉
- ①興味を持っている植物を聞き出し、本を紹介したり一緒に探したりする。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔小学校低学年〕

### 【目標】

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

### 【言語活動例】

- ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

### 【「読むこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○詩や物語の音読に関心が高く、生き生きと読んでいる。

◆場面の様子について想像を広げて読む。

### 【身に付けさせたい力】

- ①場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 〈「読むこと」ウ〉
- ③かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】物語を演じること。〈イ〉

【単元名】お気に入りの場面のペープサート劇をしよう～人物の行動や場面について想像を広げて読む～

【教材名・教材の特長】「お手紙」

（光村図書2年下・学校図書2年下・東京書籍2年上・三省堂2年・教育出版1年下）

- ・会話文が多く、がまくん、かえるくんの様子を想像するときに手掛かりとなる。
- ・シリーズ作品が豊富で、シリーズ読書を通して場面の様子をより豊かに想像することができる。

### 【言語活動】

お気に入りの場面について想像を広げ、ペープサートで演じる。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①シリーズの物語について大好きな作品、お気に入りの場面を見付け、想像を広げながらペープサートで演じようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②お気に入りの場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読む。 〈「読むこと」ウ〉
- ③会話文にはかぎ（「 」）が使われていることを理解して、お気に入りの場面を視写する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p>「ふたりはともだち」所収の作品の読み聞かせを聞き、がまくん、かえるくんシリーズの物語に興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面白いところ、好きなところを述べ合う。</li> </ul> <p>学習のめあて「大好きなお話をペープサート劇にしよう」を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作ったペープサート劇を見て、ペープサート劇が自分の想像した登場人物の動きやセリフを付け足して物語を語っていくものであることを理解する。</li> <li>・「登場人物・場面設定・事件」等のペープサート劇に必要な要素を確認する。</li> <li>・がまくん、かえるくんシリーズについて、大好きな物語やお気に入りの場面を見付けながら並行読書することを知る。<b>(学校図書館や地域との連携)</b></li> </ul>
3 4 5 6 7	<p>②お気に入りの場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいく。</p> <p>〈「読む能力」ウ〉</p> <p>③会話文にはかぎ（「 」）が使われていることを理解して、お気に入りの場面を視写している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	ワークシート	<p>「お手紙」のお気に入りの場面を見付けながら読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割読みなどをしながら繰り返し音読し、挿絵も参考にしながら登場人物の様子や物語の展開をつかむ。</li> <li>・お気に入りの場面を見付け、登場人物、場面設定、事件等を捉える。</li> <li>・なぜそこがお気に入りの場面なのか、場面の様子、登場人物の行動や会話、シリーズの他の作品との関わり、挿絵などを基に話し合う。</li> <li>・お気に入りの場面の中で最も好きな部分を、かぎ（「 」）の使い方に注意しながら視写する。</li> </ul> <p><b>お気に入りの場面をペープサートで演じる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視写した部分を中心にしたペープサート劇をグループで見せ合い、どのような言葉で場面の様子や登場人物の会話を表現しているか、なぜそのような動きやセリフにしたのか交流する。</li> </ul>
8 9 10 11 12	<p>①シリーズの物語について好きな作品、お気に入りの場面を見付け、想像を広げながらペープサートで演じようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>読書記録 ワークシート</p> <p>感想用紙</p>	<p><b>大好きな物語のお気に入りの場面をペープサートで演じる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並行読書してきた物語から好きな作品を選び、好きな理由を明らかにしてお気に入りの場面を決める。</li> <li>・お気に入りの場面を中心に物語を繰り返し読み、場面の様子や登場人物のセリフなど想像したことをワークシートにまとめる。</li> </ul> <p><b>「ペープサート劇発表会」を行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いた感想を伝え合う。</li> </ul>

## 【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②一緒に音読をしながら、好きな登場人物の行動や会話文に線を引くよう助言する。また、好きな理由を考えさせる。〈ウ〉
- ③一文ごと音読してから視写させ、地の文と会話文を比べ、会話文はかぎ（「 」）でくくられていることに気付かせる。〈イ(ウ)〉
- ①「お手紙」で気に入った登場人物について尋ね、その登場人物の行動や会話を手掛かりに他の作品でもお気に入りの箇所を見付けさせる。セリフを一つ増やしてみるよう励ます。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔小学校中学年〕

### 【目標】

目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。  
イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。  
ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。  
エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。  
オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。  
カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

### 【言語活動例】

- ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。  
イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。  
ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。  
エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。  
オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

### 【「読むこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 「始め、中、終わり」の文章構成や「問いと答え」の構成を意識しながら読む。  
○文章の大体の意味を、小見出し等で表したり、要約したりしながら読む。  
◆接続語の役割を意識し、事実と意見との関係を考えながら読む。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的に応じ、段落相互の関係を考えながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)  
②目的に応じて、段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 (「読むこと」イ)  
③接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解すること。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(り))

【言語活動例】 記録や報告の文章を読んで、利用する。〈イ〉

### 【単元名】 説明するために読もう～構成や、事実と意見の関係を考えながら読む～

#### 【教材名・教材の特長】 「むささびのひみつ」「あめんぼはにん者か」(学校図書 4年上)

- ・問題を解決していく論理の展開に共通点があり、比較しながら読むことで、文章構成や表現の工夫など、「文章の書き方の工夫」を理解することができる。
- ・文章全体が「始め・中・終わり」で構成され、「始め・中」が問題解決部分、「終わり」が筆者の意見というように、意見に説得力を持たせるための構成を理解できる。
- ・接続語や文末表現が、内容を整理しながら読む上で、効果的に使われている。

### 【言語活動】

意見文を読み、構成等を参考にしながら自分の意見を説明する。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①二つの意見文の文章構成を参考にしながら、自分の意見を説明しようとする。 (国語への関心・意欲・態度)  
②効果的な意見の伝え方を理解するために、段落相互の関係や、事実と筆者の意見との関係を考えながら読む。 (「読むこと」イ)  
③接続語が、文や段落相互の意味のつながりに果たす役割を理解する。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(り))



時	評価規準	評価方法	学習活動															
1			<p>学習のめあてを理解し、フリップを使って説明する見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間で持った自分の意見を思い出す。</li> <li>教師の演示から、「実験」「実験結果」等のまとまりをフリップに整理し、自分の意見を効果的に伝えることを理解する。</li> </ul>															
2	<p>②効果的な意見の伝え方を理解するために、段落相互の関係や、事実と筆者の意見との関係を考えながら読んでいく。</p> <p>〈「読む能力」イ〉</p> <p>③接続語が、文や段落相互の意味のつながりに果たす役割を理解している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(リ)〉</p>	ワークシート1	<p>A「むささびのひみつ」を読み、効果的な文章構成について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続語に着目しながら、全体を「始め・中・終わり」、「中」を意味段落に分け、文章の構成を理解する。</li> <li>意味段落ごとに内容の中心をまとめ、小見出しを付け、整理する。</li> </ul> <p>【各意味段落を整理するワークシート】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>終わり</td> <td>中②</td> <td colspan="2">中①</td> <td>始め</td> </tr> <tr> <td>筆者の意見</td> <td>実験と意見を つなぐ説明</td> <td>実験結果</td> <td>実験方法</td> <td>課題提示</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>事実（中①）と筆者の意見（終わり）をつなぐために、つなぐ段落（中②）の役割を理解する。</li> <li>写真や図が効果的に使われていることを理解する。</li> </ul> <p>Aでの読み方を使って、B「あめんぼは忍者か」の効果的な文章構成について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aと比べながら、文章の構成の仕方についての共通点を見付ける。</li> <li>二つの教材文の構成の仕方のよさについて、話し合う。</li> </ul>	終わり	中②	中①		始め	筆者の意見	実験と意見を つなぐ説明	実験結果	実験方法	課題提示					
終わり		中②	中①		始め													
筆者の意見		実験と意見を つなぐ説明	実験結果	実験方法	課題提示													
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9	<p>①二つの意見文の文章構成を参考にしながら、自分の意見を説明しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	構想メモ	<p>二つの教材文の書き方に即して文章を構成し、5枚のフリップを使って自分の意見を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の内容や構成に即して、総合的な学習での内容を付箋に書いていく。付箋を整理しながら、構成メモを作る。</li> <li>構成メモを基にして、接続語を使いながら、説明原稿を作成する。</li> <li>説明原稿に照らし合わせて、フリップに図や言葉を書き入れる。</li> <li>互いに説明し合いながら、構成の仕方と接続後の使い方について確認する。</li> </ul> <p>※総合的な学習の時間等において説明する。（総合的な学習の時間との連携）</p> <p>フリップを使って説明したことについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的に意見を伝える文章構成や接続語の効果について、話し合う。</li> </ul>															
10		フリップ																
11		原稿																
12		振り返りカード																

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②文章中の写真と中心となる語句等を示しながら、段落同士の関係に気付かせる。〈イ〉
- ③接続語の意味や役割を、簡単な例文を用いて理解させる。〈イ(リ)〉
- ①意見として伝えたいことを付箋に書き出させ、ワークシート上で整理させる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔小学校高学年〕

### 【目標】

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。  
イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。  
ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。  
エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。  
オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。  
カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

### 【言語活動例】

- ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。  
イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。  
ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。  
エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

### 【「読むこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の思いなどが伝わるように音読や朗読をする。  
◆登場人物の関係や心情、場面についての描写に着目して読む。  
◆自分の読みの立場を明らかにしたり、自分の考えをまとめたり広げたりする。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的に応じ、内容をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
②登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる。 〈「読むこと」エ〉  
③<sup>ゆ</sup>比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ)〉

【言語活動例】自分の生き方について考えること。〈ア〉

### 【単元名】自分の生き方について考えたことをまとめよう～心情・場面についての描写を捉える～

#### 【教材名・教材の特長】「海の命」（光村図書 6年）

- ・登場人物の関係や心情が捉えやすく、特に主人公の心情の変化を叙述を基に読み取ることに適している。
- ・登場人物の考え方を通して自分の生き方を見つめることに適している。

#### 【言語活動】

「海の命」を読んで、自分の生き方について考えたことをまとめる。〈ア〉

#### 【単元目標】

- ①主人公太一の生き方を捉えながら読むことで、自分の生き方について考えようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
②主人公太一を中心に登場人物の心情や場面についての描写を捉える。 〈「読むこと」エ〉  
③比喩表現の工夫に気付く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2 3			<p>これまで読んだ物語の中で自分の経験と関連させて考えを持った学習を思い出す</p> <p>学習のめあて「太一的心情を読み取りながら、自分自身の生き方について考えてみよう」を知ることで見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に太一と自分とを比べてみて思ったことや考えたことをワークシートに書いて、学級の冊子にすることを告げる。</li> <li>・「海の命」を読む。</li> <li>・比喩が多用されていることに気付く。</li> <li>・主人公太一の言動で気になったところに線を引いたり、ワークシートにメモをしたりしておく。</li> </ul>
4 5 6 7	<p>②主人公太一を中心に登場人物の心情や場面についての描写を捉えている。</p> <p>〈「読む能力」エ〉</p> <p>③比喩表現の工夫に気付いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ハ)〉</p>	ワークシート	<p>人物像や登場人物の相互関係を読み取り、太一の成長を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言葉・様子・行動や場面の様子を表す叙述に着目する。</li> <li>・比喩表現の工夫に気付く、意味・内容を理解する。</li> <li>・おとうと与吉じいさの生き方の違いを理解する。</li> <li>・おとうの姿や死、与吉じいさとの出会いと別れを通して、太一はどう変わったのか、太一の生き方やものの見方、考え方についてまとめる。</li> </ul>
8 9 10	<p>①主人公太一の生き方を捉えながら読むことで、自分の生き方について考えようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート	<p>主人公太一の生き方から、自分の生き方を見つめ、考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に線を引いたり、メモをしたりした中から、最も印象に残った箇所を書き出す。</li> <li>・選んだ箇所について、分かったことや感じたこと、考えたことを書き加える。</li> <li>・太一の生き方と今の自分とを比較して、感じたことをまとめる。</li> </ul>
		振り返りカード	<p>冊子（学級全員のワークシートを印刷したもの）を読み、交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を述べたり、質問をしたりして自分の考えを深める。</li> </ul>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

②太一の言動部分に線を引かせ、人物関係図に書き込ませる。〈エ〉

③比喩表現が表す様子を想像させる。〈イ(ハ)〉

①太一の生き方や考え方について意見を持った箇所について、自分ならどうするか表現させる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

## C 読むこと [中学校第1学年]

### 【目標】

目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。  
イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。  
ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。  
エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。  
オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。  
カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

### 【言語活動例】

ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。  
イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。  
ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○文章中の事実と意見などを読み分ける。

◆文章に書かれているものの見方や考え方をとらえたり、自分と照らし合わせたりする。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。  
〈「読むこと」オ〉

③語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。〈ウ〉

### 【単元名】 職人の心に響く言葉や参考となる生き方をブックカード風に紹介しよう ～自分のものの見方や考え方を広める～

#### 【教材名・教材の特長】 「ものづくりに生きる」(学校図書 1年)

- ・仕事が違う二人の職人の生き方や考え方に触れることができる。
- ・キャリア教育の視点としての読み物として適切である。

#### 【言語活動】

様々な本や資料から自分の心に響く職人の言葉や参考となる考え方を見付け、ブックカード風に書く。〈ウ〉

### 【単元目標】

①自分の生き方に参考になる職人のものの見方や考え方を見付け、ブックカード風に書こうとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②文章に書かれている職人としてのものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げる。  
〈「読むこと」オ〉

③「ピシッと」「ユニーク」など語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意する。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			職人の心に響く言葉や参考となる生き方をブックカード風に紹介することへの見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>ルポルタージュであることを理解し、二人の職人としての生き方について読むことを確認する。</li> <li>職人について書かれた本や雑誌などを紹介し、並行読書をしていくことを確認する。 (並行読書用の本や雑誌については、学校図書館のものだけでなく、公立図書館と連携し、学校貸し出しの本等を利用しながら準備しておく。)</li> <li>興味を持った職人のものの見方や考え方を皆にブックカードで紹介することを知る。</li> <li>ブックカードの特徴等を資料を参考に理解する。</li> </ul>
2 3	③「ピシッと」「ユニーク」など語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意している。 (言語についての知識・理解・技能イ(イ)) ②文章に書かれている職人としてのものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げている。 (「読む能力」オ)	ワークシート (ブックカード)	<b>小林英夫さんと鈴木良二さんのどちらかを選び、心に響く生き方を紹介する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>二人のうち一人の職人のものの見方や考え方を紹介することを知り、「ものづくりで生きる」を通読する。</li> <li>捉えにくい語などを確認する。</li> <li>選んだ職人についてワークシートに書かれたブックカードの枠にブックカードの参考資料を活用し、紹介文を書く。</li> <li>引用部分は、かぎ(「 」)でくくることを理解する。</li> <li>グループで見せ合い、仕事に対する考え方や職人としての生き方における共通点や仕事内容の相違点、疑問点などを見付け、ワークシートにメモしておく。</li> </ul>
4 5 6	②文章に書かれている職人としてのものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げている。 (「読む能力」オ) ①自分の生き方に参考になる職人のものの見方や考え方を見付け、ブックカード風に書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ブックカード	<b>自分が興味・関心を抱いた職人について、仕事に対する考え方や職人としての生き方などを盛り込み、ブックカード風に紹介をする</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書してきた本や雑誌などから興味・関心を抱いた職人についてブックカード風に紹介する。その際、リード文やキャッチコピーを入れることや引用は、かぎ(「 」)でくくることを確認する。</li> <li>グループで交流をする。</li> <li>読んだカードの裏に一言感想を書く。</li> <li>カードの裏の自己評価欄に様々な職人の生き方を通して、自分のものの見方や考え方がどのように広がったかなどを記入する。</li> </ul>

## 【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ③「私はピシッと面を一本とられた思いだった。」について、一緒に辞書を引き「ピシッと」の意味を確認し、本文ではどのような意味になるのか説明をする。(イ(イ))
- ②職人について読みやすく書かれた文章を取り上げ、読み聞かせをし、「いいな」と感じたところなどを挙げてみようと言助する。(オ)
- ①「いいな」と感じたところなどを、かぎ(「 」)を使いながら取り上げてみようと言助する。また、ブックカードの参考資料を見せることで、カードの書き方をイメージさせる。

(国語への関心・意欲・態度)

## 【目標】

目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

## 【指導事項】

- ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。  
 イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。  
 ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。  
 エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。  
 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。  
 カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読みとること。

## 【言語活動例】※(中)第2学年を使用

- ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。  
 イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。  
 ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

## 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 登場人物の言動や情景などの描写を捉えながら、心情を想像する。  
 ◆登場人物の言動等が意味することについて、自分の考えをまとめる。

## 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、文章を読み、内容を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。〈「読むこと」ウ〉  
 ③比喩などの表現の技法について理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。〈中学2年 ア〉

## 【単元名】考えたことを交流しよう～登場人物の描写や場面の展開に注意して読む～

【教材名・教材の特長】「少年の日の思い出」（光村図書・学校図書・教育出版・三省堂 1年）

- ・登場人物の言動、語り手の言葉、情景描写などの様々な描写から、登場人物の心情やものの見方を想像することができる。
- ・前半と後半の場面を関連させて読むことで、登場人物の心情や場面の様子を想像することができる。
- ・登場人物の言動について、読み手が様々な疑問を持つことができる。

## 【言語活動】

物語を読み、内容や表現の仕方について考えたことを交流する。〈中学2年 ア〉

## 【単元目標】

- ①作品を読み、疑問に思ったり考えたりしたことを交流しようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②登場人物の言動や場面の展開に注意しながら、人物の心情やものの見方を想像する。〈「読むこと」ウ〉  
 ③比喩などの表現技法や情景描写が表す意味や効果について理解する。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「少年の日の思い出」を読んで考えたことを交流する見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに読んだ作品についての感想を話したり、教師が読んだ作品について考えたことを聞いたりして、学習のめあて「疑問に思ったり考えたりしたことを交流しよう」を理解する。</li> <li>これまでの文学作品の読み方を振り返り、場面の展開や登場人物の言動、<sup>ゆ</sup>比喩等の表現技法や情景描写等を視点にしながら本作品を読んでいくことを理解する。</li> <li>「少年の日の思い出」を音読する。</li> </ul>
2 3 4	<p>②登場人物の言動や場面の展開に注意しながら、人物の心情やものの見方を想像している。 〈「読む能力」ウ〉</p> <p>③<sup>ゆ</sup>比喩などの表現技法や情景描写などの表す意味や効果について理解している。 〈言語についてへの知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>ノート</p> <p>考えカード</p>	<p>『ぼく(客)』について疑問に思ったことや考えたことを見付けよう」という課題を持ちながら作品を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前後半の場面展開、語り手や登場人物、表現技法、情景描写等について、全体で確認する。</li> <li>各自が、第1時で確認した視点に着目しながら「ぼく(客)」の言動について疑問に思ったことや考えたことを書く。</li> <li>理由を付けながら各自の疑問を出し合い、作品の内容理解につながるものを明確にしていく。</li> <li>全体での話し合いを基に、自分が解決していく疑問と、疑問を解決するために重点的に読む箇所を決定する。</li> </ul> <p>自分の疑問に即して作品全体を繰り返し読み、考えたことを「考えカード」(A5用紙の半分程度)にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点的に読んだ箇所について考えたことを、本文の表現を引用しながら「考えカード」に書いていく。</li> <li>同じ疑問を持つ生徒同士や、別の疑問を持つ者同士でグループを組み、考えたことを交流する。</li> <li>グループで話題になったことの中から、共通に話し合える内容について、全体の場で考えを深める。</li> <li>話し合いを基に、各自が「考えカード」の修正や補足をする。</li> </ul>
5 6	<p>①作品を読み、疑問に思ったり考えたりしたことを交流しようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>振り返りカード</p>	<p>交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流に向けて、ワークシートに「考えカード」を並べながら、自分の考えを整理する。</li> <li>疑問について考えたことを、グループや全体の場で紹介し合う。</li> </ul> <p>自分の読みについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視点に基づいた読み方であったか、確認する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②例をいくつか示したり友達と対話をさせたりすることで、自分と共通する疑問を選ばせる〈ウ〉
- ③これまでに学習した教材と比較させながら、表現の工夫や効果について想起させる。〈イ(ウ)〉
- ①書いた文章を読んだり、見せたりすることで交流させる。〈国語への関心・意欲・態度〉

**B書くこと〔中学校第1学年〕** ※前頁（「考えたことを交流しよう」）の単元を引き継ぐ

**【目標】**

目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。〈「書くこと」〉

**【指導事項】**

- ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。
- イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。
- ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
- エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。
- オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

**【言語活動例】**

- ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。
- イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。
- ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

**【「書くこと」における生徒の実態】** ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら文章を構成する。
- ◆集めた材料を取捨選択するなどして整理し、段落の役割を考えながら文章を構成する。

**【身に付けさせたい力】**

- ①目的や意図に応じ、的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。 〈「書くこと」イ〉
- ③指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

**【言語活動例】** 関心のある作品について、鑑賞したことを文章に書くこと。〈ア〉

**【単元名】** 読書感想文を書こう～考えを整理し、段落の役割を考えて構成する～

**【教材名・教材の特長】** 「少年の日の思い出」（光村図書・学校図書・教育出版・三省堂 1年）  
・「読むこと」の学習で持った感想を材料にして、「書くこと」の学習を続けて行うことができる。

**【言語活動】**

作品から考えたことを基に、読書感想文を書く。〈ア〉

**【単元目標】**

- ①作品を読み、疑問に感じたり考えたりしたことを基に、読書感想文を書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②考えたことを分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成する。 〈「書くこと」イ〉
- ③指示語や接続詞及びこれらと同じような働きを持つ語句などを使う。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉



【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2 3	<p>②考えたことを分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成している。 〈「書く能力」イ〉</p> <p>③指示語や接続詞及びこれらと同じような働きを持つ語句などを使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉</p>	構成ワークシート	<p><b>自分の好きな本の読書感想文を書くことへの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少年の日の思い出」の読書感想文を書き、その書き方や手順を参考にしながら好きな本の読書感想文を書くことを理解する。</li> <li>・これまで読んだ本の中から、読書感想文を書くものを選ぶ。</li> </ul> <p><b>「少年の日の思い出」の読書感想文を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを読み返し、自分のものの見方や経験からの感想を「感想カード」に書く。</li> <li>・関連性のある内容ごとにまとまりを作り、段落を構成する。</li> </ul> <p>※効果的な段落の順序を考え、構成ワークシート（「始め・中・終わり」）上で「考えカード」「感想カード」を並び替える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>構成の例</p> <p>「始め」自分の疑問と、その結論や解釈</p> <p>「中」結論に導くための理由や解釈</p> <p>「終わり」自分のものの見方や経験からの感想</p> <p>※必要に応じて、作品の表現を引用する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不足している内容があれば書き加え、補足する。</li> <li>・構成ワークシートを基に交流し、構成の仕方について助言し合う。</li> <li>・600～800字程度の文章にまとめる。</li> </ul> <p>※段落相互の関係等を意識し、「語句リスト」を参考にして、効果的な指示語や接続詞等を選んで使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章を推敲し、清書する。</li> </ul>
4 5	<p>①作品を読み、疑問に感じたり考えたりしたことを基に、読書感想文を書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	読書感想文付箋            振り返りカード	<p><b>「少年の日の思い出」の読書感想文の書き方や手順を基に、自分が選んだ本の読書感想文を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その本を選んだ理由を確認し、考えたことや感想を「考えカード」「感想カード」に書く。</li> <li>・構成ワークシート上でカードを整理し、選んだ本の読書感想文を書く。</li> <li>・書いた文章を推敲し、清書する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書感想文を互いに読み合い、構成や接続詞等の使い方についての意見を付箋に書き、評価し合う。</li> </ul> <p><b>読書感想文の書き方について振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落構成の仕方、接続詞等の使い方を視点にして、成果と課題を明確にする。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②中心となる考えを決めさせ、考えを説明する理由を三つ程度に絞らせる。〈イ〉
- ③それぞれの接続詞の役割が書かれている一覧を示し、適したものを選択させる。〈イ(エ)〉
- ①教師が作成したモデル文書を見せ、参考にさせながら書かせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔中学校第2学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。
- イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。
- ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
- エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
- オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

### 【言語活動例】

- ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。
- イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現について自分の考えを述べること。
- ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 場面の展開に即して登場人物の心情を読む。
- 「話すこと・聞くこと」の学習において討論を経験している。
- ◆表現の仕方や登場人物の言動を物語全体と関連付けて読む。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。〈「読むこと」ウ〉
- ③抽象的な概念を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

### 【言語活動例】物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。〈ア〉

### 【単元名】「走れメロス」で討論をしよう～表現の仕方や登場人物の言動に着目して自分の考えを持つ～

### 【教材名・教材の特長】「走れメロス」(光村図書・学校図書・教育出版・三省堂・東京書籍 2年)

- ・物語の展開が分かりやすい。また、王とメロスのように人物像が対比的にしかも極端に描かれているため、生徒はその言動に賛否を述べやすい。
- ・漢語や比喻表現など特徴的な表現が多く用いられており、登場人物の言動について自分の考えを持つときの手掛かりとすることができる。

### 【言語活動】

表現の仕方や登場人物の言動などについて関心を持ったことをテーマに討論をする。〈ア〉

### 【単元目標】

- ①物語について自分の考えを持ち、討論を通して考えを深めようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②物語の展開を踏まえた上で、登場人物の言動の意味や表現の仕方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えを持つ。〈「読むこと」ウ〉
- ③漢語や比喻表現などの多様な語句に注意して読む。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p>学習のめあて『『走れメロス』で討論をしよう』を知り、学習の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少年の日の思い出」「トロッコ」など、前学年も含めこれまでに学習した物語の読み方を振り返り、表現の仕方と登場人物の言動の両面に注意して読んでいくことを確かめる。</li> <li>・「走れメロス」の範読を聞き、物語の展開を踏まえた上で、表現の仕方や最も興味を抱いた登場人物の言動など印象に残ったところを挙げる。それらを基に、感想や疑問、話し合ってみたいことなどを書き、共有する。</li> <li>・場所やメロスの心情に着目して、全体を六つの場面（町・王城・故郷の村・山の中・山から町・刑場）に分け、主な出来事や時間の流れをワークシートにまとめる。</li> <li>・王城までの場面で、メロスと王の人物像の違いを捉える。</li> </ul>
3 4 5 6	<p>③漢語や比喻表現などの多様な語句に注意して読んでいる。 〈言語についての知識・理解・技能イ(4)〉</p> <p>②物語の展開を踏まえた上で、登場人物の言動の意味や表現の仕方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えを持っている。 〈「読む能力」ウ〉</p> <p>①物語について自分の考えを持ち、討論を通して考えを深めようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート (学習の流れが分かるようなもの)</p>	<p><b>話し合いのテーマを設定する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「信実」「希望」「信頼」「正義」「悪心」「孤独」などキーワードを取り上げ、そのように考えた理由と併せて共有する。</li> <li>・同じキーワードを選んだ人とグループを組む。「信実の物語」のように、キーワードを基に物語を言い表すテーマを仮に設定し、その根拠となる表現を探していくことを理解する。</li> </ul> <p><b>テーマについてグループで意見を交流し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠となる表現に線を引き、関係する段落を線で結ぶなどしながら、仮に設定したテーマは妥当かどうか立場をはっきりさせて自分の考えをまとめる。</li> <li>・根拠となる表現を示し、設定したテーマが妥当であるかメモを取りながらグループで話し合う。</li> </ul> <p>※必要に応じて話し合いの中途段階を学級全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して、グループとしてテーマを修正・再考する。</li> </ul> <p><b>学級全体で討論する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの話し合いの過程を学級全体に報告する。</li> <li>・報告を聞き、自分のグループと共通する点や違う考えを持った点などについて討論する。</li> <li>・話し合いや討論を基にして、テーマを各自修正・再考するとともに考えをまとめる。</li> </ul> <p>(ワークシートを掲示したり印刷して冊子にまとめたりし、授業後にも交流できるようにする。)</p>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ③繰り返し出てくる言葉を挙げさせ、それらの中から一番印象に残ったものについて文脈上の意味や印象に残った理由を明らかにする。〈イ(4)〉
- ②描写や登場人物の言動を具体的に示し、どう感じたか考えを述べさせる。また、他の場面に同じように感じられる表現はないか一緒に探す。そして、それらが設定した仮のテーマにつながるかどうか考えさせる。  
〈ウ〉
- ①話し合いや討論を通して自分の考えが変わったことについて書かせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと [中学校第3学年]

### 【目標】

目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。
- イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。
- ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。
- エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
- オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

### 【言語活動例】

- ア 物語や小説などを読んで批評すること。
- イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。
- ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。
- ◆文章に表れているものの見方や考え方について知識や体験と関連付けて自分の考えを持つ。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じて読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。 (「読むこと」エ)
- ③四字熟語・漢語に関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにすること。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ))

### 【言語活動例】論説などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。〈イ〉

### 【単元名】論説の内容を比較しよう～自然について考え、自分の意見を持つ～

#### 【教材名・教材の特長】「武蔵野の風景」(学校図書 3年)

- ・自然に対する固定観念を破ることから人間と自然の関係の本質に迫ろうとする優れた文章である。
- ・随想と評論の中間に位置する文体で、四字熟語や漢語が多用される本格的な評論文への移行期の教材として好適である。

#### 【言語活動】

既習の説明文と内容を比較し、自分の自然に対する考えを深める。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①目的や意図に応じて読む能力を身に付け、読書を通して自己を向上させようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ。 (「読むこと」エ)
- ③四字熟語や漢語の意味に注意して読む。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ))

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「武蔵野の風景」を通読し、既習の説明文と内容を比較することについての見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次に学習した「変わる動物園」を再読し、内容を想起する。</li> <li>・「武蔵野の風景」を音読し、「変わる動物園」との違いについて感想を述べ合う。</li> <li>・筆者の意見を理解しながら、自分の考えを深めることができるという可能性に気付く。</li> <li>・自分にとっての難意語を拾い出し、辞書で意味・用法を調べる。</li> <li>・全体を五つの意味段落に分ける。</li> </ul>
2	③四字熟語や漢語の意味に	ノート	<p>筆者の原風景である武蔵野の自然について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大変な驚き」の内容を読み取り、発表し合う。</li> <li>・「水稻ができないということに終わらない」に示されたもう一つの問題を読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>原生的な自然、二次的な自然、自然破壊の違いを読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい問題提起」の内容を読み取り、発表し合う。</li> <li>・「原生的な自然」と「二次的な自然(改良された自然)」の違いを読み取り、発表し合う。</li> <li>・「二次的な自然」と「自然破壊」の違いについて読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>河川改修の歴史と改修主体について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それは単に改修主体が変わったことに終わらなかった」の内容を読み深め、明治以前と以後の河川改修について、共通点と相違点をまとめ、発表し合う。</li> <li>・「労働の系、労働の形に合わせた川」の意味を読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>武蔵野の二次的な自然環境について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然の循環と農民の暮らしや労働の循環との調和」の内容を読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>二次的な自然の成立条件について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この二つの要素」の内容を読み取り、発表し合う。</li> </ul>
3	注意して読んでいます。		
4	〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉		
5	②文章を読んで人間、社会、		
6	自然などについて考え、自分の意見を持っている。		
	〈「読む能力」エ〉		
7	①目的や意図に応じて読む能力を身に付け、読書を通して自己を向上させようとしている。	ワークシート ワークシート	<p>筆者の考えを踏まえて、自然に対する自分の考えをまとめる</p> <p>既習の説明文と内容を比較し、内容の共通点と違いについて考え、自分の自然観を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人程度のグループを作り、「新しい動物園」と「武蔵野の風景」における自然の捉え方の共通点と違いについて話し合う。</li> <li>・話し合いから気付いたことなどをワークシートに書き加える。</li> <li>・ワークシートを冊子にして回覧し、内容を全体で共有する。</li> </ul>
	〈国語への関心・意欲・態度〉		

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ③机間指導で、辞書の活用について個別にアドバイスする。〈イ(イ)〉
- ②キーセンテンスとそれを補強する材料について、傍線を引く、四角で囲む、結び付ける等の視覚的な板書、指示により、内容の理解に導く。〈エ〉
- ①二つの文章の共通点と違いをキーワードで示し、読み深めを促す。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔高等学校 国語総合〕

### 【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や叙述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
- オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

### 【言語活動例】

- ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。
- ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えを持って話し合うこと。
- エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評したりする文章を書いたりすること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。

◆文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。

### 【身に付けさせたい力】

①国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 〈「読むこと」ウ〉

③国語における表現の特色及び言語の役割などを理解すること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評したりする文章を書いたりすること。〈エ〉

### 【単元名】物語の結末を批評しよう～表現に即して読み味わう～

#### 【教材名・教材の特長】「羅生門」芥川龍之介

- ・小説「羅生門」は、国語総合教科書のほとんどに採録されている。
- ・起承転結の構成が明確で、極限状況下で揺れ動く主人公の心理が巧みに描写されている。

#### 【言語活動】

「下人の行方は、だれも知らない」とされた結末部分について、表現上の効果を批評し、「下人」の行く末について、自分なりの考えを文章で表現する。〈エ〉

#### 【単元目標】

①文学的な文章を的確に読み深め、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②「羅生門」に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 〈「読むこと」ウ〉

③「羅生門」における表現の特色や効果を理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>作品全体のイメージを把握し、初発の感想を述べ合い、読み深めの方向を見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語便覧等を参照しながら、教師の説明を聞き、芥川龍之介と小説「羅生門」について、文学史的背景を知る。</li> <li>・CD等により優れた朗読を鑑賞した後、グループによる音読、ペアによる音読を繰り返し、作品全体のイメージを把握する。</li> <li>・グループを作り、結末に留意して初発の感想、疑問点等を話し合う。</li> </ul>
2 3 4 5 6	<p>②「羅生門」に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。〈「読む能力」ウ〉</p> <p>③「羅生門」における表現の特色や効果を理解している。 〈言語についての知識・理解イ(ア)〉</p>	ノート	<p>フィクションを読む前提としての作品設定を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を、内容により4段落に分ける。</li> <li>・作品の背景(時代背景、社会情勢、都と人心の状況)を叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・場面の状況(場所、時刻、羅生門の実態、下人の境遇)を叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> </ul> <p>下人・老婆の心情の変化、論理の展開を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老婆の行為を目撃した下人の心理の動き(恐怖と好奇心→激しい憎悪→悪に対する反感・悪を憎む心)を、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・老婆と対峙し、圧倒した下人の心理の動き(憎悪→得意と満足)を叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・老婆の論理の展開(極限状況における悪の正当化・価値の相対化)について、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・老婆の論理に対する下人の評価について、「ある勇氣」の内容を推量しながら、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・引剥<small>ひはぎ</small>を実行するに至る下人の決断について、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> </ul>
7	<p>①文学的な文章を的確に読み深め、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート	<p>結末の表現について批評する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初出時は、結末が「下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつゝあつた」であったことを教師から聞き、書き換えの効果について、下人の行く末を想像しながらワークシートにまとめる。</li> <li>・各自が作成したワークシートは、冊子にして回覧する旨、説明する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②ノートの内容と本文を照らしながら振り返り、人物、心情、情景等を再確認させる。〈ウ〉
- ③ノートの内容と本文を照らしながら振り返り、表現の特色や効果を再確認させる。〈イ(ア)〉
- ①書き出せない生徒には、箇条書きのメモ作成から始めるよう指示する。〈国語への関心・意欲・態度〉

## (5) 伝統的な言語文化に関する事項

中央教育審議会答申（平成20年1月17日）での国語科における「改善の基本方針」の中で、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」が示されている。

小学校では「言語文化としての古典に親しむ態度を育成する指導については、易しい古文や漢詩・漢文について音読や暗唱を重視する」こと、中学校では「言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成することを重視する」ことに留意する必要があるなど、具体的な改善事項が挙げられている。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校低学年

(7) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

**昔話** 「むかしむかし、あるところに」などの言葉で語り始められる空想的な物語であり、特定または不特定の人物について描かれている。

**神話・伝承** 一般的には特定の人や場所、自然、出来事などと結び付けられ、伝説的に語られている物語。古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に伝わる伝説などが教材として考えられる。

※児童の発達の段階や初めて古典を学習することを考慮し、易しく書き換えたものを取り上げることが必要である。

#### 小学校中学年

(7) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

**易しい** 意味内容が容易に理解できるということ。

**文語調** 日常の話言葉とは異なった特色をもつ言語体系で書かれた文章の調子のこと。

**文語調の短歌や俳句** 歴史的仮名遣いや古典の語句などが用いられている。

※教材としては、親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりすることになる。各地域に縁のある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句を教材にすることも考えられる。

(4) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

**ことわざ** 生活経験などにおいてありがちなことを述べたり、教訓を述べたりするもの。「住めば都」、「犬も歩けば棒に当たる」、「急がば回れ」、「石の上にも三年」等。

**慣用句** 「道草を食う」、「油を売る」などのように、二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すもの。

**故事成語** 「推敲」、「矛盾」、「五十歩百歩」などのように中国の故事に由来する熟語。

※言語生活を豊かにするために、これらの言葉の意味を知り、実際の言語生活で用いるようにさせることが大切である。

#### 小学校高学年

(7) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

**親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章** 児童が、言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読することによって内容を知ることができるような親しみやすい範囲のもの。

※教材に合わせて暗唱や群読を取り入れるなど読み方を工夫することが必要である。

※古文や漢文は、読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを実感させる。

(4) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

※昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできる限り易しく理解させ、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもたせたり、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めるよ



うにすることが重要である。

※言語文化への興味・関心を深めるために、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語などを鑑賞することも考えられる。

### 中学校第1学年

(7) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

文語のきまり 歴史的仮名遣いなど現代の口語と異なる古文特有のきまり。

訓読の仕方 返り点、送り仮名など漢文の訓読に必要な基礎的な事項。

※生徒の興味・関心を大切にしながら、教材に即して指導したり、必要があれば取り立てて指導したりする。

※古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに気付かせることが重要である。

(4) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。

様々な種類 和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩など。また、能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸能。

※小学校から親しんできた様々な古典と結び付けることで、古典の世界についての新たな興味・関心を喚起することが大切である。

### 中学校第2学年

(7) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

※朗読するに当たっては、現代語訳や語注などを手掛かりにして作品の内容を理解するとともに、そこに描かれている情景や登場人物の心情などを想像しながら読むように留意する。

(4) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

※長い年月を隔ててもなお現代と共通するものもあれば、現代とは大きく異なるものもある。

※例えば、古典の易しい現代語訳や古典について解説した文章を用いたり、関連する本や文章等を紹介したり、音声や映像メディアを活用したりするなど指導上の様々な工夫が考えられる。

### 中学校第3学年

(7) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

※作品の理解に役立つ事柄を精選して取り上げる。

※作品の歴史的背景などを扱うのは、教材として取り上げた古典への興味・関心を高めたり、内容の理解を助けたりするためであることに留意する。

(4) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

古典の一節を引用するなどした古典に関する簡単な文章 例えば、古典の一節を引用した感想文や手紙、作品を紹介する文章など。

※書く活動を通して、生徒が自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにすることが重要である。

## イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（学習指導要領解説国語編より）

### 小学校

伝統的な言語文化に関する指導については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。

### 中学校

古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章を取り上げること。

## ウ 指導計画例

### 小学校

「伝統的な言語文化に関する事項」は、「各領域の指導を通して行う」ことを基本とするが、「伝統的

な言語文化に低学年から触れ、生涯にわたって親しむ態度の育成を重視している」（学習指導要領解説国語編 p.24）ことを踏まえ、効果的に関心・意欲・態度を育てることに焦点を当て、ここでは「伝統的な言語文化に関する事項」を取り立てて指導する例を示した。

### 中学校

これまで古典の指導は、「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で「C読むこと」に関する指導として示されていた。今回の学習指導要領では、「伝統的な言語文化に関する指導事項」で示されたことにより、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」でも古典を扱うことが可能になった。そこで、中学校「B書くこと」の指導計画例（p.60～61）において、古典教材を扱った例を示した。

### 伝統的な言語文化に関する事項〔小学校中学年〕

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
○詩を読むことを楽しんだり、季節の行事に関わる言葉集めを楽しんだりしている。

◆語彙を広げる。

#### 【身に付けさせたい力】

- ①易しい文語調に親しみ、声に出して読もうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②長い間使われてきたことわざの意味を知ること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

【単元名】「オリジナルいろはかるた」を作ろう～ことわざを知る～

【教材名】〈開発教材〉

#### 【単元目標】

- ①リズムを感じ取りながら、いろはかるたを声に出して読もうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②ことわざなどを基に、オリジナルのいろはかるたを作る。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

#### 【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			ことわざについて知る ・「猿も木から落ちる」「急がば回れ」などの例から、昔から伝わる知恵や教えを短い言葉で表したものをことわざということを知る。
	②ことわざなどを基に、オリジナルのいろはかるたを作っている。 〈言語についての知識・理解・技能ア(イ)〉	作成したかるた	いろはかるたに親しむ ・いろはかるたがことわざを集めて作られたかると知る。 ・私たちの学級だけのいろはかるたを作成することを知る。 ・一人ずつ数枚分担を決め、読み札と取り札を作る。 ・ことわざの本などから、分担した文字で始まることわざを抜き書きする。 ・取り札にはことわざの内容を表す絵を描く。
3	①リズムを感じ取りながら、いろはかるたを声に出して読もうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	音読の様子	いろはかるたを使って遊び、ことわざに親しむ ・前時に作成したいろはかるたを既存のいろはかるたと適宜混ぜ、かるた取りをする。 ・全員が読み手を経験し、いろはかるたのリズムに慣れる。 ・いろはかるたを並べ、「いろはにほへと」を読む。暗唱できそうなら挑戦してみる。

#### 【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②ことわざの本や国語辞典などから気に入った言葉を選ばせ、教師と共に1枚作る。〈ア(イ)〉
- ①音読することが苦手な児童には、範読後に復唱させたり手拍子に合わせて読ませたりすることで、音読への抵抗を減らす。〈国語への関心・意欲・態度〉

**伝統的な言語文化に関する事項〔小学校高学年〕**

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
○歴史的仮名遣いに気を付けて簡単な文語調の文章などを読もうとする。

◆言葉の響きやリズムをつかんで音読する。

**【身に付けさせたい力】**

①文語の調子を楽しみ、言葉の響きやリズムをつかんで声に出して読もうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読すること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

**【単元名】竹取物語を音読しよう～親しみやすい古文を音読する～**

**【教材名】「竹取物語」〈開発教材〉(資料p.128～129)**

**【単元目標】**

①「竹取物語」を声に出して読み、古文の響きやリズムを味わおうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②作品を読んだ感想を交流する。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<b>「竹取物語」について知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の解説を聞き、「竹取物語」の概要を理解する。</li> <li>・静岡県の中の場所について書かれた文章かを静岡県の地図を使って確認する。</li> <li>・「竹取物語」を声に出して読む。</li> <li>・個人読み、グループ読み等、読み方を工夫する。</li> </ul>
2	②作品を読んだ感想を交流している。 〈言語についての知識・理解・技能ア(ア)〉	ノート	<b>「竹取物語」の本文をノートに視写する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「竹取物語」の冒頭または終末のどちらかを選択する。</li> <li>・分からない言葉については、教師に質問したり挑戦できそうなら古語辞典を使って調べたりする。</li> <li>・イメージした情景を簡単な絵で表現する。</li> <li>・絵を見せながら、文章の内容や言葉のリズム、響きなどについて感想を交流する。</li> </ul>
3	①「竹取物語」を声に出して読み、古文の響きやリズムを味わおうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	音読の様子	<b>「竹取物語」を音読する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読し、古典のリズムに慣れる。</li> </ul>

**【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】**

②イメージできない児童には、口語訳を示しながら登場人物がどこでどのようなことをしているかを尋ね、イメージさせる。〈ア(ア)〉

①教師と一緒に読ませたり、一文ずつ交代で読ませたりして、読み慣れさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## (6) 言葉の特徴やきまりに関する事項

従来〔言語事項〕で示されていた内容の大部分は〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」に引き継がれている。

今回の改訂では、「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」の中に、言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させるために「言葉の働きや特徴に関する事項」（小学校）、「言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項」（中学校）が新設された。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### ○「言葉の働きや特徴に関する事項」（小学校）

##### 小学校低学年

(7) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

※事物の内容や自分が経験したことを表現したり伝達したりする働きが、日常的に使用している言葉にあることに自ら気付くような指導を行うことが大切である。

(4) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

アクセントによる語の意味の違い 「橋」と「箸」、<sup>はな</sup>「雨」と<sup>あめ</sup>「飴」など、同音の語でもアクセントによって意味が異なる場合があること。

※平仮名や片仮名は、拗音の表記などを除けば、一文字が一音節（拍）に対応する文字である。漢字はそのような表音文字ではなく、個々の文字が音と意味とを備えている。この段階では、平仮名、片仮名、漢字のそれぞれの文字体系の特徴に気付かせるように指導することが重要である。

(7) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

意味による語句のまとまり ある語句を中心として、同義語や類義語、対義語など、その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合のこと。例えば、果物の名前を表す語句、気持ちを表す語句などは、相互に関係のある語句として一つのまとまりを構成している。

※使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解するようにして、同義語、上位・下位語、同音異義語、多義語などの学習に発展させる指導が求められる。

##### 小学校中学年

(7) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

※人間は、意味を持った言葉を組み合わせることによって、考えを深めたり高めたりすることができる。また、思ったことや考えたことを、物語や詩歌、説明や報告などの文章にまとめ、他の人に伝えることができるのも、言葉の働きによるものである。感想や意見を伝えたり共有したりするためには、適切な言葉によって表すことが大切であることにも気付かせる。

(4) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。

※漢字と仮名とでは、音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割が異なっている。そのような性質や役割の異なる漢字や仮名を交ぜて書く「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に関心をもつように指導し、交ぜて書くことの利点に気付いたり、句読点を含め読みやすい表記を考えながら書いたりする言語感覚の基礎を養う。

##### 小学校高学年

(7) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

※音声は、発せられた途端に消えていくので、話し言葉は<sup>さかのぼ</sup>遡って内容を確認することができない。このことによって、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語を避けるなど、様々な表現上の特質が生まれる。聞き手や場面の状況の影響を強く受けながら表現及び理解が進められるという特質もある。

※書き言葉は、読み手が文や文章を繰り返し確認することができる。使用される語彙や、文や文章の構造なども話し言葉と違いがある。また、「器官」と「機関」、「機械」と「機会」など、意味の違いを漢字の使い分けで表すことができる。こうした両者の違いについて気付かせることは、それぞれの特質

に配慮した使い分けを身に付けるための基礎を養うことになる。

(4) 時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

世代による言葉の違い 年配者と、年少者や若者には、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを指す。

※時間の経過による言葉の変化の指導においては、古典に見られる過去の言葉は、現代の言葉と連続したものであること、したがって現代の言葉に置き換えなくてもそのまま理解できる部分が少なからずあることにも自然に気付かせるように配慮することが大切である。

○「言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項」（中学校）

中学校第1学年

(7) 音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。

※アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が実際の多様な声を作り出し、話すことや聞くことの活動に影響していることを理解させ、生徒自身が日常の活動を振り返る契機にすることが重要である。

中学校第2学年

(7) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

※共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語を適切に使うことは、人々が相互の理解を進めるために不可欠な能力である。一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的・社会的な伝統に裏付けられた言語である。その表現の豊かさと魅力など、方言が担っている役割を十分理解させ、方言を尊重する気持ちをもたせるようにしながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて使い分けられるように指導することが大切である。

※敬語については、個別的・体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを十分に理解させる。指導に当たっては、基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について理解させる。

中学校第3学年

(7) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。

※言葉は、時間の経過により語形や語意などが変化していくという側面をもっている。ここでは、言葉のもつこのような性質に気付かせることで、自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めるようにすることが大切である。

※言葉はそれを使用する世代によっても、語形や語意が異なったり使用する語彙などに差異があったりする場合がある。（例えば、若者又は年配者など、特定の年代に限って使われる言葉の存在、一人の人間でも、年代が変わることによる使用する言葉の変化、最初は限られた範囲で使用されていた言葉が、広く一般に用いられるようになる等）このような点に着目して指導することを通して、言葉が生活と密接に関連していることを実感させるとともに、実生活に生きる言葉の力を身に付けることの大切さに気付かせる。

○表記に関する事項（小学校）

小学校低学年

(イ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」、及び「を」を文の中で正しく使うこと。

長音 「おかあさん」のように「のばす音」のこと。

拗音 「きゃ」、「きゅ」のように「ねじれる音」のこと。

促音 「らっぱ」のように「つまる音」のこと。

**撥音** 「ん」の字に当たる「はねる音」のこと。

※発音に関する指導と関連させるとともに、各領域における学習の積み重ねの中で、次第にその規則性に気付き、身に付けていくことができるようにする。

※助詞の「は」、「へ」及び「を」については、視写や聴写の指導などを繰り返し行うことによって、文の中で使えるようにすることが必要である。

(オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。

※句点については、入門期から、文を書く際には、文末に必ず句点を打つように指導し、文意識を育てていくようにする。読点については、文頭の接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など必要な箇所につくことを理解させる。

※かぎ（「 」）については、会話文におけるかぎ（「 」）の使い方を中心にし、その他の箇所でもかぎ（「 」）が使われていることに目を向けさせていく。

### 小学校中学年

(ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。

※例えば、「泳いだ」の「泳」という漢字を学習する際には、「泳がない」、「泳ぎます」、「泳ぐ」のように活用させながら、送り仮名についても学習できるようにする。また、一つ一つの具体的な語の送り仮名の指導をするだけでなく、その学習を通して、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても理解を促して、活用についての意識をもつようにする。

(エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。

※読点は、低学年で取り上げたことに加え、文を読みやすくまた分かりやすくするために、文脈に合わせて適切に打つことができるように指導する。

※「段落の始め」で改行することは、「B書くこと」(1)の「イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。」と併せて指導するようにする。

※会話の部分などを改行して書くことが習慣となるように指導することも大切である。

### 小学校高学年

(ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

※送り仮名については、(エ)の「語句の構成」などの学習と関連付けて指導すると効果的である。

※仮名遣いについては、例えば、「鼻血（はなぢ）」と「地面（じめん）」、「みずうみ（湖）」と「みかづき（三日月）」などの区別を付けて、正しく表記できるようにする。

## ○語句に関する事項（小学校）

### 小学校中学年

(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

**表現したり理解したりするために必要な語句を増す** 語句の量を増やし使える範囲を広げていくこと。

**語句には性質や役割の上で類別があることを理解する** 語句の文法的な働きを、文法そのものとしてではなく、語句の使い方として類別できることを理解するということ。

**性質の上での類別** 物の名前を表す語句や、動きを表す語句、様子を表す語句のように類別すること。

**役割の上での類別** 文の主語になる語句、述語になる語句、修飾する語句のように類別すること。

※学年別漢字配当表に示された漢字は、それぞれの学年の児童の発達の段階と関連をもたせて配当しているため、当該学年に配当されている漢字と関連付けながら語句の指導をすることが大切である。

(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

※国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが重要である。

## 小学校高学年

### (イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

※語句の構成については、お米の「お」のような接頭語、お父さんの「さん」のような接尾語のほかに、複合語、略語、慣用語なども含んでいる。語句の変化については、例えば、「花+畑」で「ハナバタケ」というような音の変化、「帰る+道」で「帰り道」というような語形の変化、また「物」と「物物しい」のような意味の変化などがある。このような語句の構成や変化を、意味とのかかわりを大切にしながら理解することにより、語句の使用が一層豊かになるよう指導することが大切である。

※語句の由来に関しては、ウの「(イ)仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。」に関する事項とも関連させて、語源を調べたり、和語、漢語、外来語などの区別について関心をもったりできるようにすることが効果的である。

### (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

※実際の文章は、類義語や対義語、上位語・下位語、派生語など、語句と語句との関係に基づきながら記述されており、そのような語句相互の関係を理解することによって内容の把握を的確にすることを理解させる。また、説明的な文章、文学的な文章には、それぞれの文章を特徴付ける結び付きの強い語句同士が相互に関連し合っていることも理解させるようにする。

### (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

※語感には、言葉の正しさや美しさだけでなく、文や文章を含めて、実際にその言葉が使われる際に、適切であるかどうかを感じ取る感覚も含んでいる。多くの文章を繰り返して読んだり、優れた表現を抜き出したりする活動を取り入れるとともに、日常生活の中での話すこと・聞くこと、書くことの中で、語感や言葉の使い方を意識するようにさせることが大切である。

## ○語句・語彙に関する事項（中学校）

### 中学校第1学年

#### (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。

※辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて文脈において具体的かつ個別的にとらえる。また、語句が文章の中で果たしている役割を考えることも大切である。

※多くの本などを読んで新しく出合った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させることが大切である。例えば、語句の意味について調べたことを記録させたり、その語句を使った短文を作らせたりすることなどが有効である。

#### (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

※日常使用している語句は、多様なレベルで語彙を形成する。使用範囲の側面から考えると、まず事象や行為など、具体的で比較的身近な事柄を表す語句が多く存在していることに気付く。さらに、それらが、実際の言語活動において、話や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように活用すればよいかについて考えさせていくことが重要である。

### 中学校第2学年

#### (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

**抽象的な概念を表す語句** 「事象や行為などを表す多様な語句」よりも、一般的で抽象性の高い語句。

**類義語** 別の語でありながら、その表す意味が似ていたり、ほとんど同一であったりする語。

**対義語** 意味の上で互いに反対の関係にある語。

**同音異義語** 音が同一であって意味の異なる語。

**多義的な意味を表す語句** 一つの語句が多くの意味をもつもの。

※このような語句について理解させ、話や文章の中で適切に使用させることが、語彙を豊かにし語感を

磨かせることになる。

### 中学校第3学年

(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

和語 古くから日本で使われてきた語。

漢語 漢字の音を使った語。

外来語 中国語以外の外国語から日本語に入ってきた語。

※語彙が豊かになるにつれて、語句と語句との意味の違いが微妙なところまでつかめるようになる。こうして語感が磨かれると、一つ一つの語句について、他の語句に置き換えたり置き換えられなかったりすることに気付くようになる。そのことを、書くときや話すときに役立てられるようにしていくことが大切である。

### ○文及び文章の構成に関する事項（小学校）

#### 小学校低学年

(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

主語と述語との関係 主語と述語との照応関係。

※文の意味を明確に伝えるためには、主語と述語とが照応することが大切であるということについて、文章を読んだり表現したりするとき強く意識できるように指導をすることが必要である。

#### 小学校中学年

(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

※主語と述語に加え、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるようにする。

(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

※指示語や接続語は、文や文章の構成にかかわる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしている。読みの指導の中では、文相互の関係とともに段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして指導する。また、文章を書く様々な機会をとらえて、文脈に沿って指示語や接続語の役割を理解し、使うことの指導を工夫するようにすることが大切である。

#### 小学校高学年

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

※構造からみて、単文・重文・複文に分けたり、性質や機能からみて、平叙文、呼びかけや疑問、応答を表す文、命令や承諾を表す文、推定や伝聞を表す文、感動や感嘆を表す文に分けたりすることなどが考えられる。

※文章の構成が目的に応じて決定されており、それらに合わせた構成を理解するようにする。

### ○単語、文及び文章に関する事項（中学校）

#### 中学校第1学年

(イ) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

単語の類別について理解する 単語がその性質から自立語と付属語とに大別されること、更に幾つかの品詞に分類されることなどについて理解すること。

指示語 物事を指し示す働きをもつ語で、いわゆる「こ・そ・あ・ど言葉」と言われるもの。代名詞、連体詞、副詞、形容動詞などの品詞にわたる。



- 接続詞** 前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ語で、いわゆる「つなぎ言葉」と言われるもの。
- 指示語と同じような働きをもつ語句** 代名詞や連体詞などを伴って全体として指示語の機能をもつ語句のこと。また、「以上(は)」、「右(の)」などの名詞。
- 接続語と同じような働きをもつ語句** 一部の副詞や名詞、連語など。
- ※指導に当たっては、実際の話や文章の中でとらえさせることが重要である。

## 中学校第2学年

### (f) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。

**文の成分の順序** 文を組み立てている主語、述語、修飾語、接続語、独立語などの並ぶ順序、語順のこと。

**照応** 主語と述語の照応や修飾語と被修飾語の照応などのこと。

**文の構成などについて考えること** 語順や語の照応によって表現がどのように変わってくるかを、様々な文型について考えさせること。

### (g) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。

※単語の類別と関連付けながら、自立語で活用があり単独で述語になる単語、自立語で活用がなく主語になる単語、自立語で活用がなく主語になれない単語、付属語で活用がある単語、付属語で活用がない単語などについて理解させる。

※助詞や助動詞を使うことによって、言語生活の上で互いの伝え合いたい微妙なニュアンスを、相手によりよく伝えることができることに気付かせる。また、日常の言語活動を具体的に取り上げ、助詞や助動詞が文脈の中でどのような働きをしているかに注意させ、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことに役立たせるようにすることも大切である。

### (h) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

**相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがある** 話や文章は、誰に向けて、どのような目的で話すのか、書くのかということに応じて、それにふさわしい形態や展開があるということ。

※話や文章の形態としては、例えば、事実や事柄を伝える説明や記録、手紙などの通信、感想や意見などが挙げられる。

## ○言葉遣いに関する事項（小学校）

### 小学校低学年

#### (4) 敬体で書かれた文章に慣れること。

**敬体** 文末が「です」、「ます」又は「でした」、「ました」などになる文体。

**常体** 文末が「である」、「であった」などになる文体。

※入学して初めて出会う教科書の敬体の文章に読み慣れるようにすることが必要である。最初は、文末の表現に注意させて読み慣れるようにし、漸次自分でも使い慣れるようにしていく。次第に常体の文章も出てくるので、敬体と常体との違いについての初歩的な理解ができるように指導することも必要である。

### 小学校高学年

#### (f) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

※相手と自分との関係を意識させながら、尊敬語や謙譲語をはじめ、丁寧な言い方などについて理解することが大切である。

※敬語の役割や必要性を自覚してくる時期であるので、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるよう、児童の日常の言語生活につながる指導方法を工夫することが大切である。

## ○表現の工夫に関する事項（小学校）

### 小学校高学年

#### （ク） 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

※具体的な表現の工夫には、比喩や反復をはじめとして様々なものが考えられる。擬声語・擬態語、語句の反復、誇張などは低学年の児童が読んだり書いたりする文章中にも頻繁に見られる。学年が進行するにつれて直喩、隠喩などの比喩やユーモア、また、省略、倒置、対句など構成上の工夫も多くなる。そこで、多様な文章に表れる様々な表現の工夫に気付いたり、自分の表現に活用したりするように指導することが大切である。

## ○表現の技法に関する事項（中学校）

### 中学校第1学年

#### （オ） 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。

※比喩や反復に加えて、省略、倒置、対句などが挙げられる。「比喩」や「反復」などの名称と結び付けて表現の技法の意味や用法を改めてまとめて指導する。

## イ 指導計画例

「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に「特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。」とある。

ここでは、新設された「言葉の働きや特徴に関する事項」を扱う例として小学校低学年の例を示した。また、「言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項」を扱う例として中学校第2学年の例を示した。

### 言葉の働きや特徴に関する事項 【小学校低学年】

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○日頃から詩や物語に親しんでおり、知らない言葉に出会うと意味を知ろうとしている。

◆言葉には意味によるまとまりがあることに気付く。

#### 【身に付けさせたい力】

①言葉の意味を考えて、同じ仲間の言葉を集める。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【単元名】「○○のことば図かん」を作ろう～仲間の言葉を集める～

【教材名】〈開発教材〉

#### 【単元目標】

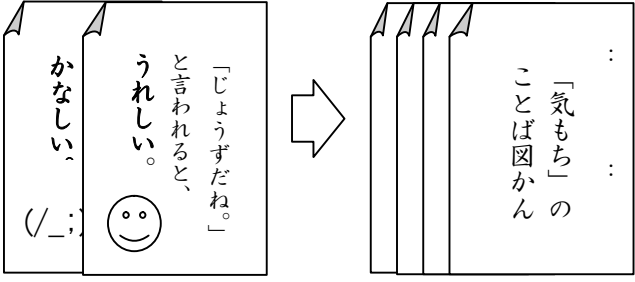
①言葉集めや言葉の分類に興味を持ち、「なかまのことば図かん」を作ろうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付く。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	②言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。 (言語についての知識・理解・技能イ(ウ))	ワークシート	<p>言葉を仲間分けすることに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「えんぴつ」「りんご」「ねこ」「バス」「お母さん」「おはよう」「楽しい」など、身近なものの名前や日常的に使われる言葉が書かれたカード（30語程度）を分類する。</li> <li>・分類に沿って、カードになかった言葉を考えてワークシートに付け足す。</li> <li>・分類に見出しを付け、意味の広い言葉、狭い言葉（上位語・下位語）があることを知る。</li> </ul> <p>『「気持ち」のことば図かん』をみんなで作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五味太郎著「言葉図鑑」等の紹介を聞き、「ことば図かん」のイメージを持つ。</li> <li>・気持ちを表す言葉にはどんなものがあるか話し合う。</li> <li>・「うれしい」「かなしい」などの気持ちを表す言葉をどんなときに使うか、具体的な場面を話し合う。</li> <li>・図鑑に書く言葉を分担し、用紙1枚（A5サイズ程度）に気持ちを表す言葉を使った一文と、それに合った簡単な挿絵をかく。</li> <li>・用紙を重ねて冊子にする。</li> </ul> 
3 4	①言葉集めや言葉の分類に興味を持ち、「なかまのことば図かん」を作ろうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ワークシート ことば図鑑 振り返りカード	<p>「〇〇のことば図かん」を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で使ったカードを参考にしながら「ことば図かん」のテーマを決め、テーマに関連する言葉を選んだり新たに見付けたりしてワークシートに書き出す。</li> <li>・同じテーマを選んだ友達と、ワークシートを示しながら言葉を紹介し合う。</li> <li>・「ことば図かん」に載せる言葉を決め、ワークシートに印を付ける。</li> <li>・「ことば図かん」の題名としてテーマを表紙に書く。用紙1枚（A5サイズ程度）に、一つの言葉（その言葉を使った主述の整った一文）と簡単な挿絵をかく。</li> <li>・言葉と挿絵をかいた用紙を重ねて冊子にする。</li> <li>・様々なテーマの「ことば図かん」を読み合い、分かったことを伝え合う。</li> </ul>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

②言葉カードの中から好きなものを一つ選ばせ、教師が仲間の言葉を提示する。同様に仲間の言葉を挙げさせた後、それらに共通することは何かを考えさせる。(イ(ウ))

①日頃の生活から関心のある事柄を教師が示唆し、それに関連する言葉を考えさせる。

(国語への関心・意欲・態度)

**言葉の働きや特徴に関する事項 [中学校第2学年]**

- 【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○世代や年齢，地方や地域による言葉の違いや，話し言葉と書き言葉の違いを理解している。  
 ◆時と場に応じて言葉を使い分ける意味を理解して言葉を使う。

**【身に付けさせたい力】**

- ①共通語と方言についてそれぞれの特徴を理解する。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②共通語と方言の果たす役割について理解すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

**【単元名】 地域の昔話から方言を見付けよう～共通語と方言の役割について考える～**

**【教材名】 〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①共通語と方言についてそれぞれの特徴を理解し，書き換えようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②共通語と方言の果たしている役割について理解する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	②共通語と方言が果たしている役割について理解している。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ア)〉	ワークシート	方言の使われている昔話を聞き，方言に興味を持つ ・地域に残る昔話の読み聞かせ（又はCD）を聞き，受けた感じを話し合う。 ・昔話の中から方言をいくつか取り出し，言葉の意味を確かめる。また，方言が使われている意味を考える。 <b>方言の使われている昔話を共通語に書き換える</b> ・地域に残る昔話をグループで一つ選んで数行ずつ担当し，他の地域の人が読んでも分かるように共通語に書き換える。 ・方言で書かれたものと共通語に書き換えたものを読み比べる。他のグループが担当した昔話も交換して読む。 ・読み比べたことを基に，方言でないと伝わりにくいもの，共通語だからこそ伝わるものなど，それぞれの特性について話し合う。 ・共通語と方言との違いについて考えたことをまとめる。
2	①共通語と方言についてそれぞれの特徴を理解し，書き換えようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	書き換えた昔話  振り返り用紙	

**【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②方言で書かれた部分を共通語に書き換えたものを提示し，感じ方がどのように異なるか考えさせる。〈イ(ア)〉  
 ①方言の使われたものと共通語に書き換えたもののどちらが好きか選ばせ，その理由を考えさせる。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉

## (7) 文字（小学校）・漢字（中学校）に関する事項

漢字の指導については、日常生活（中学校では社会生活）や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資することを重視して改善を図っている。

ローマ字の指導については、情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し、従前の第4学年から第3学年に移行している。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校低学年

(7) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと 擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるかを知り、実際に文や文章の中で片仮名を使うこと。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

漸次書き、文や文章の中で使うこと 学習した漢字を習得できるように少しずつ練習を重ねるとともに、実際の文や文章で使うようにすること。

※第1学年の配当漢字には、象形文字や指事文字が多く含まれているので、漢字の字形と具体的な事物（実物や絵など）とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字が表意文字であることを意識しながら、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。

※漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にして、文脈の中での意味と結び付けていくようにする。

(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

#### 小学校中学年

(7) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

日常使われている簡単な単語 地名や人名などの固有名詞を含めた、児童が日常目にする簡単な単語のこと。

(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

※「(ウ)漢字のへん、つくりなどの構成について知識をもつこと。」と関係付けながら、漢字の読み書きに関する指導を進める。

※漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読みや意味などを調べる活動も取り入れるようにする。

※中学年は、漢字による熟語などの語句が増加する時期でもある。文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導することが大切である。

(ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

#### 小学校高学年

(7) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

※高学年は、漢字による熟語などの語句の使用が増加する時期でもある。文や文章を書く際には、漢

字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、「収める」、「納める」、「治める」などの同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導する。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

※仮名や漢字がどのように形成され、継承されてきたのかなどについて基本的な知識をもつこと、また、表音文字としての平仮名や片仮名、表意文字としての漢字の特質を理解すること、文章が漢字仮名交じりで表記されていることや、漢字には原則として音と訓の読み方があることなどをまとめた知識として整理することなどである。

### 中学校第1学年

(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）

に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。

※漢字を読む能力としては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことができるようにすることが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図ることが大切である。

※字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成などについて必要に応じて指導し、例えば、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、読みを類推することができるように指導することが大切である。

※書くこと、読むことの中だけではなく、話すこと・聞くことの指導においても、例えば、同音の語句の意味に誤って理解されそうなどときには、漢字を例示することでこれを避けるといったような活動を取り入れるなど、機会あるごとに漢字を意識させるように配慮することが大切である。

(イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

※字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように常に注意しながら学習させることが大切である。

※文章の中ばかりではなく、話すこと・聞くことの学習の中や、他教科の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識させるようにする。

※漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養う。そのためには、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

※漢字を書く指導では、書写との関連を図ることが大切である。

### 中学校第2学年

(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

### 中学校第3学年

(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

※学年別漢字配当表に示している1,006字の漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、第3学年が終了するまでに、多様な語句の形で使ったり、様々な文脈の中で使ったりすることができるよう指導する。

## イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（小学校学習指導要領解説国語編からの抜粋）

(ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできる。

※第2学年の漢字の指導の際、「昔話」や「自転車」のように、「話・自」は第2学年、「昔・転」は第3学年の配当漢字であり（「車」は第1学年）、配当学年が異なる漢字で構成されている熟語が出てくる場合がある。そのとき、第2学年であっても、必要に応じて「昔話」、「自転車」などのように漢字の熟語として提示してよい。その際、(イ)の事項と関連して、児童の学習負担が過重にならない

よう配慮が必要であり、後の学年の配当漢字である「昔・転」については、振り仮名を付けて「昔話」「自転車」のように提示することになる。

- (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができる。

### ウ 指導計画例

「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に「特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。」とある。ここでは、実際指導する場面の多い、「文字に関する事項」のみを扱う例として小学校中学年と中学校第1学年の2例を示した。

#### 文字に関する事項 [小学校中学年]

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 提示された漢字は積極的に使おうとする。
- 部首について、いくつかの種類があることを理解している。
- ◆漢字に興味を持ち、文章の中で適切に漢字を使う。
- ◆部首に意味があることを知らないで漢字を使っている。

#### 【身に付けさせたい力】

- ①部首に興味・関心を抱き、部首や漢字の成り立ちの物語を作ろうとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②漢字のへん、つくりなどの構成についての理解をすること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(ウ)〉

【単元名】 部首や漢字の成り立ちの物語を作ろう～漢字の構成について理解する～

【教材名】 〈開発教材〉

#### 【単元目標】

- ①選んだ部首や漢字の成り立ちの物語を作ろうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②漢字のへん、つくりなどの構成について理解をすること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(ウ)〉

#### 【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	②漢字のへん、つくりなどの構成について理解している。 〈言語についての知識・理解・技能ウ(ウ)〉	ワークシート	<b>部首や漢字の成り立ちに興味を持つ</b> ・漢字の成り立ちについて説明した文章を読む。 ・漢字辞典で成り立ちを確認する。 ・他の部首や漢字の成り立ちを漢字辞典などを使って調べる。
2	①選んだ部首や漢字の成り立ちを物語にしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	ワークシート	<b>漢字の成り立ちを物語にする</b> ・見本を参考にしながら、自分の選んだ部首や漢字の成り立ちを前時に調べた内容を基に物語にする。 ・グループで交流し、自分が調べたもの以外の漢字の成り立ちを知る。

#### 【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②分かりやすい漢字と一緒に漢字辞典を引き、成り立ちが書いてあるところを確認する。〈ウ(ウ)〉
- ①「辞書に書いてあることそのままでもよいから書き出そう」と声掛けをする。〈国語への関心・意欲・態度〉

**文字に関する事項 [中学校第1学年]**

- 【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○国語の授業では、分からない漢字などは国語辞典を使って調べる。  
 ◆小学校で学習してきた漢字を、各教科でのノートや班日誌等、日常生活で使う。

**【身に付けさせたい力】**

- ①できるだけ多くの漢字を使って文章を書けるよう、普段使わない漢字への興味・関心を高める。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(イ)〉

**【単元名】 お気に入りの物語の写本を作ろう～文や文章の中で漢字を使い慣れる～**

**【教材名】 〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①漢字への興味・関心を高め、できるだけ多くの漢字を使って物語を表記しようとする。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②学年別漢字配当表を活用し、既習の物語文をできるだけ多くの漢字を使って表記する。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(イ)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	②学年別漢字配当表を活用し、既習の物語文をできるだけ多くの漢字を使って表記している。 〈言語についての知識・理解・技能ウ(イ)〉	ワークシート	平仮名を漢字に書き直すことに興味を持つ ・「うらにわにはにわにわにはにわにわとりがいる。」 （裏庭に埴輪，庭には二羽鶏がいる。）などの早口言葉を、どこで区切って読むか考える。 ・漢字を使って書き直した早口言葉を読む。 <b>書き直す物語を選ぶ</b> ・既習の小学校低・中学年の物語から、写本を作りたいものを選ぶ。 ・漢字に直せそうな部分に印を付ける。 ・友達とワークシートを交換し、更に漢字に直せるところがないか助言し合う。
2	①漢字への興味・関心を高め、できるだけ多くの漢字を使って物語を表記しようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	写本	<b>漢字を使って写本を作る</b> ・辞書や教科書掲載の常用漢字表を使い、確かめながら漢字を使って物語を表記する。 ・どれくらい漢字が使われているか写本を読み合い、感想を伝え合う。

**【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②漢字に直す部分を見付けられない生徒には、一つの段落を使って見付け方を示す。〈ウ(イ)〉  
 ①印を付けた部分から、数や段落などどこを直すか選択させて漢字に直させる。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉

文字・漢字に関する事項の参考例として、HP「あすなる学習室」(国語の部屋「文字の部屋」)がある。これを授業や家庭学習等で活用していくことも、児童に漢字に興味を持たせるのに有効である。内容は、次のとおりである。





小学校低学年	かんじでかいてみよう おなじぶぶんのあるかんじ ましがえやすいひらがな ましがえやすいカタカナ かきじゅん
小学校中学年	へんとつくり かんむりとあし かまえ たれ によろ 書き順 ローマ字のたつ人になろう 漢和辞典(じてん)を引いてみよう 読みが同じで意味がちがうことば 漢字名人になろう とくべつな読み方
小学校高学年	漢字の成り立ちを知ろう これでバッチリ仮名づかい これでキミも漢字博士 特別な読み方 日本語の文字 漢和辞典を使おう 書き順
中学校第1学年	漢字の基礎知識 漢字の部首 漢和辞典に親しもう 漢字の練習
中学校第2, 3学年	特別な読み方 同音異字と同訓異字 漢字の練習

## (8) 書写に関する事項

小学校では、文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まり(文字群)の書き方」に関する事項へ、さらに、「目的に応じた書き方」に関する事項へと系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要である。

中学校では、小学校の指導を踏まえ、文字を書くことに関する知識・技能の育成が、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における、話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立つようにすることが大切である。また、我が国の伝統的な文字文化やこれからの社会に役立つ様々な文字文化に関する認識及びそれらに親しむ態度の育成も大切である。

### ア 語句解説及び留意点(学習指導要領解説国語編より)

#### 小学校低学年

#### ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。

**姿勢** 文字を書くときの構えのこと。

※正しい姿勢になるには、背筋を伸ばした状態で体を安定させたり、書く位置と目の距離を適度にとったり、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにすることが重要である。

**筆記具** 低学年では、鉛筆やフェルトペン

**持ち方を正しく** 人差し指と親指と中指の位置、手首の状態や鉛筆の軸の角度などを適切にすること。

**文字の形** 主として文字の概形のこと。概形とは、「○、□、◇、△」などの形に類型化される文字のおおよその形のこと。

**丁寧に書く** 始筆から送筆、さらに終筆(とめ、はね、はらい)までを確実に書き、その積み重ねで文字の形を整えていくこと。

#### イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

**点画** 文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などのこと。

**長短や方向、接し方や交わり方** 文字を構成する点画の形状や点画相互の位置関係のこと。

**長短や方向** 点画の形状のこと。

※例えば、「三」の場合、仮に一画目が他の二画に比べて長すぎたり、その方向が横方向ではなくて縦方向を向いていたりすると、その文字は「三」という文字としては認識されにくいし、正しく整っているとは言えない。

**接し方や交わり方** 点画相互の位置関係のこと。

**筆順** 書き進む際の合理的な順序が習慣化したもののこと。

※学校教育で指導する筆順は、「上から下へ」、「左から右へ」、「横から縦へ」といった原則として一般に通用している常識的なもの。

## 小学校中学年

### ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

**文字の組立て方** 点画の組立て方から部首や部分相互の組立て方までを指す。

※中学年では部首と他の部分の組立て方、すなわち左と右、上と下、内と外などの関係において一つの文字が組立てられるという仕組みを理解することを重視する。

**形を整えて書く** 低学年で指導した全体の概形を意識するとともに、一つの文字の構成要素となる部分相互が等間隔であること、左右対称であること、同一方向であることなどを考えて書くこと。

### イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

**漢字や仮名の大きさ** 漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのこと。

※画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。

**配列に注意する** 行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意するということ。

※読みやすい文や文章を書くには、一文字一文字を整えることに加え、文字の集まりという面から整えることが重要。字数を多く書くことや、毛筆に慣れるということから小筆の活用にも配慮する。

### ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

**筆圧** 筆記具から用紙に加わる力のこと。

※点画には、左右の払いのように筆圧を変化させて書くものや、横画のようにほぼ等しい筆圧で書くものもある。

## 小学校高学年

### ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

**用紙** 原稿用紙や便箋などの書式に対応した用紙、半紙、画用紙や模造紙などの白紙に始まり、それらに準ずる布や金属、ガラスなどといった用材全般のこと。

**文字の大きさ** 高学年では、主に用紙全体との関係から判断される文字の大きさのこと。

※例えば、用紙全体からはみださずに書く、逆に余白をつくり過ぎずに書く、また、用紙の中で見出しの文字を目立たせる、地の文章の文字は控えめに見せるといったようなことである。

**配列** 高学年では、用紙全体との関係から考えられる文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方に重点を置いている。

**書く速さを意識する** 書く場面の状況によって速さが決まってくることを意識すること。速く書くことが求められるだけでなく、ゆっくりと丁寧に書くことが求められる場面もある。

### イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

**目的** 生活や学習活動において文字を書く様々な場面における目的のこと。

**筆記具** 鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなどから選択する。

**特徴** 筆記具全体の形状、書く部分の材質や形状、色など。

### ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

※点画の中での穂先の動きだけでなく、点画から点画へ、更には、文字から文字へと移動していく過程に重点を置く。したがって、「穂先の動き」と「点画のつながり」とは一体化した事項と言える。

## 中学校第1学年

### ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

**字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解する** 書こうとする文字の字形を整えること、紙面全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること、文字と文字との間の空け方や行の中心の取り方に注意すること、行と行の間の空け方に注意することなど。

### イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

**漢字の行書の基礎的な書き方** 直線的な点画で構成されている漢字を、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を伝統的な文字文化として理解して書くこと。

※字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方、点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。

### 中学校第2学年

ア **漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。**

**読みやすく** 読み手への伝達を意識すること。

※「読みやすく速く書くこと」は、漢字の行書とそれらに調和した仮名の書き方に慣れさせ、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立たせるための重要な指導である。

イ **目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。**

**目的や必要に応じて** 国語科をはじめとする各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、その書体や筆記具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫すること。

※メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物、はがきや封書といった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体、筆記具で書く。

**楷書又は行書を選んで書くこと** 学習や生活における様々な場面において、楷書で書いた方がよい場合と行書で書いた方がよい場合とがあることを踏まえ、習得した書体に関する知識や技能を目的や必要に応じて主体的に選択し、書くこと。

### 中学校第3学年

ア **身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。**

**身の回りの多様な文字に関心をもつ** 手書き文字だけでなく、活字やイラスト文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字や、それらの文字の使われ方などに関心をもつこと。

**効果的に文字を書く** 文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くこと。

※身の回りの多様な文字に関心をもちながら、字形を正しく整える能力、配列などを整える能力、速く書く能力、楷書や行書を使い分ける能力、筆記具の選択について工夫する能力など、小学校からこれまでに身に付けてきた書写の能力を総合的に発揮させるように指導する。

イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校

硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること。

#### 中学校

ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。

ウ 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。

ウ 指導計画例

「日常生活や学習活動に生かす」ことに関連させた「書写に関する事項」の指導計画例として、小学校高学年と中学校第3学年の2例を示した。

**書写に関する事項〔小学校高学年〕**

- 【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○半紙に合わせた字の大きさを作品となる字を書いたり、小筆で名前を書いたりする。  
 ○毛筆の穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。  
 ◆半紙以外の用紙において、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める。  
 ◆日常生活の中で毛筆に触れる。

**【身に付けさせたい力】**

- ①言葉に合った文字の大きさや配列を考えて書こうとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

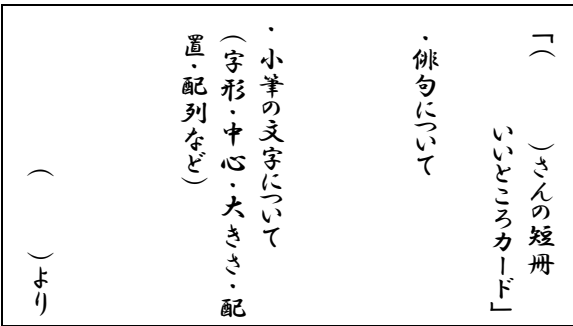
**【単元名】 俳句を書こう～文字の大きさや配列を考えて書く～**

**【教材名】 〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①俳句の言葉に合った文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて書こうとする。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②短冊用紙との関係に注意し、文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて自作の俳句を短冊用紙に書く。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			前時の単元「短歌と俳句」で自作した俳句を、小筆で短冊用紙に書いて、校内に掲示するという学習の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>・自作の俳句を半紙に毛筆で試書し、字形の確認をする。</li> <li>・短冊大の用紙で、文字の大きさ、配置、配列を考える。(硬筆で書いて検討してもよい。)</li> <li>・次時に向けて字形、文字の大きさ、配置、配列を意識した自己課題を明確にし、ワークシートに書き込む。</li> </ul>
2	②短冊用紙との関係に注意し、文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて自作の俳句を短冊用紙に書いている。 〈言語についての知識・理解・技能 書写ア〉 ①俳句の言葉に合った文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	短冊用紙に書かれた文字 ワークシート	短冊用紙に清書をする <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に設定した課題に気を付けながら書く。</li> <li>・自己課題を基に自己評価する。</li> <li>・余裕がある場合は、色鉛筆などで絵を添える。</li> </ul> 短冊用紙を友達と交換し、「〇〇さんの短冊 いいところカード」を書き交流する 

**【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②整った字が書けない児童には、短冊用紙（練習用紙）に、文字を書く位置に鉛筆で印を付けて書くように指示する。〈書写ア〉  
 ①自分が考えたように文字の大きさや配列を決められるよさを伝える。〈国語への関心・意欲・態度〉

**書写に関する事項〔中学校第3学年〕**

- 【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○楷書、行書の手本に忠実に書く。  
 ◆日常生活の中で毛筆を使い、目的や場面に合った効果的な文字を書く。

**【身に付けさせたい力】**

- ①書く目的や必要に応じて効果的に書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

**【単元名】「日めくりカレンダー」を作ろう～効果的な文字や配列で書く～**

**【教材名】〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①自分の選んだ言葉にふさわしい書体や配列などを考えて書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②文字の伝達性や表現性などを考えて、自分の選んだ言葉を効果的な書体や配列で書く。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

**【授業の具体例】**

	評価規準	評価方法	学習活動
国語 1			<p>国語の時間を利用し、卒業までの「日めくりカレンダー」を作成していく活動の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見本を提示し、書き込む項目を確認する。 (例)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">氏名 ○ ○</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">克己復礼</p> <p>3月4日(金)公立入試の日 卒業まであと14日 言葉の意味:私欲に打ち勝ち、礼儀に～ みんなへのメッセージ:試験頑張れ!</p> </div> <p>言葉を選ぶ。(国語便覧などを活用する。意味調べを含む。)</p> <p>書体や配列を考える。(自分が選んだ言葉を大きく画用紙の上段に書く。)</p> <p>太筆、小筆のよさを考え、文字により効果的に選択する。</p> <p>下段は、使用したい筆記具で仕上げる。毛筆で仕上げたい場合は書写の時間に書く。</p>
書写 1	<p>②文字の伝達性や表現性などを考えて、自分の選んだ言葉を効果的な書体や配列で書いている。                      (言語についての知識・理解・技能 書写ア)</p> <p>①自分の選んだ言葉にふさわしい書体や配列などを考えて書こうとしている。                      (国語への関心・意欲・態度)</p>	<p>カレンダー (画用紙)</p> <p>振り返りカード</p>	<p>試書で字形の確認をした後、半紙で練習をし、画用紙に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行書で書く場合は、「行書の特徴」について教科書等で確認をする。</li> <li>教室(前後の黒板や廊下など)に作品を掲示し、友達の作品を鑑賞する。</li> <li>鑑賞カードを使用し、自分の割当ての日の前後3～4人の作品に対し、書体や配列等の評価やコメントを記入する。</li> <li>カードを渡しながら交流し、もらったカードは画用紙の裏に貼る。</li> <li>自己評価を振り返りカードに記入する。 (・カードを貼り終えたら回収し、学級の日めくりカレンダーを完成させる。)</li> </ul>

**【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】**

- ②選んだ文字を実際の画用紙を用いて一緒に配列し、鉛筆で下書きを済ませておく。〈書写ア〉  
 ①便覧のことわざ、故事成語、四字熟語などが載っているページを見せて、言葉を選んでみようとして投げ掛け、まずは言葉選びへの興味・関心を高めさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## 4 資料等の利用を図る学習活動

### (1) 学習指導要領で求められている能力

中教審答申では、「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」ことが求められている。その改善の具体的な内容として、小学校では「課題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する」、中学校では「小学校で習得した能力の定着を図りながら、中学校段階にふさわしい文章や資料等を取り上げ、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する」としている。

これを受け、学習指導要領国語科では、文章（連続型テキスト）に加え、図表やグラフ、写真などの資料（非連続型テキスト）を利用する能力の育成が示された。それらは、各領域の指導事項や言語活動例において、具体的に示されている。

### ア「指導事項」に示されている言語能力

#### ◇「話すこと・聞くこと」

- ・目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。（中学校第2学年ウ）
- ・社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。（中学校第3学年ア）

#### ◇「書くこと」

- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。（小学校第5学年及び第6学年エ）
- ・論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。（中学校第3学年イ）

#### ◇「読むこと」

- ・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。（中学校第1学年カ）
- ・多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。（中学校第2学年オ）

### イ「言語活動例」に示されている資料等を利用する学習

#### ◇「話すこと・聞くこと」

- ・図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。（小学校第3学年及び第4学年ウ）
- ・資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。（小学校第5学年及び第6学年ア）

#### ◇「書くこと」

- ・収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。（小学校第3学年及び第4学年ウ）
- ・図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。（中学校第1学年イ）

#### ◇「読むこと」

- ・文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。（中学校第1学年イ）
- ・新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。（中学2年ウ）
- ・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。（中学3年イ）

(2) 全国学力・学習状況調査における資料等の利用を図る能力

ア 全国学力・学習状況調査で求められている能力

平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査において、「資料等の利用を図る」設問が、毎年出題されている。例えば、目的や条件に合わせて図表・グラフ、写真などを文章と関連させながら読み取り、理解したことを文章に書き表したり、資料を使って説明したりするものである。

こうした設問が毎年出題されていることから、文章だけでなく、資料を読んで考えたことを条件に合わせて表現・表出したり、資料を使って自分の考えを話したり書いたりする能力が重視されていることが分かる。

また、調査結果から、「図表・グラフ等と関連させながら文章を読んだり書いたりする」、「示された条件に従って、自分の言葉に置き換えて文章を書く」ことに課題がある傾向が見られた。したがって、今後、各領域の学習において、意識的に指導を行っていくことが求められる。

イ 設問例

(7) 平成21年度小学校「活用に関する問題」図を使って説明する（話す・聞く）

【A】西村さんのチームでは、チームのせめ方次のように決めました。まず、コート左側の西村さんが、中央にいる「A」さんにパスをします。その後、西村さんは、ゴールに向かって走ります。そして、西村さんは、ドリブルをしてゴールに向かって走ります。コート右側の「B」さん、西村さんの動きに合わせてゴールに向かって走ります。最後に、「B」さんは、ゴールに向かってシュートします。

【B】西村さんのチームでは、チームのせめ方次のように決めました。まず、コート左側の西村さんが、中央にいる「A」さんにパスをします。その後、西村さんは、ゴールに向かって走ります。そして、西村さんは、ドリブルをしてゴールに向かって走ります。コート右側の「B」さん、西村さんの動きに合わせてゴールに向かって走ります。最後に、「B」さんは、ゴールに向かってシュートします。

【C】西村さんのチームでは、チームのせめ方次のように決めました。まず、コート左側の西村さんが、中央にいる「A」さんにパスをします。その後、西村さんは、ゴールに向かって走ります。そして、西村さんは、ドリブルをしてゴールに向かって走ります。コート右側の「B」さん、西村さんの動きに合わせてゴールに向かって走ります。最後に、「B」さんは、ゴールに向かってシュートします。

設問の設定は、ボードを使いながら、バスケットボールの作戦について説明するというものである。解答するに当たっては、作戦図中の凡例（↓等の記号）に着目しながら、作戦図と文章とを関連させて読み、文脈に合わせて適切な文を書くことが求められている。

(イ) 平成22年度中学校「活用に関する問題」資料を作成して発表する（書く）

3 どうして消せるのか？

「字を書く」とは、紙の繊維の間に鉛筆の芯に含まれる黒鉛の繊維がこすりこまれて、「字」が作られる。消しゴムで消すと、黒鉛の繊維がこすり取られて、紙の表面に引き付けられ、消しカスとなる。

図にするとこんな感じ↓

紙の繊維 黒鉛の粒 紙の表面

消しカス

**字が消える仕組み**

紙の繊維に入り込んだ黒鉛

黒鉛

消しカスとなった黒鉛

4

【ノート】

設問の設定は、「提示する資料」を示しながら、調べたことをまとめ、発表するというものである。

解答するに当たっては、

①【資料】の構成や内容、表現の仕方の特徴、図と文との関係等を捉える。

②文章（【ノート】）から必要な情報、言葉を選び出す。

□の中に、図に適した内容を、表現の仕方に注意しながら書き入れることが求められている。

【提示する資料】

【提示する資料】4の□には、どのような説明を書くのが適切ですか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 【ノート】の中にある言葉を使って書くこと。

条件2 「黒鉛」という言葉に続くように、十五字以内で書くこと。

(ウ) 平成22年度小学校「活用に関する問題」情報を関係付けて読む（読む）

設問の設定は、「条件に合った時計を買う」という目的で、「決めたこと」と必要な情報を関係付けて読む、というものである。

解答するに当たっては、二つの条件に合った時計を選び、資料にある情報を、字数などの設問の条件に合わせて説明するというものである。

目的に応じて資料を読み、条件に応じた表現の仕方でも説明することが求められている。

（問題）中島さんは、インターネットを使って集めた目覚まし時計の情報を読んで、その記号を書き出した文の□の中を書き出してください。A・B・Cの中から一つの時計を選び、理由を「資料」の「決めたこと」の内容のどちらにも書かずに、書き出した文に続けて、六十文字以上、八十文字以内にとめて書き出してください。

選ぶ目覚まし時計は、	□	です。	理由は、
------------	---	-----	------

【資料】インターネットを使って集めた目覚まし時計の情報

**A** 価格：3150円

- 設定した時刻になると、「おはよう」という声を出す。
- 時刻を示す針が、暗いところで光る。

**B** 価格：5250円

- 5種類の音楽の中から目覚まし音を選べる。
- 時刻を示す数字の横に、「午前」、「午後」という表示がある。

**C** 価格：4200円

- 好きな音楽を目覚まし音にすることができる。
- ボタンをおすと、時刻の表示が日付の表示に切りかわる。

【決めたこと】

- ◇ 5000円より安いもの。
- ◇ 音楽で目覚めることができるもの。

(3) 資料等を利用する能力を高める言語活動の例

各領域の指導において、次のような言語活動が考えられる。

◇ 「話すこと・聞くこと」

- ・ 図表、写真等を使って、話の効果的な順序を考えながら説明する。
- ・ 話す目的に応じて収集した情報を話の中心や付加的な部分を整理しながらフリップにまとめ、プレゼンテーションをする。

◇ 「書くこと」

- ・ 図解や写真、グラフなどの資料を効果的に使った説明文や新聞記事を書く。
- ・ 必要な事柄を収集し、キャッチコピーなどを入れた宣伝ポスターを書く。

◇ 「読むこと」

- ・ 新聞記事を読み、ニュース原稿にして音読する。
- ・ 挿絵、感想、印象的な言葉などを入れて、ポップで本の紹介文や推薦文を書く。

(4) 資料等を利用した指導計画例

**A 話すこと・聞くこと** の領域に関連させた指導〔小学校第6学年〕

【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○伝えたいことの中心を意識し、理由や事例などの段落を構成しながら話す。

◆目的や意図に応じて、話の内容や構成を工夫する。

【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、伝えたいことについて、的確に話す能力を身に付けさせるとともに、適切に話す態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話すこと。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③言葉の使い方に対する感覚について関心をもつこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)〉

【言語活動例】資料を提示しながら説明や報告をすること。〈ア〉

【単元名】修学旅行の思い出を報告しよう～話の構成を工夫しながら話す～



【教材名】〈開発教材〉

【言語活動】資料を提示しながら報告すること。〈ア〉

【単元目標】

- ①相手や目的に応じた写真を提示したり言葉を使ったりしながら、修学旅行の思い出について、的確に話そうとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手や目的に応じて写真を選んだり並び替えたりするなど、写真を効果的に活用して話す。〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③言葉の使い方に対して関心を持つ。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>修学旅行の思い出を報告することに見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行で撮った様々な場面の写真を15枚程度用意し、思い出について話し合う。</li> <li>・報告する相手と目的を、カードから選択する。</li> <li>・相手に応じて伝えたい内容に違いがあること、それにより構成や言葉の使い方にも違いが出ることを知る。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【相手カード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者</li> <li>・来年以降、修学旅行へ行く下級生</li> <li>・同学年の他グループの友達</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><b>【目的カード】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学先や見所を伝える</li> <li>・旅行中のハプニングやエピソードを伝える</li> <li>・修学旅行先で学んだことや発見したことを伝える</li> </ul> </div> </div>
2 3 4	②相手や目的に応じて写真を選んだり並び替えたりするなど、写真を効果的に活用して話している。〈「話す・聞く能力」イ〉	構成メモ	<p><b>相手と目的に応じた写真を基に、話を構成する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告したい内容を付箋に書き出し、「始め、中、終わり」の構成に即して、相手や目的に合わせて並べる。</li> <li>・選んだ内容に合わせて、効果的な写真を選ぶ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>1回目【保護者】 修学旅行先で学んだことや発見したことを伝える</p> <p>2回目【下級生】 見学先や見所を伝える</p> </div>
5 6 7 8 9 10	③言葉の使い方に対して関心を持っている。〈言語についての知識・理解・技能イ(ハ)〉 ①相手や目的に応じた写真を提示したり言葉を使ったりしながら、修学旅行の思い出について、的確に話そうとしている。〈国語への関心・意欲・態度〉	原稿     発表 振り返りカード	<p><b>交流や練習を通して、原稿を吟味する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真の選び方や並べ方、報告の際の言葉の使い方など、2回の報告を比較し、違いとその意図を説明する。</li> <li>・相手に応じた言葉や使い方を選びながら、原稿を書く。</li> <li>・話す練習を行い、必要に応じて修正する。</li> </ul> <p><b>相手と目的を変えて、2回の報告を行う</b></p> <p><b>自らの報告を振り返り、効果的な報告の仕方をまとめる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に応じた話の内容や構成、言葉の使い方ができたか、評価し合う。</li> </ul>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②相手や目的に応じて写真を選ばせ、順番を考えさせた上で、話を構成させる。〈イ〉
- ③「始め」と「終わり」の言葉の使い方リストを示し、話す相手に応じて選択させる。〈イ(カ)〉
- ①保護者や下級生に、聞きたいことをインタビューさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

**B書くこと** の領域に関連させた指導〔中学校第2学年〕

【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○伝えたい事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書く。

◆説明や具体例を加えるなど、分かりやすさを意識しながら効果的に書く。

【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉

②社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。〈「書くこと」ア〉

③文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ハ)〉

【言語活動例】多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。〈イ〉

【単元名】意見文を書き投稿しよう～事実や意見が効果的に伝わるように書く～

【教材名・教材の特長】開発教材

- ・新聞には様々な社会生活に関する事柄が記載されているため、話題の設定において参考になる。
- ・意見文を新聞へ投稿することにより、読み手を意識しながら文章を書くことができる。

【言語活動】自分の立場を明確にして、意見を述べる文章を書く。〈イ〉

【単元目標】

①社会生活に関する意見文を、資料を基にしながら効果的に書こうとする。〈国語への関心・意欲・態度〉

②社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめる。〈「書くこと」ア〉

③文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考える。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ハ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>意見文を書き、新聞へ投稿することの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から提示された社会生活に関わる中・高生の投書を読む。主語・述語の照応等の文の中の語句の構成や文の構成に着目しながら、意見文の特徴を理解する。</li> <li>・学習課題「興味を持った記事についての意見文（600字程度）を書き、新聞に投稿する」を理解する。</li> <li>・自分が集めてきた人間、社会、文化、自然などの社会生活に関する新聞記事から強く感じたことや気になったことについて紹介し合い、自分が論じたい事柄を決定する。</li> </ul>
2	②社会生活の中から課題	構成メモ	<p><b>効果的な資料を探し、文章の構成を考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋（青）に、自分の意見と考えた理由を書く。</li> <li>・新聞記事から自分の意見の基になる事実を、付箋（赤）に抜き出す。情報が不足する場合は、関連記事や本、インターネット等から資料を探す。</li> <li>・付箋を整理して、自分の意見と事実をまとめる。</li> </ul> <p><b>交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見と事実の関係に着目しながら、選択した資料の適性について助言し合う。</li> <li>・友達からの助言を基に、必要に応じて資料を補足したり選択し直したりして、内容を修正する。</li> </ul>
3	を決め、多様な方法で材料		
4	を集めながら自分の考えをまとめている。 〈「書く能力」ア〉		
	③文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ハ)〉		
5	①社会生活に関する意見文を、資料を基にしながら効果的に書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	原稿	<p><b>600字程度の文章を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語・述語、修飾語と被修飾語等の照応に注意しながら、下書きを書き、推敲する。</li> <li>・下書きを読み合い、助言し合う。</li> <li>・文章を練り直し、清書したものを新聞に投稿する。</li> </ul> <p><b>意見と事実との関係、文の中の語句の順序や文の構成に視点置きながら、学習活動を振り返る</b></p>

## (5) 学校図書館の利用

学習指導要領解説には「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」の中で、次のように記されている。

学校図書館については、「C読むこと」における読書指導だけの利用ではなく、「A話すこと・聞くこと」や「B書くこと」の指導の中でも、必要な図書館資料を得るために、意図的・計画的に利用する必要がある。また、国語科においてはもちろん、他の教科においても、児童一人一人が自分の疑問や課題を解決するために、学校図書館が学習・情報センターとして有効に機能することを求めている。このような観点から各領域等において、学校図書館の利用計画を立て、情報収集のための活用を意図的、計画的に行うことが大切である。また、国語科における読書の指導を、他の教科における読書の指導や学校図書館における読書の指導と緊密に関連付け、成果を上げていく工夫も大切である。

なお、情報収集や情報発信の手段としてコンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設けること、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成とプロジェクターによる提示等も考えられる。

「小学校学習指導要領解説国語編」p.102

国語科の学習指導においては、目標を実現するために学習に関係する資料を調べる際などに、学習・情報センター、読書センターとしての機能を備えた学校図書館などを計画的に利用し、その機能の活用を図るようにすることが大切である。

「A話すこと・聞くこと」においては、例えば、説明や発表などを行うためには、資料を準備することが欠かせないし、また、広く話題を求めるためには多くの資料に目を通す必要がある。「B書くこと」においては、例えば、報告をまとめる場合には、関係する資料などから必要な材料を求めることが必要となる。「C読むこと」においても、例えば、教科書に掲げる教材に関連して学習を深化し拡充する場合には、自発的、自主的に資料を探すことも必要となる。したがって、様々な資料を有する学校図書館などの施設を計画的に利用するよう指導することが大切である。

生徒は、学校図書館などを活用して学習することを通して、資料の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方などの学び方や考え方を身に付けるとともに、自らの力で論理的に考え判断する力、自分の思いや考えを的確に表現する力、今まで気付かなかったことや分からなかったことについて新たに関係があることなどを発見し解決する力などを身に付けることができる。

また、情報収集や情報発信の手段としてコンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設けること、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成とプロジェクターによる提示等も考えられる。今回の改訂では、次の指導事項や言語活動において、情報機器の活用を具体的に示している。

第2学年 「A話すこと・聞くこと」(1)

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

第2学年 「C読むこと」(2)

ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

これら以外でも、「A話すこと・聞くこと」における話題設定や取材に関する指導、「B書くこと」における課題設定や取材に関する指導、「C読むこと」における読書と情報活用に関する指導などでは、情報機器の活用が考えられる。

「中学校学習指導要領解説国語編」p.81～82

小学校、中学校とも「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、相互に密接に関連付けて指導することと、その際に学校図書館などを計画的に活用し、その機能の活用を図ることが説明されている。

(6) 学校図書館を利用した指導計画例

**C読むこと**の領域に関連させた指導〔小学校第2学年〕

科学的な読み物に関心を持たせるために、司書教諭によるブックトークを単元の初めに行うことと、領域の指導をする際に必要な図書資料を図書館で収集し、活用していく例。

【「読むこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 説明文教材の内容の大体を事柄の順序に気を付けながら読む。
- 生き物について書いてある本に興味を持っている。
- ◆知識を得るために本を選んで読む。

【身に付けさせたい力】

- ①書かれている事柄の順序に気付いて読むとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。  
〈「読むこと」力〉
- ③言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くこと。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】読んだ本について、好きなところを紹介すること。〈オ〉

【単元名】読んだ本を紹介しよう～本を選んで読む～

【教材名・教材の特長】「本をさがして読む 図書館へ行こう」（教育出版 2年上）

- ・初めて学校図書館に行く児童が図書館の使い方を知る様子について書かれている。
- ・本を分類に従って調べる方法が書かれている。

【言語活動】生き物について書いてある本を読んで、カードを作って紹介する。〈オ〉

【単元目標】

- ①伝えたいことを整理して、友達に本を紹介しようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②自分の調べたい生き物に関する知識を得るために、本を選んで読む。 〈「読むこと」力〉
- ③言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
朝 1 2			<p>前単元の学習を振り返り、生き物について更に知りたい気持ちを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな生き物について知っていることを出し合う。</li> <li>・知らないことについてどのように調べるか話し合う。</li> <li>・教科書を読んで、学校図書館の利用の仕方についてイメージを持つ。</li> </ul> <p>学校図書館の見学をする 学習のめあて「生き物について書いてある本を紹介しよう」を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館で「生き物の知恵」をテーマにした司書教諭のブックトークを聞く。</li> <li>・読み物や図鑑など本の特徴を知る。</li> <li>・本の探し方について知る。</li> </ul>
3 4	②自分の調べたい生き物に関する知識を得るために、本を選んで読んで読む。 〈「読む能力」力〉	付箋	<p>調べたい生き物を絞り、本を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ本を読み、分かったことや面白かったことを付箋に書く。</li> <li>・選んだ本が学校図書館のどの棚にあったのか確認する。</li> </ul>

時	評価規準	評価方法	学習活動
5 6	③言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。 〈言語についての知識・理解・技能(7)〉	付箋	付箋に書き出したことを紹介し合う ・同じ生き物を選んだ者同士でグループを作り、読んだ本と付箋の内容について友達と紹介し合う。 ・グループで一つの生き物を決め、その生き物独特の知恵を感じる行動や習性を本から読み取る。
7 8	①伝えたいことを整理して、友達に本を紹介しようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	紹介カード	グループで一つの紹介カード「生き物のちえカード」を作り、グループ間で交流する ・付箋をどのように整理すると本の紹介にふさわしいのか考える。 ・交流の中で友達が興味を持つような紹介になっているか、評価し合う。 ・生き物の知恵について書いてある本を、「生き物のちえカード」と共に展示する。備え付けの「読んだよカード」で常時感想を伝え合う。

**A 話すこと・聞くこと** の領域に関連させた指導〔小学校第4学年〕

学校図書館を学習・情報センターとして活用し、児童が自分の疑問や課題を解決する方法を学ぶ授業例。図書の分類による検索方法などを他の教科の指導にも生かすことができる。学校図書館の利用計画を立て、情報収集のための活用を意図的、計画的に行うことが大切である。

**【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】** ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○身近なことから話題を決める。

○話し手の考えの筋道をたどって聞く。

◆相手に応じて適切な言葉遣いで話す。

※「読書『とんぼの楽園づくり』」を事前に読んで、生物と環境について興味を持っている。

**【身に付けさせたい力】**

①相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら話そうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。

〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話すこと。

〈「話すこと・聞くこと」ウ〉

④表現したり理解したりするために必要な語句を増やすこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

**【言語活動例】** 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。 〈ウ〉

**【単元名】** 図鑑を読んでクイズを作ろう～関心のあることから話題を決める～

**【教材名・教材の特長】** 〈開発教材〉

**【言語活動】**

図書館の本や図鑑などから読み取ったことを基にクイズを作り、話す。 〈ウ〉

**【単元目標】**

①図書館の本や図鑑などから読み取ったことを基にクイズを作り、話そうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモする。

〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話す。

〈「話すこと・聞くこと」ウ〉

④表現したり理解したりするために必要な語句を増やす 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>図書館で本を選ぶ方法を確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館に行き，テーマやジャンルからの検索，目次や索引を利用した検索方法を知る。（日本十進分類法など）</li> </ul> <p><b>学習のめあて「生き物と自然環境をテーマにクイズを作り，1年生にクイズを出そう」を知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作ったクイズに答え，クイズについてイメージを持つ。</li> <li>・図書館の本から選んで，クイズの題材を決める。</li> <li>・調べた本から要点をメモする時は，大事なところを抜き出すことを知る。</li> </ul>
2	②話題を決め，必要な事柄について調べ，要点をメモしている。	ワークシート	<p><b>クイズに出す生き物と自然環境の関わりがわかる題材を選び，要点をメモする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の決めた題材について本で調べ，要点をメモする。</li> </ul> <p><b>クイズの表現を考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを基にそれぞれクイズを作る。</li> <li>・調べたことが答えとなるように問いの表現を工夫する。</li> <li>・同じ生き物を選んだ児童でグループを作る。</li> </ul> <p><b>クイズ発表会のリハーサルをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの中でリハーサルをし，言葉の抑揚や強弱，間の取り方を考え，評価シートを利用してアドバイスし合う。</li> <li>・1年生にとって難しい言葉や分かりにくい表現がないか，聞き手の立場で改善点を考え，繰り返し練習する。</li> </ul> <p><b>1年生に向けてクイズ発表会をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表会を行い，1年生もグループに分かれて参加する。</li> <li>・言葉の抑揚や強弱，間の取り方に注意して話す。</li> <li>・参考にした学校図書館の本を用意しておき，実物を見せて紹介する。</li> </ul> <p><b>クイズを作った時の図書館の本の使い方を振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズを作るのに適切な本を選択できていたか確認する。</li> </ul>
3	④表現したり理解したりするために必要な語句を増やしている。		
4	〈「話す・聞く能力」ア〉 〈言語についての知識・理解・技能(ウ)〉		
5	③言葉の抑揚や強弱，間の取り方に注意して話している。	クイズ用紙 発表	
6	〈「話す・聞く能力」ウ〉	評価シート	
7	①図書館の本や図鑑などから読み取ったことを基にクイズを作り，話そうとしている。		
8	〈国語への関心・意欲・態度〉	振り返りカード	

課題解決のために資料を収集する時や収集した資料を基に報告にまとめる時には，どのような資料が必要であるか，手にした本の中に必要な資料があるかどうか考え，判断する力が求められる。国語の授業において，このような学習の機会を増やし，司書教諭等と連携しながら学校図書館を積極的に活用していきたい。また，地域にある公共図書館の団体貸し出しの制度を利用して，児童に同じ本が行きわたるようにすることも考えられる。

## 5 読書活動の充実

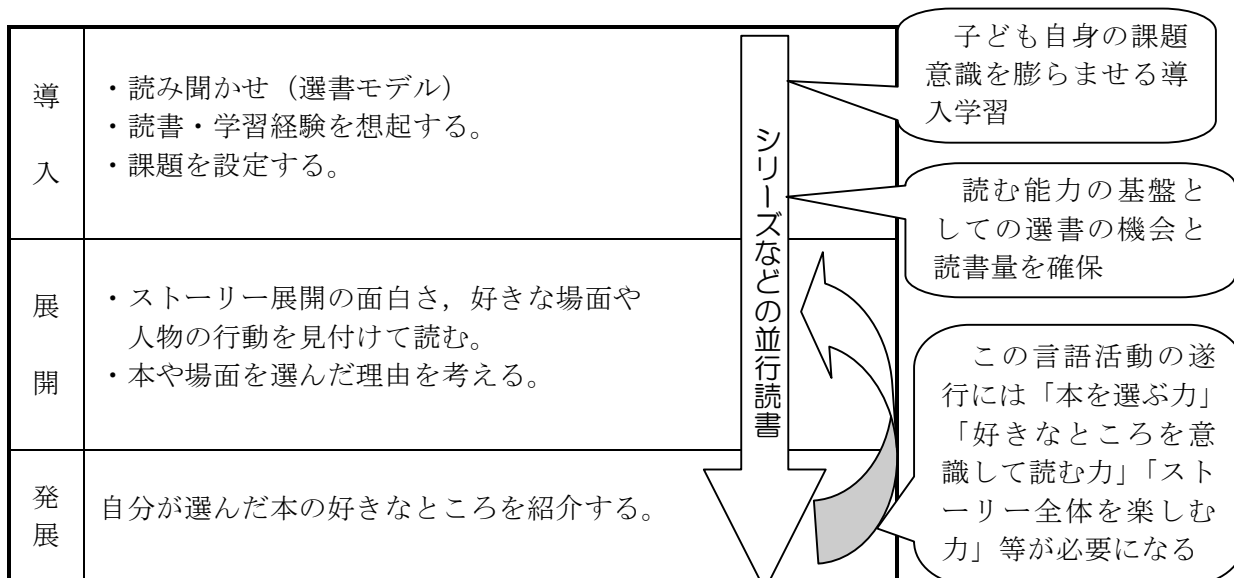
### (1) 日常の読書活動につなげる指導

言語に関する能力を育むに当たっては、読書活動の充実が不可欠である。小学校国語科においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域の指導の中で必要な図書資料を得るなど、目的を明確にして学校図書館を計画的に利用し、読書活動を進めることが大切である。また、読書は知的な活動や、人間形成や情操を養う上で重要であり、多様な指導を展開していく必要がある。

各学年の「読むこと」には、物語や詩、伝記、説明、記録、解説などの多様な本や文章を読んで感想を述べたり、考えを表現したりする言語活動例を示している。このような言語活動を通して、本の題名や種類などに着目したり、索引を利用して検索をしたりすることにより、児童自ら必要な本や資料を選ぶことができるように指導する必要がある。また、一冊の本だけでなく、同じ主人公や作家の本やシリーズへと、児童の読書範囲が広がるよう工夫して指導する。

参考 「言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫」 独立行政法人教員研修センター

一例として、「読むこと」第1・2学年ウ・オ・カを重点的に指導する単元を提示する。次のような導入・展開・発展の流れの中で、同じ主人公や作家のシリーズなどの並行読書を行うことにより、読書範囲が広がり日常の読書活動に結び付けていくこともできる。



参考「新学習指導要領の趣旨を生かした国語科の授業づくり」 文部科学省・国立政策研究所 水戸部修治

### (2) 読書活動の現状

子どもの頃からの読書習慣を確立するために、静岡県では平成16年1月に「静岡県子ども読書推進計画」を策定し、平成20年2月に計画の見直しを図って「後期計画(平成20～22年度)」を策定した。平成22年度は、後期計画の最終年に当たることから、これまでの計画の現状と課題を踏まえて、平成23年3月、第二次計画を策定した。今後10年間取り組んでいく施策の方向の中で、次のような努力目標が示されているので抜粋する。

推進計画全体の達成指標	数値 (H25)	実績
本を読むことが好きだと答えた児童・生徒の割合	80%	小学校 73.6% 中学校 72.6% 高校生 60.7% (平成21年度)

目標項目	数値 (H25)	実績
朝読書, 読み聞かせ等全校で取り組む読書活動を実施している学校数の割合 (特別支援学校は, 児童生徒の実態に応じて, 朝読書, 読み聞かせ等の読書活動に取り組む学部数)	小学校 100% 中学校 100% 高等学校 90% 特別支援 100%	小学校 100% 中学校 100% 高等学校 78.2% 特別支援 100% (平成 21 年度)
1 か月の目標読書冊数	小学生 8 冊以上 中学生 4 冊以上 高校生 2 冊以上	小学校 6.1 冊 中学校 3.2 冊 高校生 1.8 冊 (平成 21 年度)

### (3) 読書活動の様々な取組

読書の指導については, 目標を持って読書し, 日常的に読書に親しむようにすることや図書館の利用の仕方を理解することが求められている。下記に, 代表的な読書活動の例を示した。★印を付けた活動は国語科の授業で各領域と関連させてよく使われるものである。

実際に指導する場合の具体例は, それぞれの読書活動ごとに様々な文献に提示されているのでそれらを利用するとよい。

ブックトーク★	あるテーマに沿って, 様々な分野の数冊の本を順序よく紹介していく。
ストーリー・テリング	絵本や本の内容をそらんじて語っていくことで, 聞く側のイメージを膨らませ, 想像力や聞く心を育てる。
パネルシアター	大きなパネル板(毛羽立ちのよい布)に, 登場人物やお話の背景の絵(パネル板に貼り付く素材で作る)を貼ったりはずしたりしながら, お話を語っていく。
ペープサート★	登場人物を描いた紙を表裏2枚貼り合わせたものに持ち手を付け, 動かして紙人形劇を行う。
お話バイキング	事前に読み聞かせをする本の題名, 場所, 読み手を児童生徒に知らせておく。児童生徒は, 聞きたい本の場所へ行って読み聞かせを聞く。
親子読書	子供をひざや隣に座らせ, 読み聞かせを行う。親子読書カードに本の名前や感想を書き, 積み重ねていく。
読書アニメーション	ゲームを楽しむ感覚で, 自然に本の世界に誘う。指導者が盛り立て役に回り, 児童生徒の興味を引きながら本の世界に誘う。例「ダウトを探せ」「この人いたかな」
読書ジグソーパズル	本を読んだらパズルのピースをもらう。完成すると, ある本の表紙絵などができる。
読書の本	読んだ本の題名や感想を葉(色紙等)に書き, 掲示された木の幹に貼り付けていく。学級の読書記録として増やしていく。
読書スタンプラリー	教師や家族の人が選んだ「お薦めの本リスト」の中から読んで読む。1冊読み終わったら, 推薦した人にスタンプを押してもらう。
読書郵便★	本を読んで心に残った場面を, 葉書に絵や文章でかき, 郵便として出す。
ブックカード★ ブックポスター★	読み手の興味を引き出すよう, 書名, 作者名, お気に入りの場面の挿絵, あらすじ, 見出し, 推薦文などをポスターやカードに書き, 紹介をする。



本の帯づくり★	あらすじ、推薦文、本文の一部分など、作品の魅力を伝える本の帯を作成し、紹介する本に付ける。
紹介新聞づくり★	本を推薦する文章、作品に関するクイズ、人気の本の紹介、4コマ漫画で本の紹介などの記事をかき、編集する。
本づくり★	一つの作品を読んだ後、同じような文章で、内容を変えて自分でお話づくりをする。後で、つくった話を紹介し合う。
朗読劇★	物語等の作品を脚本に書き換え、役割を決め、朗読する。
読書会	一つの作品や一人の作家の作品などを話題にしながらか、感想を発表し合う。共感したり、感じ方の違いを互いに理解したりしながら、本に対する興味を深める。
読書発表会	グループで様々な本を紹介していく。一人一人の紹介の内容がつながりのあるものとなるよう、紹介の順番を決めた上で発表する。グループ全員の紹介が終わったら、聞き手は感想を伝える。

## ○ 読書活動に関する授業の参考例

### 【読んだ本について好きなところを紹介する事例】 小学校第1学年

単元を3次で計画し、第1次、第2次までの学習を生かして、第3次に自分のお気に入りの本を選び、本の小箱を作る。

#### 本時の学習

- 1 お話を紹介するのに大切だと思うもの（主人公などの登場人物、登場人物が持っているものや大事なもの、登場人物が行く場所や住んでいるところ、繰り返し出てくるもの）などを見付ける。
- 2 お話の一番好きなところとその理由を書いて小箱に入れる「おすすめカード」を作る。  
※「おすすめカード」を作る際には、好きな場面を紹介するために、選んだ本や文章を繰り返し読んでいく。

### 【神話・伝承などの読み聞かせを聞いたり発表し合ったりする事例】 小学校第2学年

神話や伝承を取り上げた文章や本の読み聞かせを聞き、話し合ったりクイズをし合う中で興味を持ち、神話や伝承の本や文章を発表し合う。

#### 本時の学習

- 1 「いなばのしろうさぎ」の読み聞かせを聞く。（教師の読み聞かせ）
- 2 読み聞かせ後の感想を交流し合う。
- 3 クイズをする。（登場人物やその人物の行動、場面の様子やあらすじなどに関わるクイズを出す。）
- 4 面白かったところ、興味を持ったところを発表し合い、本時のまとめをする。

### 【紹介したい本を取り上げて説明する事例】 小学校第4学年

同じ年頃の主人公が登場する物語文を教材にして、読書新聞を作った後、第3次で自分の好きな物語を説明する読書新聞を作る。

#### 読書新聞作り

- 1 読書新聞作りのための読みの視点を意識して並行読書をする。
- 2 単元の導入部や第2次の冒頭において、新聞記事のモデルを基に、どのような割り付けで、どのように書き進めればよいかを、児童がイメージできるようにする。

参考「言語活動の充実に関する指導事例【小学校版】～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～  
文部科学省初等中等教育局教育課程課 平成22年12月」

## 6 郷土ゆかりの文学

### (1) 郷土ゆかりの文学を扱う目的

私たちの郷土静岡は、温暖な気候と美しい自然に恵まれた豊かな土地である。また、古くから都と地方とを結ぶ交通の要所として多くの旅人が訪れた場所でもある。これらのことから、静岡を舞台とした文学作品が数多く残されている。郷土にゆかりのある文学に触れることで、児童生徒の郷土の文化や伝統に対する関心や理解を深めたい。

なお、小学校学習指導要領「伝統的な言語文化に関する事項」の

神話・伝承については、古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に伝わる伝説などが教材として考えられる。(第1学年及び第2学年)

教材としては、親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりすることになる。各地域に縁のある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句を教材にすることも考えられる。(第3学年及び第4学年)

などには、授業において郷土に関係のある文学を教材として扱うことが述べられている。

### (2) 郷土ゆかりの文学を用いた指導計画例

#### C 読むこと の領域に関連させた指導〔小学校第4学年〕

郷土にゆかりのある素材を用いて、文語調の短歌(和歌)を情景や心情を想像して読むことを目標とした授業。総合的な学習の時間の調べ学習を通して、歌枕である地域の名所について知り、和歌に詠まれた情景や心情を想像する手掛かりとする。これらの活動によって、地域に対する興味や関心を高めたい。

#### 【「読むこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。

○簡単な文語調の文章を音読する。

◆情景や心情を想像しながら読む。

#### 【身に付けさせたい力】

①内容の中心をとらえて読もうとすること。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

〈「読むこと」ア〉

③易しい文語調の短歌について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読をしたりすること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

【言語活動例】文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。〈低学年ア〉

【単元名】音読発表会をしよう～場面の様子がよく分かるように音読する～

【教材名・教材の特長】「小夜の中山を詠んだ和歌」〈開発教材 資料 p.138～141〉

有名な歌枕である「小夜の中山」(掛川市)は昔から多くの人々の歌に詠まれてきた。その理由(東海道の難所であったこと、夜泣き石の伝説等)を知り音読に生かすことで、郷土に対する興味や関心を高めることができる。

※「古今和歌集」「新古今和歌集」「金塊和歌集」に計六首が掲載されているが、生徒の実態に応じて、適切な歌を取り扱う。

【言語活動】情景や気持ちを想像しながら和歌を読む。〈低学年ア〉

※総合的な学習の時間において、「小夜の中山」について、地域の人へのインタビューや関連図書から調べ学習を行い、交流を通して知識を共有する。

#### 【単元目標】

①和歌に描かれた情景や気持ちを想像して音読している。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②総合的な学習の時間で学んだことを生かしながら、音読する。

〈「読むこと」ア〉

③情景や気持ちが感じられるよう、リズムよく音読する。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「小夜の中山」を題材にした和歌があることを知る (総合的な学習の時間との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間で、地域の名所として調べた内容を出し合う。</li> <li>小夜の中山を詠んだ和歌の範読を聞く。</li> </ul>
2			<p>学習のめあて「音読発表会をしよう」を知り、和歌の「音読」で大切なことを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>声の大きさやリズムに気を付けること、情景や気持ちが分かるように読むことを知る。</li> <li>意味によって切れる場所(句切れ)が違ったり、声の強弱や緩急で気持ちを表現できたりすることを知る。</li> </ul> <p>和歌を読み、自分の一首を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で読んだ後、個人、ペアなど繰り返し音読する。</li> <li>おおよその意味を知り、発表会で音読したい一首を選ぶ。</li> </ul>
3	②総合的な学習の時間で学んだことを生かしながら、音読している。 〈「読む能力」ア〉	ワークシート	<p>選んだ和歌について情景や気持ちを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ和歌とその意味をワークシートに視写する。</li> <li>意味を参考に、和歌に詠まれている情景や気持ちを想像し、ワークシートにまとめる。また、そのように考えた根拠を「小夜の中山」について学んだことの中から挙げ、併せて記入する。</li> </ul>
4	③情景や気持ちが感じられるよう、リズムよく音読している。 〈言語についての知識・理解・技能ア(7)〉	ワークシート	<p>効果的な読み方について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が考えた情景や気持ちを伝えるために、どのように読めばよいのかを考え、ワークシートにまとめる。</li> <li>考えた読み方で、音読練習をする。</li> <li>ペアで読み合い、効果的に表現されている箇所や伝わりにくい表現の箇所を指摘し合う。</li> </ul>
7	①和歌に描かれた情景や気持ちを想像して音読しようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	観察 評価カード	<p>音読発表会を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを用いて、自分の考える「情景や気持ち」「表現での工夫点」について説明した後、音読をする。</li> <li>聞き手は、発表者のよかった点について評価カードに記入する。</li> </ul>
8			

## 【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②「小夜の中山」がどのような場所であったか、ポイントを絞って考えるよう助言する。〈ア〉
- ③句切れをどこにするか、強く(速く)読んだ方がよい部分や弱く(ゆっくり)読んだ方がよい部分はないか、考えるよう助言する。〈ア(7)〉
- ①評価カードが書けない場合は、発表者が工夫点として述べたことを再度伝える。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと

### の領域に関連させた指導〔小学校第6学年〕

郷土にゆかりのある素材を参考に、物語と短歌を書くことを目標とした授業。取材の部分は総合的な学習の時間で行い、国語では課題設定の部分を中心に扱うというように、総合的な学習の時間との連携を踏まえている。地域の名所や旧跡について調べ、物語や短歌を書くことで、地域に対する興味や関心を高めたい。

#### 【「書くこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 関心のあることから書くことを決め、必要な事柄を調べる。
- 事実と感想、意見などを区別したり、理由や事例を挙げたりして書く。
- ◆調べた事柄から必要に応じて取捨選択したり、目的に応じた構成を考えたりする。

#### 【身に付けさせたい力】

- ①考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて書こうとすること。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、全体を見通して事柄を整理すること。  
〈「書くこと」ア〉
- ③古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

【言語活動例】経験したこと、想像したことなどを基に短歌を作ったり、物語を書いたりすること。  
〈ア〉

#### 【単元名】「私たちの伊勢物語」を作ろう～目的や意図に応じて書く～

#### 【教材名・教材の特長】「伊勢物語『東下り』富士山の部分」〈開発教材 資料 p.129～130〉

「伊勢物語『東下り』」には、主人公が初めて訪れた地方の珍しい風景が、感動を持って描かれている。ここでは、初めて富士山を見た主人公の驚きが「雪」と「大きさ」を中心に書かれている。日頃、見慣れた風景を「創作」という視点で見直したとき、新しい郷土の魅力に気付くことができる。

※本文の取り扱いは、児童の実態に応じて、「伊勢物語」の現代語訳のみを使用したり、古文と現代語訳を併記したもの、又は、和歌のみ古文のまま示したりするなど、様々な方法が考えられる。

#### 【言語活動】

地域の名所・旧跡について調べたことを基に、経験したことや想像したことを付け加え、伊勢物語の表現方法を真似て、物語と短歌を創作する。〈ア〉

※総合的な学習の時間において、地域の名所や旧跡について、地域の人へのインタビューや関連図書から調べ学習を行い、交流を通して知識を共有する。

#### 【単元目標】

- ①伊勢物語の表現方法を参考に、構成の効果を考えて物語と短歌を書こうとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②総合的な学習の時間で学んだことから書くことを決め、初めてその場所を訪れた人の驚きや感動を伝えるという視点で書く事柄を整理する。  
〈「書くこと」ア〉
- ③伊勢物語を読み、昔の人のものの見方や感じ方を理解する。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	③伊勢物語を読み、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。 (言語についての知識・理解・技能ア(1))	ワークシート	学習のめあて「私たちの伊勢物語を作ろう」を知り、伊勢物語の特徴を考える ・「富士山」の部分を読み音読する。 ・都(京都)の人が初めて静岡を訪れ、富士山を見た時の驚きが描かれていることを知る。 ・本文が物語と和歌(短歌)でできていることを知る。 ・始めに「雪」、その後に山の「全体像」について書かれていることを知り、その効果について理解する。 地域の名所や旧跡について確認し、「初めて静岡を訪れた人に紹介したい場所」という視点で、自分が書きたい場所を決める(総合的な学習の時間との連携) ・総合的な学習の時間で調べたことを出し合う。 ・複数の名所、旧跡の中から自分が書きたい場所の一つを決める。
3 4 5 6 7	②総合的な学習の時間で学んだことから書くことを決め、初めてその場所を訪れた人の驚きや感動を伝えるという視点で書く事柄を整理している。 (「書く能力」ア) ①伊勢物語の表現方法を参考に、構成の効果を考えて物語と短歌を書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ワークシート 作品 感想カード	学習の見通しを持ち、物語と短歌を書く 自分が決めた場所について、書きたい事柄を整理する ・総合的な学習の時間で学んだこと、その場所で自分が経験したことや聞いた(読んだ)こと、想像したことを付箋に書き出す。 ・「初めてその場所を訪れた人が驚いたり、感動したりする」という視点で、付箋の中から書きたい事柄を選び出す。 ・「富士山」の書かれた順序と照らし合わせて、書く順序を決め、付箋を整理する。 付箋を生かして物語文を書く ・「初めてその場所を訪れた人の驚きや感動を伝える」という視点で書く。 書いた物語の中で、最も伝えたい部分を短歌で表現する ・五・七・五・七・七の三十一文字で書く。 短歌を効果的な位置に置き、物語文を清書する ・「富士山」の和歌(短歌)の位置を確認する。 「私たちの伊勢物語」を読み交流をする ・清書原稿を印刷し「私たちの伊勢物語」として製本、配布する。 ・グループの中でそれぞれが書いたものを読み合い、感想カードを交換する。

## 【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ③比喩の効果などに触れ、昔の人と現代の自分たちとに感じ方の違いはないことを伝える。  
(ア(1))
- ②書きたい場所のことを知らない人に紹介するときに、一番伝えたいことは何か考えるよう助言する。(ア)
- ①始めに一番伝えたいこと、次に短歌、伝えたいことの説明の順で書くと良いことを伝える。  
(国語への関心・意欲・態度)

## **B書くこと**の領域に関連させた指導〔中学校第1学年〕

郷土ゆかりの素材を用いて鑑賞文を書くことを目標とした授業。中学校第1学年の言語活動例に「鑑賞したことを文章に書く」が設定されているが、多くの生徒がこれまで国語の授業において鑑賞文を書いたことがないと思われる。ここでは、小学校から継続して学習してきた音楽や図工(美術)の鑑賞の視点を文学作品の鑑賞に活用する。

身近な情景を歌った、童謡・唱歌の鑑賞を通して郷土に対する興味や関心を高めたい。

### 【「書くこと」における生徒の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○事実と感想，意見などを区別して書く。

○他の文章を引用して自分の考えを書く。

◆自分の意見を根拠を明確にして書く。

### 【身に付けさせたい力】

①進んで文章を書いて考えをまとめようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。  
〈「書くこと」ウ〉

③語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し，語感を磨くこと。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ

(イ)〉

【言語活動例】 関心のある芸術的な作品などについて鑑賞したことを文章に書く。〈イ〉

### 【単元名】 鑑賞文を書こう～根拠を明確にして書く～

#### 【教材名・教材の特長】 〈開発教材〉

静岡県には、土地の情景を詠み込んだ童謡や唱歌が数多く残されている。例えば、「みかんの花咲く丘」「茶摘み」「汽車ポッポ」「背くらべ」「森の水車」など。生徒たちが幼い頃、歌ったり耳にしたりした歌を自分たちの郷土の歌という面から眺めたとき、新たな発見や感動があると思われる。生徒や地域の実態に応じて様々な歌を取り上げることで、静岡という土地を多面的に眺めることができる。

なお、童謡を教材として取り上げるに当たり留意したいこととして、あくまでも歌詞に着目することが挙げられる。授業において、生徒たちが知っている童謡を口ずさむことは十分考えられるが、曲のイメージが純粋に歌詞を味わうことの妨げにならないよう注意したい。

#### 【言語活動】

興味を持った童謡の歌詞について鑑賞文を書く。〈イ〉

#### 【単元目標】

①鑑賞の視点を持って鑑賞文を書き，自分の考えをまとめようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②自分の考えや気持ち，感じたことを根拠を明確にして鑑賞文に書く。 〈「書くこと」ウ〉

③歌詞の言葉を情景や気持ちと関連させながら理解する。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>童謡の歌詞について鑑賞文を書くという目標を知り、「鑑賞文」とはどのようなものか考える(音楽との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の時間に、音色やリズムなどの要素や、背景となる文化・歴史などに視点を置いて、自分の感じたことや思ったことを鑑賞していたことを確認する。</li> <li>・音楽の例を歌詞に置き換え、言葉やリズム、詠まれている季節や情景、気持ち、歴史などを鑑賞の視点とし、自分の考えを書くことを知る。</li> <li>・例示された童謡の歌詞を皆で読み解き、解釈の仕方を理解する。※例えば五感などに着目すると良い。</li> <li>・教師が示したモデル鑑賞文から、視点の何点かを確認する。</li> <li>・プリントに提示された童謡の歌詞を声に出して読む。</li> <li>・自分が鑑賞文を書きたい歌詞一編を選ぶ。</li> </ul>
2	<p>③歌詞の言葉を情景や気持ちと関連させながら理解している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉</p>	ワークシート	<p><b>選んだ歌詞を鑑賞する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ歌詞を選んだ者でペアを作り、自分たちが選んだ歌詞を音読する。</li> <li>・歌詞で意味の分からない部分や言葉をペアで互いに指摘したり、質問し合うことで確認し、辞書で調べたり話し合ったりして、大体の意味を理解する。</li> <li>・前時に確認した視点の中で、自分の選んだ歌詞に関連する視点を取り上げ、特徴や読み取れることを書き出す。</li> <li>・書き出した中から鑑賞文に書きたいものを選び、自分が感じたこと、考えや気持ち、感想を書き加える。</li> </ul>
3	<p>②自分の考えや気持ち、感じたことを根拠を明確にして鑑賞文に書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p>	下書き原稿	<p><b>鑑賞文の下書きを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入してある言葉の意味、視点から読み取った内容や特徴が自分の考えや気持ちの根拠となることを知る。</li> <li>・ワークシートの内容を生かして400字程度で鑑賞文の下書きをする。</li> </ul>
4	<p>①鑑賞の視点を持って鑑賞文を書き、自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート	<p><b>鑑賞文を読み、交流をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ歌詞を選んだペアで下書き原稿を読み、自分と違う視点や同じように捉えた視点について話し合い、気付いたことをワークシートにまとめる。</li> <li>・話し合っただけの内容を反映させて鑑賞文を清書する。</li> <li>・各家庭で、自分の選んだ童謡と鑑賞文を紹介し、感想を聞き、自分の振り返りとともにワークシートに記入する。</li> </ul>
5		清書原稿	

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記評価規準の順）】

- ③季節や場所、色や香りなどを想像させる言葉を探すよう助言する。〈イ(イ)〉
- ②「読み取った内容とそれに対する自分の感想」を一つのまとまりとして考え、そのまとまりをいくつか書くよう助言する。〈ウ〉
- ①話し合いが進まないペアについては、ワークシートに戻り、選んだ視点がどこであったか、そこからどんなことを読み取ったかなどを話し合うよう伝える。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと の領域に関連させた指導〔中学校第3学年〕

### 【「読むこと」における生徒の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 文章の構成や展開,表現の工夫について読み取る。
- 読み取った構成や展開,表現の仕方に対して自分の考えを持つ。
- ◆文章を客観的,分析的に読み深める。

### 【身に付けさせたい力】

- ①文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読もうとすること。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②文章を読み比べるなどして,構成や展開,表現の仕方について評価すること。  
「読むこと」ウ
- ③慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ,和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し,語感を磨き語彙を豊かにすること。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】物語や小説などを読んで批評すること。〈ア〉

### 【単元名】私の一句を選ぼう～構成や表現の仕方について評価する～

【教材名・教材の特長】「俳句 正岡子規・河東碧梧桐・高浜虚子」〈開発教材 資料 P.143～144〉

静岡県には,過去に多くの文人が訪れ各地に名歌,名句を残している。ここでは,西部地区,東部地区で詠まれた五句を挙げる。自分たちの地域を詠んだ俳句を鑑賞することで,見慣れた景色を違った視点で眺め,気付かなかった郷土の魅力を再認識することができる。

※資料に掲載したもの以外にも数多くの俳句が静岡の地で詠まれている。地域や生徒の実態に応じて様々な作品を取り上げることが考えられる。

### 【言語活動】

俳句を読んで批評する。〈ア〉

※『『批評』とは,対象とする事物や作品などについて,そのもののよさや特性,価値などについて論じたり,評価したりすることである。』(学習指導要領解説国語編)とあるように,「批評」は「批判」とは違うことに留意したい。批評する視点を定めて俳句と向き合い,そのよさを読み取ることは,読み深めと同時に客観的な読みの第一歩となる。客観的な読みの視点を持つことは,高等学校国語総合「読むこと」の指導事項エ「(略)評価したり,書き手の意図をとらえたりすること。」につながることはもちろん,実生活に生きて働く力となる。

### 【単元目標】

- ①俳句を構成や表現の仕方の面から批評し,評価しようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②俳句二句を読み比べ,構成や表現の仕方について評価する。  
「読むこと」ウ
- ③言葉の使い分けや使い方に注意し,語感を磨き語彙を豊かにする。  
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)



【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「私の一句を選ぼう」という目標を知り、俳句を選ぶ際の視点（批評の視点）を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 範読に続いて音読した後、個人で繰り返し音読する。</li> <li>・ 自分がよいと考える俳句を二句選ぶ。</li> <li>・ 二句を選んだ理由を発表し合い、選んだ時の視点を確認する。</li> <li>・ グループで前述の視点を参考にしながら、批評する際に着目したい俳句の構成や表現上の視点を考える。</li> <li>・ 考えた結果を出し合い、切れ字やリズム、言葉の使い方の工夫や面白さ、事物の捉え方の妙などが批評の対象となることを知る。</li> </ul>
2	<p>③言葉の使い分けや使い方に注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(1)〉</p>	ワークシート	<p>選んだ俳句二句について批評する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選んだ俳句について、季語・季節を確認し、辞書を用いながらおおよその意味を確認する。</li> <li>・ 前時で確認した批評の視点をを用いて、それぞれの句について批評をする。その際、なるべく多くの視点から多角的に批評することを心掛け、気付いたことをワークシートに書き出す。</li> </ul>
3	<p>②俳句二句を読み比べ、構成や表現の仕方について評価している。</p> <p>〈「読む能力」ウ〉</p> <p>①俳句を構成や表現の仕方の面から批評し、評価しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート 清書用紙	<p>二句を読み比べ、よいと考える俳句一句を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に書き出した内容とともに俳句を読み比べ、二句のうちよりよいと思う俳句一句を選ぶ。</li> <li>・ どのような点を評価して上記の一句を選んだのか、その理由をワークシートに書き出す。</li> <li>・ グループ内で、自分が選んだ俳句とその理由を発表し、交流する。</li> <li>・ 清書用紙に選んだ句とその理由を丁寧に書く。その際に交流した中で、新たに感じたよい点や他の人の意見で取り入れたいものを書き加えてもよい。</li> <li>・ 清書したものを教室内に掲示したり、印刷して配布したりするなど、多くの考え方に触れるような場の工夫を図る。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ③例えば、「平仮名の表記と漢字の表記では感じ方がどう違うか」のように、具体的な視点を伝え、考えが深まるようにする。〈イ(1)〉
- ②言葉の工夫なら言葉の工夫というように、同じ視点で読み比べてみるよう助言する。〈ウ〉
- ①句を選んだ理由が書けない生徒には、2時間目にワークシートに書き出した項目を箇条書きで羅列するだけでもよいことを伝える。〈国語への関心・意欲・態度〉

### (3) 郷土ゆかりの文学に関する参考資料

#### 【参考となる文献】

『フィールドワーク静岡の文学』	昭和 51 年	静岡県出版文化会
『静岡県の文学散歩 作家と名作の里めぐり』	昭和 52 年	岡田英雄 静岡新聞社
『三島文学散歩』	平成 3 年	中尾 勇 静岡新聞社
『万葉歌碑を歩く』	平成 5 年	高木桂蔵 静岡新聞社
『街が語った物語 文学で見る静岡』	平成 6 年	宮下拓三 静岡新聞社
『静岡県と作家たち』	平成 8 年	静岡近代文学研究会 静岡新聞社
『静岡県万葉の歌』	平成 10 年	高橋清隆 静岡新聞社
『文士たちの伊豆漂泊』	平成 10 年	鈴木邦彦 静岡新聞社
『しずおか詩歌の風景』	平成 11 年	杉山 学 静岡新聞社
『羽衣・竹取の説話』	平成 12 年	静岡総合研究機構 静岡新聞社
『東海道と文学』	平成 13 年	戸塚恵三 静岡新聞社
『静岡文学散歩』	平成 16 年	和久田雅之 羽衣出版
『新訂 静岡県文学読本』	平成 19 年	静岡県出版文化会

#### 【県内の文学館等】

起雲閣（熱海ゆかりの文人についての展示）	熱海市（熱海市HP参照）
双柿舎（坪内逍遙旧居）	熱海市（ ” ）
凌寒荘（佐々木信綱旧居）	熱海市（ ” ）
彩苑（杉本苑子旧居）	熱海市（ ” ）
伊東市立木下杢太郎記念館	伊東市（伊東市観光協会HP参照）
漱石庵（旧菊屋旅館別館，修善寺虹の郷内）	伊豆市（伊豆市観光協会HP参照）
伊豆近代文学博物館（昭和の森内）	伊豆市（ ” ）
伊豆市立湯ヶ島小学校（井上靖資料室）	伊豆市（HP参照）
井上靖文学館（クレマチスの丘内）	駿東郡長泉町（クレマチスの丘HP参照）
大岡信ことば館	三島市（HP参照）
沼津市芹沢光治良文学館	沼津市（HP参照）
沼津市若山牧水記念館	沼津市（HP参照）
樗牛館（観富山龍華寺内）	静岡市（観富山龍華寺HP参照）
中勘助文学記念館（杓子庵）	静岡市（静岡市HP参照）
焼津小泉八雲記念館	焼津市（焼津市HP参照）
藤枝市文学館	藤枝市（HP参照）
吉行淳之介文学館	掛川市（ねむの木学園HP参照）
浜松文芸館分館 木下恵介記念館	浜松市（浜松市HP参照）
浜松市立賀茂真淵記念館	浜松市（ ” ）
万葉の森公園	浜松市（浜松公園緑地協会HP参照）

※ HP(ホームページ)等の情報は平成 23 年 10 月現在のものです。参照の際は最新版を確認して下さい。

(4) 静岡県の子どもに紹介したい作品の例（郷土ゆかりの文学 資料）

【資料について】

- ・主として古典文学作品を採録した。近現代の作品については、前項の参考資料を参照する。
- ・登場する地名や作者・執筆場所が静岡に関わる作品・又は作品の一部分を、ジャンルごとに並べて掲載した。
- ・四角囲みは、作者・作品ごとの概要を記した。
- ・☆印で、その作品に関連のある静岡県の地域（伊豆・東部・中部・西部）を記した。
- ・作品中の仮名遣い・漢字のルビは出典のままだが、一部の旧字体は新字体に改めた。
- ・作品以外の旧字体は新字体に改めた。また、ルビは特に難解な読みや特殊な漢字に施した。

【資料作品一覧】

ジャンル		作品		作者		地区	
史書	古事記					中部	
物語	竹取物語					東部	
	伊勢物語					中部	
軍記物語	平家物語					東部	
	曾我物語					伊豆	
日記	十六夜日記			阿仏尼		西部	
滑稽本	東海道中膝栗毛			十返舎一九		中部	
紀行	野ざらし紀行			芭蕉		中・西部	
	万葉集（十四首）					伊・東・中・西部	
和歌	古今和歌集（二首）					東・西部	
	新古今和歌集（九首）					東・中・西部	
	金槐和歌集（六首）			源実朝		伊・東・中・西部	
俳諧	（二句）			松尾芭蕉		中・西部	
	歌集「海阪」			北原白秋		中・西部	
近代短歌	歌集「溪谷集」			若山牧水		東部	
	寒山落木			正岡子規		西部	
近代俳句	碧梧桐句集			河東碧梧桐		東部	
	六百句時代 他			高浜虚子		東部	

○史書

倭建命（ヤマトタケルノミコト）は日本神話における英雄であり、『古事記』『日本書紀』にその名が見られる。次に挙げたのは、静岡県の名「焼津」「草薙」の由来となったと言われる、ヤマトタケルが東国平定に向かう途中で苦戦を強いられた場面である。

かれしかして、相武の国に到りましし時に、その国の造、詐りて白ししく、「この野の中に大き沼あり。この沼の中に住める神、いと道速振る神ぞ」ここに、その神を看行はしにその野に入りましき。しかして、その国の造、火をその野に著けき。かれ、欺かれぬと知らして、姨倭比売の命の給ひし囊の口を解開きて見給へば、火打その裏にあり。ここに、先づその御刀もちて草を茹り撥ひ、その火打ちて火を打ち出でて、向火を著けて焼き退けて、還り出でてみなその国の造等を切り滅し、すなわち火を著けて焼きたまひき。かれ、今に、焼遣といふ。

☆中部地区

\*相武の国：現在の神奈川県、『日本書紀』には駿河の国とある。

焼遣：神奈川県厚木市小野。『日本書紀』では静岡県焼津市。

（『古事記』新潮日本古典集成）

【意味】

こうして、相武の国におつきになった時、その国造が、嘘をついて言うには、「この野の中に大きな沼があります。その沼に住んでいる神はたいへん荒々しい神です。」と。

そこで、ヤマトタケルはその神を御覧になり、その野にお入りになった。すると、国造は、（ヤマトタケルを焼き殺そうと）その野に火を放った。ヤマトタケルは、だまされたとお知りになって、叔母のヤマトヒメノミコトがくださった袋の口をあけて御覧になると、火打ち石がその中に入っていた。そこでヤマトタケルは、まず、持っていた草薙剣で周囲の草をなぎ払い、その火打ち石で火を打ち出して、向い火をつけて（国造がつけた）火を退けて、生還し、国造たちをすべて切り殺し、火をつけて焼いてしまいなさった。その場所を、今焼遣と言う。

○物語（作り物語）

『竹取物語』は日本最古の物語であり、『かぐや姫』の名称で広く親しまれている。ここでは、かぐや姫が月に帰った後、帝が天に一番近い山で不死の薬を焼いたという、富士山伝説の元となる場面を挙げる。

中将、人々引き具して帰り参りて、かぐや姫をえ戦い止めずなりぬること、細々と奏す。薬の壺に御文そへて参らす。拵げて御覧じて、いといたくあはれがらせ給ひて、ものもきこしめさず、御遊びなどもなかりけり。

大臣、上達部を召して、

「いづれの山か天に近き。」

と問はせ給ふに、ある人奏す、

「駿河の国にあるなる山なむ、この都も近く、天も近く侍る。」

と奏す。これを聞かせ給ひて、

逢ふこともなみだに浮かぶわが身には 死なぬ薬もなにかはせむ

かの奉る不死の薬、御文、壺具して、御使に賜はず。御使には、調石笠つきのいばきといふ人を召して、駿河の国にあんなる山の頂いただきに持て着くべきよし、仰せ給ふ。嶺みねにてすべきやう教へさせ給ふ。そのよし承りて、士つはものどもあまた具して、山へ登りけるよりなむ、その山を「富士の山」とは名づける。

その煙けがり、いまだ雲の中へ立ち昇るとぞ、言ひ伝へたる。

☆東部地区

(『竹取物語』新潮日本古典集成)

### 【意味】

頭中とうちゆうじょう将は家来たちを引き連れて帰り、かぐや姫を(天人と戦つて)引き止めることができなかつたことを、こと細かに帝に申し上げる。そして、(かぐや姫から預かつた)薬の壺にお手紙を添えて差し上げる。帝は(お手紙を)広げて御覧になつて、たいそうお悲しみになり、食事もされず、詩歌管弦のお遊びをすることなどもなかつた。

帝が、大臣や上達目をお呼びになり、

「どこの山が天に近いか。」

とお尋ねになると、ある者が申し上げるに

「駿河の国にあるという山が、この都にも近く、天にも近うございます。」と。これをお聞きになり、

かぐや姫と二度と会うこともないので、涙に浮かんでいるような我が身にとって、死なない薬が何の役にたちましようか、何の役にもたちません

かぐや姫が差し上げた不死の薬に、お手紙と壺を添えて、御使いにお渡しなさる。御使いには調石笠という人をお呼びになつて、駿河の国にあるという、山の頂上ついでいに持つて行くようお命じなさる。そして、山頂ですべきこと(不死の薬、手紙、壺を焼くこと)をお教えなさる。調石笠がことの次第をお引き受けて、兵士たちを多数引き連れて山に登つたことから、その山を「富士(士に富む)の山」と名付けたそうだ。

その煙は、今でも雲の中へ立ち昇つていると言ひ伝えられている。

\*富士山の名前の由来には、不死の薬を焼いた山「富士(不死)の山」という説もある。

### ○物語(歌物語)

『伊勢物語』は在原業平が主人公とされる歌物語である。和歌を中心に、業平の初冠ついでい(男子の成人式)から辞世を詠むまでの一代記となっている。次に挙げたのは、自らにふさわしい場所を求めて都を旅立ち、東国に赴く業平の静岡県での体験を描いた場面である。

ゆきゆきて駿河すらがの国にいたりぬ。宇津うつの山にいたりて、わが入らむとする道はいと暗う細きに、つたかへでは茂り、もの心ほそく、すずるなるめを見ることと思ふに、修行者すげやうせあひたり。「かかる道はいかにかいまする。」といふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、ふみ書きてつく。

駿河なる宇津の山辺のうつつにも 夢にも人に逢はぬなりけり

富士の山を見れば、五月ききのつごもりに、雪いとしろう降りり。

時しらぬ山は富士の嶺ね ひとつてか鹿かの子まだらに雪の降るらむ

その山は、ここにたとへば、比叡ひえの山を二十はたちばかり重ねあげたらむほどして、なりはしほじりのやうになむありける。

☆中部地区  
『伊勢物語』新潮日本古典集成

【意味】

旅をどんどん続けて、駿河の国について。宇津の山について、自分がこれから分け入ろうとする道はとても暗く細い上に、つたやかえでが茂り、何となく心細くて、思いがけなくつらい目にあうことだと思っていると、修行者が来合寄せた。

「このような道に、どうしていらっしやるのですか。」

と言うのを見ると、知っている人であった。都にいらっしやるあの方の所へと行って、手紙を書いて託す。

駿河にある宇津の山にいる私が、現実にあなたにお会いできないのはもちろんですが、でもお会いできないのは、あなたは私のことを思ってくださいたくないのですね

富士山をみると、五月の終わりなのに、雪がとても白く降りつもっている

季節を知らない山は富士山であるよ。今をいつだと思っているのか鹿の子まだらに雪が降り積もっていることよ

その山(富士山)はここ(京都)にたとえると、比叡山を二十くらい重ねあげたほどの高さで、形は塩尻のようであった。

\*塩尻：塩を取るため、海岸に砂を丸く高く積み上げたもの。

○軍記物語

『平家物語』は平家一門の栄華と没落を描いた軍記物語である。源頼朝挙兵の報を受けた平清盛は軍勢を東国に派遣し、両軍は富士川を挟んで対陣する。本文は富士川の合戦の場面である。

大將軍たいしようぐん権亮少將すけしょう維盛、東国の案内者として、長井の齋藤別当べつとう実盛を召して、「やや実盛、なんぢ程の強弓つよゆみ勢兵、八ヶ国にいかほどあるぞ」と問ひ給へば、齋藤別当あざわらつて申しけるは、「さ候へば君は実盛を大矢おほやとおぼしめし候か。わづかに十三束そくこそ仕り候へ。実盛射候者は、八ヶ国にいくらも候。大矢と申すぢやうの者の、十五束そくにおとつてひくは候はず。弓のつよさもしたたかなる者五六人してはり候。かかる精兵どもが射候へば、鎧よろひの二三両をもかさねてたやすう射とほし候なり。大名一人だいみやうと申すは、勢せいのすくないぢやう、五百騎におとるとは候はず。馬に乗つれば、おつる道を知らず。悪所あくしよをはすれども、馬を倒さず。いくさは又、親もうたれよ子もうたれよ、死ぬれば乗りこえたたかふ候。西国さいこくのいくさと申すは、親うたれぬれば孝養けうやうし、忌いみあけて寄せ、子うたれぬればその思おもひ歎なげきに寄せ候はず。兵糧米つきぬれば、春は田つくり、秋はかりをさめて寄せ、夏はあつしといひ、冬はさむしときらひ候。東国とうこくにはすべて其儀そのぎ候はず。甲斐かい、信濃しなのの源氏共、案内知つて候。富士のすそより、搦手にやまはり候らん。かう申せば君を臆せさせ参らせんとて申すには候はず。いくさは勢せいにはよらず、はかり事によるとこそ申しつたへて候へ。実盛今度のいくさに命いきて、ふたたび都へ参るべしとも覚え候はず」と申しければ、平家の兵つはものどもこれをきいて、みなふるひわななきあへり。

さる程に十月廿三日にもなりぬ。あすは源平富士河にて矢合とさだめたりけるに、夜に入つて平家の方より、源氏の陣を見わたせば、伊豆、駿河の人民百姓等がいくさにおそれて、或は野に入り山にかくれ、或は舟にとり乗つて、海河にうかび、いとなみの火の見えけるを、平家の兵ども、「あなたおびただしの源氏の陣の遠火のおほさよ。げにもまことに野も山も、海も河も、みなかたきでありけり。いかがせん」とぞあわてける。

その夜の夜半ばかり、富士の沼に、いくらもむれぬたりける水鳥どもが、なににかおどろきたりけん。ただ一度にばツと立ちける羽音の、大風いかづちななどの様にきこえければ、平家の兵ども、「すはや源氏の大勢の寄するは。斎藤別当が申しつる様に、さだめて搦手もまはるらん。とりこめられてはかなふまじ。ここをばひいて、尾張河洲俣をふせげや」とて、とる物もとりあへず、我さきにとぞ落ちゆきける。

☆東部地区  
『平家物語』小学館日本古典文学全集

### 【意味】

大將軍権亮少將維盛は、東国をよく知っている者として、長井の別当実盛を呼んで、「やあ実盛、お前くらいの強い弓を射る者は、八か国の中にどのくらいいるか」とお尋ねになると、斎藤別当があざ笑って申したことは、「とおっしゃいますと、あなたは実盛を大きい矢を使う者と思っていらいらっしゃるのですか。私はたつた十三束の矢を使っているだけです。実盛ほどに射ることができます者は、関東八か国にいくらでもおります。大弓の使い手と言われるほどの者で、十五束に満たぬ矢を引く者はございません。弓の強さも屈強の者が五、六人がかりで張るほどです。このような強弓使いが射ます時は、鎧を二、三領も重ねて簡単に射通します。また、大名一人と言いますなら、軍勢が少なくとしても、五百騎以下のことはありません。馬に乗ったなら、落ちることなどない。道の悪い所を走っても、馬を倒したりしない。合戦ではまた、親が討たれようが子が討たれようが、誰かが死ねば、その屍を乗り越え、乗り越えて戦うのです。西国の合戦というと、親が討たれてしまうと供養をし、忌中の期間が過ぎてから押し寄せ、子が討たれてしまうと、その悲嘆のため寄せるのをやめます。兵糧米がなくなると、春に田を作って、秋に収穫してから寄せ、夏は暑いといい、冬は寒いといつて嫌います。東国では全くそのようなことはありません。甲斐、信濃の源氏共が、土地の事情をよく知っています。富士の裾から、背面にまわりましょう。このように申しますと、あなたをおびえさせ申し上げようとしているようですが、そう思つて申すのではありません。合戦は軍勢で決まるのではなく、はかりごとで決まると言い伝えていきます。実盛は今度の合戦で生き延びて、もう一度都へ参れようとも思つておりません」と申したので、平家の兵たちはこれを聞いて、皆ふるえておのきあつた。

そのうちに十月二十三日となつた。明日は源氏と平氏が富士川で矢合わせをするので決めたのだが、夜になつて平家の方から、源氏の陣を見わたすと、伊豆、駿河の人民百姓たちが、合戦を恐れて、ある者は野へ逃げ山に隠れ、ある者は船に乗つて、海・川に浮かんで、煮炊きする火が見えたのを、平家の兵たちは、「ああ、たいへんな数の源氏の陣の遠火の多さよ。なるほど本当に野も山も、海も川も、皆敵でいっぱいであることよ。どうしようか」とあわてた。

その夜の夜半頃に、富士の沼に、たくさん群がっていた水鳥どもが、何に驚いたのであるうか。ただ一時にばツと飛び立った羽音が、大風か雷のように聞こえたので、平家の兵士たちは「そら、源氏の大群がおしよせてきたぞ。斎藤別当が申したように、きつと背後にもまわつていよう。取り囲まれてはかなうまい。ここを退去して、尾張川洲俣を防げ」といつて、とる物もとりあえず、我先にと落ちて行つた。

『曾我物語』は源頼朝の富士の巻狩りの際に、曾我十郎祐成・五郎時致兄弟が、父の敵工藤祐経を討った仇討ち物語。本文は、兄弟が三島大明神に仇討ち成就を祈念する場面である。

駒を速めて行くほどに、伊豆の国府に着きぬ。明神の御前にて笠懸七番つ射奉りて、御拝殿に並み居て祈請しける。「仰ぎて願はくは、大明神、思ふ敵を討たせ賜べ。伏して乞ふ、王子・眷属、祐経が首を我らが手に懸けさせ給へ。今日、出でて後、二度、山より東へ返し給ふな」と心胆を碎きて祈りける。十郎、

千早振る神の斎垣に露かけて祈る心に月を宿さん

五郎、念珠押し揉みて、

千早振る神風早く音冴えて嘆く闇路の雲を晴らさん

☆伊豆地区  
〔曾我物語〕小学館新編日本古典文学全集〕

### 【意味】

馬の足を速めて行くうちに、伊豆の国府に着いた。三島明神の御前で笠懸を七番ずつ奉納して、御拝殿に並んで座って祈願した。「お願い申し上げますことには、大明神よ、狙う敵を討たせてください。平伏してお願いします。王子神、眷属神、祐経の首を我らの手に掛けさせてください。今日、出発してから、二度と箱根の山から東にお帰しになるな」と心を込めて祈った。十郎は、

三島明神の神域を囲む垣根に露のように涙を流して祈る心に応えて、明神は願いを叶えてくれるでしょう

\* 「千早振る」は「神」を導く枕詞

五郎は、数珠を強く揉んで、

神風は早くも澄んだ音を立てて吹き渡り、嘆きに沈む心の闇路の雲を吹き払ってくれるでしょう

### ○日記(紀行)

『十六夜日記』の作者阿仏尼は、正妻の子と我が子との間に起きた相続争いの訴訟のため、鎌倉へ旅をした。次に挙げるのは、その道中に浜松の地を訪れた場面である。浜松は阿仏尼が少女時代を過ごした土地でもある。現在でも使われている地名が見受けられる。

今夜は、引馬の宿にとどまる。この所の大方の名は浜松とぞ言ひし。親しと言ひしばかりの人々なども住む所なり。住み来し人の面影も、さまざま思い出でられて、又めぐりあひて見つる命の程も返す返すあはれなり。

浜松のかはらぬ陰を尋ね来て 見し人なみに昔をぞとふ

その世の見し人の子、孫など、呼び出でてあひしらふ。



廿三日、天中の渡りといふ。舟に乗るに、西行が昔も思ひ出でられて心細し。組み合わせたる舟ただ一つにて、多くの人の往来に、さしかへる、ひまもなし。

水の泡のうき世を渡る程を見よ 早瀬の瀬々に棹も休めず

今夜は遠江、見附の国府という所にとどまる。里荒れて物恐ろし。傍らに水の江あり。

誰か来て見附の里と聞くからに いとど旅寝ぞ空恐ろしき

☆ 西部地区  
（『中世日記紀行集』小学館日本古典文学全集）

### 【意味】

今夜は、引馬の宿という所に泊まる。このあたり一帯の名を浜松と言った。親しいというのも名ばかりの人々が住む所である。この地に住んでいた人の面影も、色々と思い出されて、（昔住んでいた土地を）再び目にした自分の命のことなども、本当にしみじみと思われる。浜松の昔と変わらない面影を尋ねてきて、昔会った人はもういないので波に昔のことを尋ねることだ。

\* 「浜松」に「浜辺の松」を、「なみに」に「無みに」と「波に」を掛けている。

昔、会った人の子ども、孫などを宿へ呼び寄せて相手をした。

二十三日、天中の渡りという。その渡し場で舟に乗ると、西行の昔のこと（西行がこの渡し場でひどい目にあつたこと）が思い出されて心細い。木を組み合わせた舟がたった一そうあるだけで、多くの人が行き来するので、棹をさしかえて舟を出すひまもない。

水の泡のようにはないこの世を渡る人の様子を見なさい。まるでこの急流に棹を休める暇がないのと同じようだ（たいそうせわしないことよ）

今夜は遠江、見附の国府という所に泊まる。この村は荒れていて薄気味悪い。そばには沼もある。

誰かが来て見つけるといふ名前と聞いただけで、ますます旅寝が恐ろしいことよ

\* 「見附」に「見つける」を掛けている。

### ○滑稽本

『東海道中膝栗毛』は、主人公の弥次郎兵衛と喜多人が数々の失敗をしながら、東海道を旅する道中記。次に挙げるのは、岡部の宿での一場面であり、嶋田、藤枝といった地名も見受けられる。作者の十返舎一九は駿河の国（現在の静岡）に生まれた。

それより宇津の山にさしかゝりたるに、雨は次第に篠を乱し、蔦のほそ道心ぼそくも、杖をちからに十團子の茶屋のちかくになりて、弥次郎おもはず、さかみちにすべりころびければ

降りしきる雨やあられの十だんごころびて腰をうつ山のみち

おかげのしゆくへ 「おとまりでございますか 弥二「イヤわつちらアけふ、川をこさにやアならねへやど引「大井川はとまりました 北八「なむさん、川がつかへやしたか やど引「さやうでございますます。さきへお出なさつても、お大名が五ツかしら、嶋田と藤枝におとまりでございますから、あなた方のおやどはござりませぬ。先岡部へおとまりなさいませ 弥二「そんなら、そふしよふか 北八「おめへなにやだ やど引「相良屋と申ます。すぐにお供いたしませう

打つれていそぎゆくほとに、はやくも大寺かわらのさ  
トか道をうちこへて、おかべのしゆくにいたりければ

豆腐なるおかべの宿につきてげりあしに出来たる豆をつぶして

先この駅にやどをとりて、川のあくまで  
しばらくたびのつかれをぞやすめける

☆中部地区  
（『東海道中膝栗毛』 岩波日本古典文学大系）

【意味】

そこから宇津の山にさしかかったころ、雨はだんだん強くなつて、笹の葉を乱すほどになつた。鶯の細道は心細いけれども、杖に力を借りてようやく十団子の茶屋の近くになつた所で、弥次郎は思わず、坂道ですべてころんでしまった。

雨あられと降りしきるまるで十団子のような雨のせい、思わずころんで腰を打つてしまった宇津の山道であるよ

\*十団子：宇津の山の名物。小豆ほどの大きさの団子を十個を一連につなげてある。  
「腰を打つ」に「宇津の山」を掛けている。

岡部の宿では宿引きが待ち受けていて「お泊りでいらつしやいますか」と言うのに、弥二が「いやあ、おれらは今日、川を越さなきゃならないんだ」と答えると、宿引きは「大井川は川止めになりましたよ」と言う。北八が「なんてことだ、川が渡れませんか」と聞くと、宿引きは「そうなんでございませぬ。もしこの先いらつしやつても、大名が五人（行列を連れ）嶋田と藤枝にお泊りですから、あなた方のお宿はございませぬよ。ともかく岡部にお泊りなさいませ」と答える。弥二が「そんなら、そうしようか」と言うので、北八が「おまえは何という店だ」とたずねると「相良屋と申します。すぐにお供いたしましたよ」と宿引きは言う。急いで歩いて行くと、早くも大きな寺の瓦が見える坂道を越えて、岡部の宿に到着したので、

豆腐という名の（岡部の）宿によく着いたことよ。足にできた、豆をつぶしながら。

\*「おかべ」は豆腐の女ことば。

豆腐を作るための「豆をつぶす」に足にできた「豆をつぶす」を掛ける。

ともかくこの宿場に宿をとつて、川止めが終わるまでしばらく旅の疲れを休めたことだ。

○紀行

『野ざらし紀行』は、松尾芭蕉が江戸を立つて東海道を上り、郷里伊賀や近畿諸国を巡つて江戸に帰るまでの紀行。本文は、雨降る中の大井川を越え、馬に揺られつつ未明に到着した小夜の中  
山が描かれた箇所である。

大井川越る日は、終日、雨振ければ、

秋の日の雨江戸に指おらん大井川 ちり

馬上吟

道のべの木樞は馬にくはれけり

二十日余の月、かすかに見えて、山の根際いとくらきに、馬上に鞭をたれて、数里いまだ鶏鳴  
ならず。杜牧が早行の残夢、小夜の中山に至りて忽驚く。

馬に寝て残夢月遠し茶のけぶり

☆中部・西部地区  
（『松尾芭蕉集』小学館日本古典文学全集）

【意味】

大井川を越える日は、一日、雨が降っていたので、

この秋の雨つづきに、江戸では指折り数えて、今日あたりは大井川の川越しの日だとう  
わさしあっていることだろう。 ちり

馬の上で詠んだ句

道ばたにむくげが咲いている。自分の乗った馬は、その花をひよいと食べてしまった。  
二十日過ぎの欠け始めた月が、未明の空にかすかに見えるが、山の麓のあたりは大層暗  
い中を、馬上に鞭を垂れたまま、馬の歩むにまかせて山路を数里たどったが、いまだ暁を  
告げる鶏の声も聞こえない。杜牧が「早行」という詩の中で言う、名残の夢心地で行くう  
ちに、小夜の中山に到着して、はっと目が覚めた。

馬上にうとうとと名残の夢を見続けて行くうちに、ふと気づくと、月は遠く山のはるか  
かなたにかかって、家々からは茶の香のする煙が立ち上っていることよ

○和歌

『万葉集』は奈良時代中期から後期に成立した日本最古にして最大の全二十巻からなる歌集であ  
る。天皇から庶民に至る様々階層の人々が読んだ歌を大伴家持がまとめたといわれている。歌体  
も長歌・短歌・旋頭歌・仏足石歌体など様々である。

やまへのすくねあかひと 山部宿祢赤人、富士山を望める歌一首と短歌

天地の 分れし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる 布士の高嶺を 天の原 振りさけ見れ  
ば 渡る日の 影も隠ひ 照る月の 光も見えず 白雲も 行きはばかり 時じくぞ 雪は  
降りける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 不尽の高嶺は (巻三、三一七)

反歌

田子の浦ゆ うち出でて見れば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける (巻三、三二八)

☆東部

【意味】

山部赤人が富士山を望んで詠んだ歌一首と短歌

天地が分かれた世界のはじめから、神々しく高く貴い駿河にある富士の高い峰を、広々と  
した大空はるかに振り仰いで見ると、(富士山があるために)空を渡る日の光も見えなくな  
り、白雲も行きかねて、時節に関係なく雪が降っている。語り継ぎ、言い継いでいこう。富  
士の高い峰のことを。

反歌

田子の浦を通って出てみると、はるか遠くに、真っ白に富士の高い峰に雪が降っているこ  
とだ。

\*反歌：長歌の後に詠み添えて、長歌の意を反復・補足・要約する短歌

焼津<sup>やきつ</sup>辺に 我<sup>わが</sup>が行<sup>い</sup>きしかば 駿河<sup>しゅんが</sup>なる 阿倍<sup>あへ</sup>の市道<sup>いちぢ</sup>に逢<sup>あ</sup>ひし児<sup>こ</sup>らはも

春<sup>かすがの</sup>日<sup>くちら</sup>蔵<sup>びと</sup>首<sup>おめ</sup>老  
☆中部 (卷三、二八四)

【意味】

焼津のあたりを歩いた時、駿河にある安倍の市への道で出会った娘よ。

(岩波書店『日本古典文学大系4』「萬万葉集一」)

天<sup>あま</sup>の原<sup>はら</sup> 富士<sup>ふじ</sup>の柴<sup>しば</sup>山<sup>やま</sup> 木<sup>こ</sup>の暗<sup>くら</sup>の 時<sup>とき</sup>移<sup>うつ</sup>りなば 逢<sup>あ</sup>はずかもあらむ

☆東部 (卷十四、三三五五)

【意味】

富士山の柴の生えた山の、木陰の暗がりに今日の夕方の約束の時間が過ぎて行ったら、二度と逢うことができないだろうな。

\*木の暗：「この夕暮れ」と「木陰の暗がり」を掛けている。

駿河國の歌

駿河<sup>しゅんが</sup>の海<sup>うみ</sup> 磯<sup>いそ</sup>邊<sup>へ</sup>に生<sup>お</sup>ふる 濱<sup>はま</sup>つづら 汝<sup>な</sup>をたのみ 母<sup>はは</sup>に違<sup>たが</sup>ひぬ

☆東部 (卷十四、三三五九)

【意味】

駿河の海の浜辺に生えているつる草のように長い間、あなたをたのみにしてわたしは母と仲違いをしてしまいました。

相模國の歌

足柄<sup>あしがら</sup>の 箱根<sup>あそ</sup>の山<sup>やま</sup>に 粟<sup>あわ</sup>蒔<sup>ま</sup>きて 實<sup>み</sup>とはなれるを 逢<sup>あ</sup>はなくもあやし

☆東部 (卷十四、三三六四)

【意味】

足柄の箱根の山に粟を蒔いて実ったように、わたしの恋は成就したのに、今日会えないのはおかしいことだ。

遠江國の歌

遠江<sup>とほつあふみ</sup> 引佐<sup>いなさ</sup>細江<sup>ほそえ</sup>の 濤<sup>みおつし</sup>標<sup>しるし</sup> 吾<sup>われ</sup>を頼<sup>たの</sup>めて あさましものを

☆西部 (卷十四、三四一九)

【意味】

遠江の引佐細江の濤標のように頼みにさせておきながら、(本当は浅い心であったのに)。

\*遠江：滋賀県の琵琶湖を近い淡海(近江)というのに対して、静岡県の浜名湖を遠い

淡海(遠江)といった。

\*濤標：通行する船に、通りやすい深い水脈を知らせるために立てた杭。

駿河國の歌

志太<sup>しだ</sup>の浦<sup>うら</sup>を 朝漕<sup>あさこ</sup>ぐ船<sup>ふね</sup>は 因<sup>よし</sup>無しに 漕<sup>こ</sup>ぐらめかもよ 因<sup>よし</sup>こさるらめ

☆中部 (卷十四、三四三〇)

【意味】

志太の浦を朝漕いでいる船は、わけもなしに漕いでいるのだろうか。そんなことはあるまい。わけがあるだろうに。

\*志太の浦：静岡県志太郡。駿河国西端。

(岩波書店『日本古典文学大系6』「萬万葉集三」)

わが妻は いたく恋ひらし 飲む水に 影さへ見えて 世に忘れず

主張丁龜玉郡の若倭部身磨  
（卷二十、四三二二）  
☆西部

【意味】

わたしの妻は、わたしのことをたいそう恋しく思っているらしい。飲むうとした水に妻の姿までも見えて、少しも忘れられない。

\*主張丁龜玉郡の若倭部身磨：遠江国龜玉郡（浜北あたり）の防人。主張丁とは、郡の帳簿の記録をする役人に使われるために徴用された男性のこと。

父母も 花にもがもや 草枕 旅は行くとも 捧ごて行かむ

佐野郡の丈部黒当  
（卷二十、四三二五）  
☆西部

【意味】

父母も花だったらなあ。防人として筑紫へ行くときにも、捧げもって行くのに。

\*佐野郡の丈部黒当：遠江国佐野郡（掛川市北部）の防人。

長下郡の物部古磨  
（卷二十、四三二七）  
☆西部

わが妻も 繪に描きとらむ 暇もが 旅行く吾は 見つっしのはむ

【意味】

私の妻を絵に描き取る暇がほしい。旅に行く私はそれを見て思い慕おうものを。

\*長下郡の物部：今の浜松市・磐田市あたりの防人の輸送をつかさどる役。

防人の 堀江漕ぎ出る 伊豆手舟 楫取る間なく 戀は繁けむ

大伴宿禰家持  
（卷二十、四三二六）  
☆伊豆

【意味】

防人が難波の堀江を漕ぎ出て行く伊豆手舟の櫓を漕ぐ間の休みないように、いつも故郷への恋しさは止むときがないことであろう。

\*伊豆手舟：伊豆で作った舟。

水鳥の 発ちの急ぎに 父母に 物言ず来にて 今ぞ悔しき

上丁有度部牛磨  
（卷二十、四三三七）  
☆中部

【意味】

水鳥が飛び立つ時のようにあわただしく出発してしまい、父や母にきちんとした挨拶もせずに来てしまったことが、今になって悔やまれるよ

\*上丁有度部牛磨：駿河の国の防人（防人とは東国から九州北部の警護に当たった兵士のこと）。

父母が 頭かき撫で 幸くあれて いひし言葉ぜ 忘れかねつる

(卷二十、四三四六)

☆中部

【意味】

父や母が、私の頭をかき撫でて無事でいるようにといった言葉が忘れられない。

\*あれて・言葉(けとば)：方言「あれと」「ことば」。

(岩波書店『日本古典文学大系7』「萬葉集四」)

『古今和歌集』は平安時代前期に成立した最初の勅撰集である。天皇に命じられた四人の選者が、万葉集から後の一四〇年間の名歌を集め、約一一〇〇首、全二十巻にまとめた。巻一から順に「春」「夏」：「離別」「恋」など主題別の構成になっており、技巧を用いた理知的で繊細な歌風が特色である。

読人しらず  
よみびと

駿河なる 田子の浦浪 たゝぬ日は あれども君を 恋ひぬ日はなし (卷十一、恋一、四八九)

☆東部

【意味】

駿河にある田子の浦に波が立たない日はありますが、あなたを恋しく思わない日はありません。

\*田子の浦：古来、東海道屈指の景勝地。古くは富士川西岸、蒲原・由比・興津の海岸。

\*読人しらず：歌集で作者が不明の場合に記載する語。作者を明らかにしにくい事情のある場合にも用いた。

紀友則  
きのともり

あづま路の 小夜の中山 なかくくに 何しか人を 思そめけむ (卷十二、恋二、五九四)

☆西部

【意味】

東国への道にある小夜の中山まで来たら、なぜかかえってあの人を恋しく想うようになってしまった。

\*紀友則：『古今和歌集』の選者の一人で三十六歌仙の一人。

\*小夜の中山：静岡県掛川市の日坂峠と島田市金谷との間にある東海道の坂道。曲折し、左右に深い谷がある。第二句目までが「なかなか」を導き出す序詞になっている。

(岩波書店『新 日本古典文学大系5』「古今和歌集」)

『新古今和歌集』は鎌倉時代初期に成立した。天皇に命じられて藤原定家ら六人が選者となり、千九百八十首を二十巻にまとめた。余情を重んじ、非現実の美を求める歌風で、本歌取り、掛詞、体言止めなど修辭を複雑に用いた技巧的な表現が多く見られる。

越前

沖つ風 夜寒になれや 田子の浦の 海人の藻塩火 たきまさるらん（巻十七、雑中、一六一〇）

☆東部

【意味】

沖を吹く風が、秋になって寒く感じられるようになっただろうよ。田子の浦の漁師の焚く藻塩火は今ごろ一層あかあかともえさかっているだろう。

\*越前：後鳥羽院の皇女である嘉陽門院に仕えた。

\*藻塩火：海草からとる塩。海藻に海水をかけて塩分を含ませ、これを焼いて水に溶かし、煮詰めてつくる。その海藻を焼くときの火。

藤原家隆

富士のねの 煙もなほぞ 立ちのぼる 上なきものは 思ひなりけり（巻十二、恋二、一一三二）

☆東部

【意味】

富士山の頂上には煙が依然として立ちのぼっている。際限なく立ちのぼるのはわたしの燃える思いなのだろうよ。

\*「思ひ」の「ひ」には「火」がかけられている。

藤原定家朝臣

事とへよ 思ひおきつの 濱ちどり なくく出でし 跡の月かげ （巻十、羈旅、九三二四）

☆中部

【意味】

浜千鳥の鳴く浜辺で、後に残った人は、月に尋ねておくれ。思いを残しながら泣く泣く都を出てきた私のことを。

\*濱ちどり：この句で、前の一句・二句と後の三句・四句を結び付けている。

藤原雅經

ふる郷の けふの面影 さそひこと 月にぞ契る さよの中山 （巻十、羈旅、九四〇）

☆西部

【意味】

故郷の今日の月の様子を、誘うようにしてここで見せておくれと、月に頼んだよ。小夜の中山で。

有家業清

岩がねの 床に嵐をかたしきて ひとりやねなん さ夜の中山 （巻十、羈旅、九六二二）

☆西部

【意味】

旅に出て岩を床にして、激しい山風の中に袖を片敷いて寝るのだろうか、小夜の中山で。

\*かたしきて：昔は衣を敷いてねたことから、片方の袖だけ敷くのは、一人きりで寝るということの意味する。

故郷に 聞きし嵐の 聲もにず 忘れね人を さやの中やま

(卷十、羈旅、九五四)

☆西部

【意味】

旅に出て聞く山風の音は、都で聞いたのには似ても似つかないくらい寂しさを感じさせる。このように都も遠ざかったのだから、都のあの人のことなど忘れてしまえ。そう思ってもなかなか忘れられないものだ。

家隆朝臣

旅ねする 夢ちはゆるせ うつの山 關とはきかず もる人もなし

(卷十、羈旅、九八一)

☆中部

【意味】

旅寝の夢の中に通ってくる人は許しておくれ。宇津の山よ。ここには関があるとも聞かず、その上また、見張り番をする人もいないのだから。

\*『伊勢物語』の東下りの段にある「駿河なる うつの山辺の うつつにも 夢にも人に逢はぬなりけり」が本歌。「うつつ」には地名の「宇津」と現実を意味する「うつつ(現)」が掛けられている。

定家朝臣

都にも いまや衣を うつの山 夕霜はらふ つたのした道

(卷十、羈旅、九八二)

☆中部

【意味】

都では今時分、冬の到来に備えて砧で衣を打っているだろう。わたしはこの宇津の山辺で夕方降りた霜を払いながら蔦の下道を歩いているよ。

\*「衣をうつ」はつやを出したり、柔らかくするために布を砧で打つこと。冬着の準備で秋の夜長の仕事として行う。「うつつ」には「宇津谷峠」の「宇津」と「衣を打つ」の「打つ」がかけられている。

\*「つたのした道」は「蔦の細道」とも言い、静岡市丸子から宇津谷峠に通ずる国道の南方にある小道。

西行法師

年たけて 又こゆべしと 思ひきや いのちなりけり さ夜の中山

(卷十、羈旅、九八七)

☆西部

【意味】

年老いてからまた、この小夜の中山を越えることになるだろうと思ったであろうか。思わなかったことよ。再び越えているのも命あつて生きていたからである。

(岩波書店『日本古典文学大系28』「新古今和歌集」)



『金槐和歌集』は鎌倉初期、源実朝の歌を集めた歌集で、鎌倉右大臣歌集とも呼ばれている。実朝二十二歳までの歌集で、歌数は六六三首。所収歌の九割が古今調・新古今調の本歌取りを主とした歌であるが、男性的な万葉調の和歌に優れている。

見わたせば 雲井はるかに 雪しろし 富士の高根の あげぼのの空

☆東部

【意味】

はるか遠くを眺めると、雲のある空に雪が白く見える。夜が明けようとするころの富士の峰の美しさだよ。

富士のねの 煙も空に 立つものを などか思ひの 下にもゆらむ

☆東部

【意味】

富士の煙は空に向かって立ちのぼってゆくのに、どうして、同じ「火」という名のつく「思ひ」は上に上らず、心の下に燃えるのであろうか。

\*「思ひ」の「ひ」には「火」がかけられている。

田子の浦の 荒磯の玉藻 波の上に うきてたゆたふ 戀もする哉

☆東部

【意味】

田子の浦の波が荒く打ち寄せる海岸の美しい藻が、波の上に浮いてただようような、はない恋をしているよ。

東路の さやの中山 こえて往なば いとゞ都や 遠ざかりなむ

☆西部

【意味】

東国に至る道すじにある小夜の中山を越えていくと、いよいよ都は遠ざかってしまふであろう。

箱根路を わが越えくれば伊豆の海や沖の小島に波のよるみゆ

☆伊豆

【意味】

箱根への道を越えてくると、伊豆の海の沖の小島に波が寄せ来るのが見えるよ。

\*沖の小島：伊豆の初島。

都人に 夢にもゆかむ 便あらば 宇津の山風 吹もつたへよ

☆中部

【意味】

都に向けて、夢にでも行きたい。ついであるならば、宇津の山風よ、吹いて伝えておくれ。

\*「都人に」…これは「都へに」として解釈する。

\*「するがなる 宇津の山風の うつつにも 夢にも人に あはぬなりけり」が本歌。

(岩波書店『日本古典文学大系29』「山家集 金槐和歌集」)

○俳諧

連歌から独立した俳諧は、やがて松尾芭蕉によって芸術の分野にまで高められた。ここでは旅の道中県内で詠んだ句を挙げてある。

芭蕉

五月雨の 空吹きおとせ 大井川

☆中部

【意味】

島田の宿で大井川を渡ろうとしているが、五月雨の日が続きななか渡ることができない。大井川よ、いつそのことその勢いのある流れでこの暗い雨雲の空を吹き落とし、押し流しておくれ。

小夜中山にて

命なり わずかの笠の 下涼ミ

☆西部

【意味】

日差しの強い暑さの旅の途中、頭にかぶったわずかな笠の下の陰を、命と頼んで涼むことだ。

\*「命なり」：西行の「年たけて 又こゆべしと 思ひきや いのちなりけり さ夜の

☆中部

駿河路や 花橋も 茶の匂ひ

【意味】

駿河路を行く季節は今花橋の香る初夏だが、ここでは茶の香りがさらにかぐわしいよ  
(岩波書店『日本古典文学大系45』「芭蕉句集」)

○短歌

北原白秋は福岡県出身の詩人、歌人。「ちやつきり節」の作詞者であり、静岡県で多くの短歌、民謡を作った。歌碑も多い。

歌集「海阪」

北原白秋

不二大観

雪しろくいとど晴れたれ御殿場の真上の不二は低く厚く見ゆ

☆東部

浜名の鴨

遠つあふみ浜名のみ湖冬ちかし真鴨翔れり北の昏きに

☆西部

(岩波書店『岩波文庫 北原白秋歌集』)

若山牧水は宮崎県出身の歌人。大正九年から亡くなるまで沼津に住んだ。伊豆の温暖な気候と温泉を愛し、幾度となく訪れて多くの短歌を作り、紀行・随筆を書いた。東部地区には歌碑も多い。

歌集「溪谷集」

若山牧水

伊豆の春

一月元旦加藤東籬君と共に駿河河津なる加納川の川口に宿る。

とほく来て寝ぬるこの宿静けくて夜のふけゆけば川の音きこゆ

土肥より汽船にて沼津へ渡らむとし、戸田の港口にて富士を見る

伊豆の国戸田の入江を船出すとはしなく見たれ富士の高嶺を

(筑摩書房『現代短歌全集 第四巻』) ☆伊豆

○俳句

正岡子規は愛媛県出身の俳人、歌人。俳句・短歌の革新運動を進めた。舞阪町弁天島に句碑がある。

寒山落木

正岡子規

明治二十二年

袋井

冬枯の中に家居や村一つ

明治二十八年 秋 天の川

天の川浜名の橋の十文字

(講談社『子規全集第一巻、第三巻』) ☆西部

河東碧梧桐は愛媛県出身の俳人。高浜虚子と共に子規門の双壁と称された。新傾向俳句運動を展開した。

碧梧桐句集

河東碧梧桐

冬 時候

伊豆の海や大島寒く横たはる

冬 植物

この道の富士になり行く芒すすきかな

(河出書房新社『現代俳句集成第二巻』)

☆東部

たかはまきよし  
高浜虚子は愛媛県出身の俳人。修善寺に知人の営む宿があり、しばしば訪れていた。富士宮市、伊豆の国市、伊東市に句碑がある。

六百句時代

高浜虚子

昭和十六年

三月二十四日。修善寺新井屋主人、相原沐芳あらいとよの需もとにあじて、その梅林に建てたる句碑  
北に富士南に我が家梅の花

七百五十句

白糸の瀧の陰晴常ならず

☆東部

(毎日新聞社『定本 高浜虚子全集 第二巻、第四巻』※原文の旧字体は新字体に改めた。)

## 7 高等学校学習指導要領抜粋

### 第2章 各学科に共通する各教科

#### 第1節 国語

##### 第1款 目 標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

##### 第2款 各 科 目

#### 第1 国語総合

##### 1 目 標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

##### 2 内 容

###### A 話すこと・聞くこと

(1) 次の事項について指導する。

ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。

イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。

ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。

イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。

ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。

###### B 書くこと

(1) 次の事項について指導する。

ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。

イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。

ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。

エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。
- イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。
- ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。

### C 読むこと

#### (1) 次の事項について指導する。

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
- オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

#### (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取舍選択してまとめること。
- ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。
- エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

#### [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

#### (1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

##### ア 伝統的な言語文化に関する事項

- (ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。
- (イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

##### イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

- (ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。
- (イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。

##### ウ 漢字に関する事項

- (ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。

### 3 内容の取扱い

#### (1) 総合的な言語能力を養うため、内容のA、B、C及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について相互に密接な関連を図り、効果的に指導するようにする。

#### (2) 内容のAに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 話すこと・聞くことを主とする指導には15～25単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。
- イ 口語のきまり、言葉遣い、敬語の用法などについて、必要に応じて扱うこと。

#### (3) 内容のBに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 書くことを主とする指導には30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

- (4) 内容のCに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。
- ア 古典を教材とした授業時数と近代以降の文章を教材とした授業時数との割合は、おおむね同等とすることを目安として、生徒の実態に応じて適切に定めること。なお、古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにすること。
  - イ 文章を読み深めるため、音読、朗読、暗唱などを取り入れること。
  - ウ 自分の読書生活を振り返り、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うこと。
- (5) 内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次の事項に配慮するものとする。
- ア 中学校の指導の上に立って、内容のA、B及びCの指導の中で深めること。
  - イ (1)のアの(イ)については、読むことの指導に即して行うこと。
- (6) 教材については、次の事項に留意するものとする。
- ア 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと的能力、読むこと的能力などを偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、内容のA、B及びCのそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
  - イ 古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。また、古典に関連する近代以降の文章を含めること。
  - ウ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。
    - (ア) 言語文化に対する関心や理解を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
    - (イ) 日常の言葉遣いなど言語生活に関心を持ち、伝え合う力を高めるのに役立つこと。
    - (ウ) 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨くのに役立つこと。
    - (エ) 情報を活用して、公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。
    - (オ) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。
    - (カ) 生活や人生について考えを深め、人間性を豊かにし、たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。
    - (キ) 人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つこと。
    - (ク) 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
    - (ケ) 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚を持ち、国際協調の精神を高めるのに役立つこと。

### 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、「国語表現」、「現代文A」、「現代文B」、「古典A」及び「古典B」の各科目については、原則として、「国語総合」を履修した後に履修させるものとする。
- 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 略
  - (2) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図ることなどを通して、読書意欲を喚起し幅広く読書する態度を育成するとともに、情報を適切に用いて、思考し、表現する能力を高めるようにすること。
  - (3) 音声言語や画像による教材、コンピュータや情報通信ネットワークなども適切に活用し、学習の効果を高めるようにすること。

8 年間指導計画(領域別) ワークシート

月	教材名	領域別時数			指導事項				言語活動例						ア伝統的な言語文化		イ言葉の特徴やきまり							ウ文字			書写				
		A	B	C	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	他	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ア)	(イ)	(ウ)	ア	イ
「話すこと・聞くこと」合計時数																															
「書くこと」合計時数																															





年間指導計画(月別) ワークシート

月	教材名	領域別時数			指導事項					言語活動例					ア伝統的な言語文化		イ言葉の特徴やきまり							ウ文字			ウ書写																	
		A	B	C	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	他	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ア)	(イ)	(ウ)	ア	イ	ウ												



要素 力	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (国語科の内容に関わる授業づくりの力)
学習者の実態把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の発達の段階を踏まえた上で、生活体験や学習の経験は学習者によって異なることを意識している。</li> <li>・学習の方法や理解の仕方は学習者によって異なることを意識している。</li> <li>・学習者の性格や学習に対する意欲等を把握している。</li> <li>・学習集団の特質や、個と集団の関わりを把握している。</li> <li>・個々の学習者に対して、指導上配慮すべき事項を把握している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年または各科目(高)の既習事項の習得状況等、学習者の理解度を把握している。</li> <li>・学習者がすでに体験した言語活動を把握している。</li> <li>・国語に関する学習者の興味・関心、意欲等を把握している。</li> </ul>
教科内容に関する知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領から、当該学年における各領域の指導事項や言語活動例を10年間(小・低～高・国語総合)の系統性の中で把握している。</li> <li>・指導事項に即して教材の特長を捉えている。</li> <li>・学年別漢字配当表・新常用漢字表を理解し、各学年において対応している。</li> <li>・教科内容に関する知識や、探究するための態度・技能を持っている。</li> </ul>
目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習は、学習者自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。</li> <li>・学校の教育目標や課題を踏まえ、育てたい力を捉えている。</li> <li>・学習を通して学習者の自信を深め、自己肯定感を高めるという意識を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標に関心・意欲・態度、領域の目標、知識・理解による3点で設定している。</li> <li>・学習者の実態に合わせて指導事項を絞り込んでいる。</li> <li>・単元の目標を達成する手だてとしてふさわしい言語活動を設定している。</li> <li>・単元の目標と関連付けて、各時間の目標を設定している。</li> </ul>
単元(題材)計画 (授業計画)	<p>(学習指導案の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案の重要性や、目標、内容、方法等の指導案の形式の意図を理解し、指導計画を表現している。</li> </ul> <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な到達目標とそのため適切な評価方法を選択・計画している。</li> <li>・自己評価、他者評価等、学習者が学習を改善するための手だてを考えている。</li> </ul>	<p>(単元計画の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者の実態把握→身に付けさせたい言語能力(指導事項)→「指導事項」を指導するのにふさわしい言語活動→教材の選択という順序を意識して単元計画を作成している。</li> <li>・年間指導計画に基づいて指導事項を選定している。</li> <li>・1単元では1領域の指導を行うことを意識して単元計画を作成している。</li> <li>・単元を貫いた言語活動を設定している。</li> </ul> <p>(評価計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に照らして3観点で評価計画を作成している。</li> <li>・言語活動は領域の目標を達成するための手だてであり、目標ではないことを理解している。</li> </ul>
授業の構成	<p>(学習方法・形態の選択・組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を達成するために、学習者の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。</li> <li>・新たな知識・技能・学び方等を発見したり、習得したりする喜びを実感できる授業を行うために、学習方法を改良・開発している。</li> <li>・主体的な探究活動や問題解決を考慮して、授業を組み立てている。</li> <li>・学習者が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。</li> </ul>	<p>(学習内容の構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標、各時間の目標を踏まえて授業を構成している。</li> <li>・各授業の継続性、完結性を意識して単元の授業を構成している。</li> <li>・音読や朗読、暗唱などを積極的に取り入れている。</li> <li>・言語活動例を参考にして、具体的な言語活動を教材に関連させ構想している。</li> <li>・一斉授業、小集団による学習、個別の学習等、様々な授業形態を、授業の目標に照らして効果的に取り入れている。</li> </ul> <p>(教材の選択・構成・開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な教材の収集・蓄積に努めている。</li> <li>・学習者の実態に即し、指導事項を身に付けるのにふさわしい教材を選択している。</li> <li>・学校図書館の活用やICT機器の活用等を適切に取り入れている。</li> </ul> <p>(板書等の計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に即し、授業展開を予測した板書計画や発問計画を立てている。</li> <li>・目標を達成するための有効な働き掛けや個への支援を計画している。</li> </ul>

## D (展開)

## 授業づくり規準 (国語科)

要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (国語科の内容に関わる授業づくりの力)
学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習環境が、学習者の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物や読書用図書、辞書の整備等、教室内の言語環境を整えている。</li> <li>学習者が安心して自分の考えを発言したり、他の学習者の意見を受容したりできる環境を整えている。</li> </ul>
学習への構えや学び方の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し、学習者に意識させている。</li> <li>学習過程や自分の考えをまとめていけるようなノートづくりを指導している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を学ぶ単元(時間)であるのかを学習者に意識させている。</li> <li>辞書や資料の使い方、小集団での話合いの仕方等、必要な技術の定着を図っている。</li> </ul>
個や集団への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>個への対応に具体的な配慮をしている。</li> <li>集団における学習の大切さや、個の発言の集団への影響を意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の学習状況や習熟度に応じた個への支援をしている。</li> </ul>
音声・表情・所作	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し方や表情・所作と学習者の反応との関連を意識している。</li> <li>場面や目的、環境等に応じて、声の大きさ、話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話すこと・聞くこと」の領域目標を理解し、学習者の模範となる話し方、聞き方をしている。</li> </ul>
指導技術	<p>(言葉遣い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の発達の段階に応じた適切な言葉遣いをしている。</li> </ul> <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすい言葉で、端的に説明している。</li> </ul> <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的を意識させながら、どんな行動をすべきかを明確に示している。</li> </ul> <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者が何を問われているか理解できる発問をしている。</li> </ul> <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見やすさを考慮し、視覚的に構造化するなど、工夫しながら丁寧に板書している。</li> <li>学習者の様子を観察しながら、板書している。</li> </ul> <p>(演技・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習場面や教材の特性に応じて、適切であると考える演技をしている。</li> <li>待つ時間や「授業のやまば」等意識して授業を展開している。</li> </ul>	<p>(言語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科固有の用語を正しく使用している。</li> </ul> <p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者のつまづきやすい点を推測し理解が得られるように説明している。</li> </ul> <p>(指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいや学習内容を踏まえ、必要とする場面で指示している。</li> </ul> <p>(発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいを達成するために、学習者の思考を促したり、課題を焦点化したりする発問をしている。</li> </ul> <p>(板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいと学習内容を踏まえ、学習者の思考活動との関係をおさえて板書している。</li> <li>正しい筆順で文字を書いている。</li> </ul> <p>(演示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書写指導に必要な技術を身に付け、学習者に示すことができる。(小・中)</li> <li>区切れやリズムを大切にしたり、学習者の手本となる音読や朗読を示すことができる。</li> </ul> <p>(教材・教具の活用、資料提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者にとって、どのような教材・教具、資料がよいかを考え、活用している。(ICTを含む)</li> </ul>
学習活動における即時的対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の発言や行動を適切に受け止め、達成感、満足感を感じさせている。</li> <li>学習内容に適した評価法を用意し、実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の多様な考えを教材に即して認めている。</li> <li>学習者の様子や授業目標との関係を捉え、指導過程を修正することができる。</li> </ul>

## C・A(評価・改善)

要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等、 各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (国語科等の内容に関わる、国語科固有の授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導と評価の一体化」を意識している。</li> <li>授業によって、学習者がいかに変容したかについて、絶えず関心を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導目標の達成度を評価物等から明らかにしている。</li> <li>指導目標を実現するために、言語活動が有効であったかを検証している。</li> </ul>
改善に向けた手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導の方法の効果について、意識的・具体的に捉え、指導方法の改善に結び付けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P・Dについて振り返り、改善点を具体的に示し、授業改善に生かしている。</li> </ul>



## 「静岡県の授業づくり指針」作成委員会名簿(国語部会)

### 教科部会長名簿

部 会 等	21	22	23	氏 名	所 属	職 名
国 語	○	○	○	江口 尚純	静岡大学教育学部	教 授
社 会	○	○	○	塩川 亮	静岡大学教育学部	教 授
算数/数学	○	○	○	國宗 進	静岡大学教育学部	教 授
理 科	○	○	○	丹沢 哲郎	静岡大学教育学部	教 授
外 国 語	○	○	○	白畑 知彦	静岡大学教育学部	教 授
音 楽	○	○	○	北山 敦康	静岡大学教育学部	教 授
図画工作/美術	○	○	○	登坂 秀雄	静岡大学教育学部	教 授
体育/保健体育	○	○	○	伊藤 宏	静岡大学教育学部	教 授
家庭/技術・家庭	技術	○		須見 尚文	静岡大学教育学部	教 授
			○	紅林 秀治	静岡大学教育学部	教 授
	家庭		○	江口 啓	静岡大学教育学部	准 教 授
		○	○	○	新井 映子	静岡県立大学食品栄養科学部

### 作成委員会国語部会名簿

部 会 等	21	22	23	氏 名	所 属	職 名
国 語	○	○	○	江口 尚純	静岡大学教育学部	教 授
	○			小野 誠	富士市立丘小学校	校 長
	○			窪田由貴子	沼津市立門池小学校	教 諭
	○			山崎 稔宏	袋井市立山名小学校	教 諭
	○			天野 順司	島田市立初倉中学校	教 諭
	○	○	○	高塚 陽子	浜松市教育委員会	指導主事
	○			岡村 寿人	静岡市教育センター	指導主事
		○	○	大瀧 哲広	静岡市教育センター	指導主事
	○			中村 弘志	県総合教育センター	指導主事
	○	○	○	村田 一史	県総合教育センター	指導主事
		○	○	竹下 敦子	県総合教育センター	指導主事
	○	○	○	佐野 文子	県総合教育センター	指導主事
	○	○	○	森谷 幹子	県総合教育センター	指導主事
	○			山田 貞己	県総合教育センター	指導主事
		○	○	中嶋記恵子	県総合教育センター	指導主事
○	○	○	原口 敏夫	県総合教育センター	指導主事	

### 事務局名簿

部 会 等	21	22	23	氏 名	所 属	職 名
委員長	○	○		谷野 純夫	県総合教育センター	参事兼課長
委員長			○	杉山 洋一	県総合教育センター	参事兼課長
委員	○			山田 英子	県教育委員会教育政策課	指導主事
委員	○			山内真理子	県教育委員会学校教育課	主任指導主事
委員		○	○	渡邊 哲也	県教育委員会教育政策課	指導主事
委員		○	○	八木 邦明	県教育委員会学校教育課	指導主事
政令市委員	○	○		高塚 陽子	浜松市教育委員会学校教育部指導課	指導主事
政令市委員	○	○		松永 浩久	静岡市教育委員会教育部学校教育課	指導主事
事務局長	○			勝田 敏勝	県総合教育センター	班長兼主任指導主事
事務局長		○	○	眞木 万平	県総合教育センター	班長兼主任指導主事

所属・職名は、原則として担当当時のものである。

## 静岡県の授業づくり指針

### 国語科

(小学校・中学校)

平成 24 年 3 月発行

編 集 「静岡県の授業づくり指針」作成委員会

発 行 静岡県教育委員会

所 在 地 〒420-8601 静岡市葵区追手町 9 番 6 号

問い合わせ先 静岡県教育委員会 学校教育課 小中学校班

電 話 番 号 054-221-3140

ファクシミリ番号 054-221-3558

静岡県総合教育センター 授業づくり支援課

電 話 番 号 0537-24-9760

ファクシミリ番号 0537-24-9732